

山梨県 ヤングケアラーに関する実態調査 報告書

2025 年 3 月

山梨県

目 次

第 I 章 実態調査概要	1
第 II 章 子ども調査	2
1. 回答者について	2
(1) 性別	2
(2) 学年	3
(3) 居住地	4
(4) 家族構成	5
(5) 自分の健康	6
2. 学校生活などについて	7
(1) 現在、悩んだり困っていること	7
(2) この 1 年間で学校で大人に相談したこと	9
(3) 先生への相談のしやすさ	10
(4) 今の生活への満足度	13
3. ヤングケアラーやヤングケアラーへの支援について	14
(1) 「ヤングケアラー」という言葉の認知状況	14
(2) 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか	15
(3) 学校で「ヤングケアラー」を知った方法	16
(4) 自分が「ヤングケアラー」にあてはまるか	17
(5) 家事や家族のお世話を他の人に助けてもらっているか	20
(6) 相談できる人や場所、相談窓口（電話・SNS など）を知っているか	21
(7) 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援について	22
(8) 友人や周りに「ヤングケアラー」にあてはまる子どもはいるか	27
(9) 「ヤングケアラー」の子どもがいた場合、どうするか	28
(10) 「24 時間電話相談窓口」の認知状況	30
(11) 「相談支援センター（山梨県総合教育センター）」の認知状況	31
(12) 「SNS 相談窓口」の認知状況	32
(13) 「24 時間電話相談窓口」に相談したことがない理由	33
(14) 「相談支援センター」に相談したことがない理由	34
(15) 「SNS 相談窓口（LINE）」に相談したことがない理由	35
(16) 知っている啓発の取組	36
(17) この 1 年間で、自身や周りの人の意識や行動が変わったと思うこと	37
4. ヤングケアラーについて（追加分析）	38
(1) 自身がヤングケアラーか自己認識別の「ヤングケアラー」という言葉の認知状況	38
(2) 自身が「ヤングケアラー」か自己認識別の現在、悩んだり困っていること	39
(3) 自身が「ヤングケアラー」および、自身では「ヤングケアラー」かわからないが「ヤングケアラー」と思われる子ども	41
5. 自由意見	60
第 III 章 県政モニター調査	68
1. 調査について	68
2. 基礎情報	69
(1) 年代	69
(2) 性別	69
(3) 居住地	70

(4)	婚姻状況	70
(5)	子どもの有無	71
(6)	職業	71
(7)	同居家族	72
(8)	同居している 18 歳未満の子ども・孫の年代	73
3.	ヤングケアラーについて	74
(1)	「ヤングケアラー」という言葉の認知状況	74
(2)	「ヤングケアラー」という言葉の認知経路	75
(3)	「ヤングケアラー」と思われる子どもの有無	76
(4)	「ヤングケアラー」と思った理由	77
(5)	身の回りに「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる場合の対応	79
(6)	「ヤングケアラー」と思われる子どもについて相談する機関	80
(7)	「ヤングケアラー」と思われる子どもについて「何もしない」主な理由	81
(8)	山梨県「ヤングケアラー相談窓口」について	82
(9)	ヤングケアラーが相談しやすい環境づくりにつながる仕組みや支援	84
(10)	現在参加している地域活動や市民活動と、ヤングケアラーとの関わり	85
(11)	地域活動や市民活動の、ヤングケアラーとの関わり方	86
(12)	地域活動や市民活動においてヤングケアラー支援を行うために、必要な行政からの支援	87
(13)	今後、参加している活動の中で、ヤングケアラー支援のためにできること	88
(14)	今後、活動の中でヤングケアラー支援を行うために必要な行政からの支援	89
(15)	ヤングケアラーに対して必要だと思われる支援	90
(16)	「ヤングケアラー」支援のためにできること	92
(17)	「山梨コネクトヤングケアラー」の視聴の有無	93
(18)	啓発活動として効果があると思われる取組	94
(19)	ヤングケアラーの印象や「ヤングケアラー」の支援に必要なと思われること（自由記述）	95

第 IV 章 調査のとりまとめ・考察..... 98

1.	各調査のとりまとめ	98
(1)	子ども調査	98
(2)	県政モニター調査	100
2.	考察	101

第I章 実態調査概要

ヤングケアラーの実態や認知度等の状況を把握するため、下記のような対象に実態調査を行った。

	子ども調査	県政モニター調査
対象	県内の学校に通う小学6年生、中学生、高校生	モニター調査会社に登録している県内在住の方
調査の概要	県内の学校に在籍する対象者全員に対して、ヤングケアラーの実態や認知度などを把握	ヤングケアラーの認知度や日常の地域活動等でのヤングケアラーへの関わりや今後の関わり意向等を把握
調査方法	学校にて Web 調査	Web 調査
調査時期	令和6年9月10日～10月18日	令和6年9月13日～9月17日
対象者	約 53,000 人	400 人
有効回答数	合計 22,737 人 (内訳) 小学6年生 4,292 人 中学生 10,939 人 高校生(全日制) 6,781 人 高校生(定時制) 543 人 高校生(通信制) 137 人 ※合計には不明が含まれる	400 人

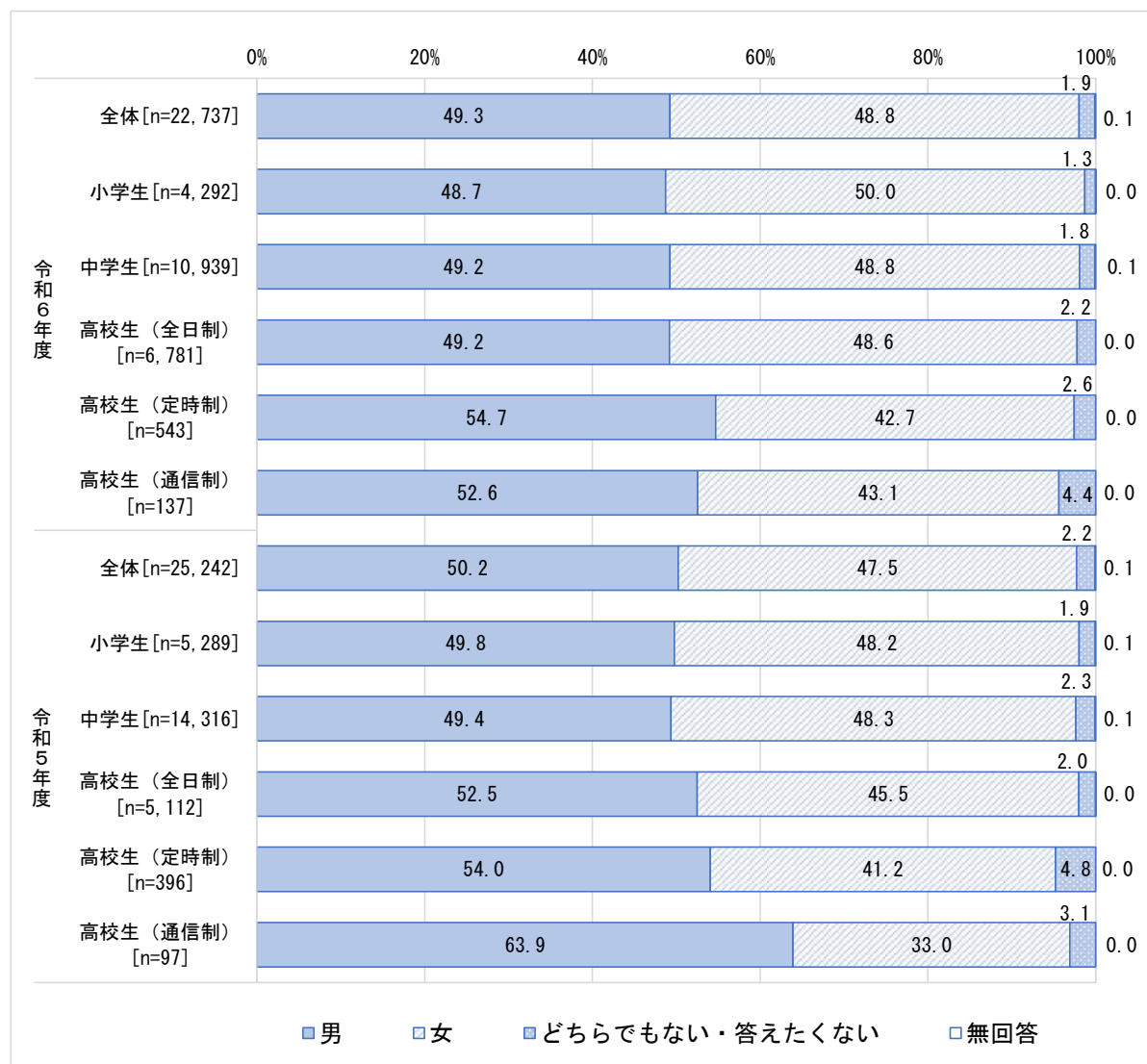
第II章 子ども調査

1. 回答者について

(1) 性別

性別は、男女ほぼ半数ずつとなっている。

図表 1 性別

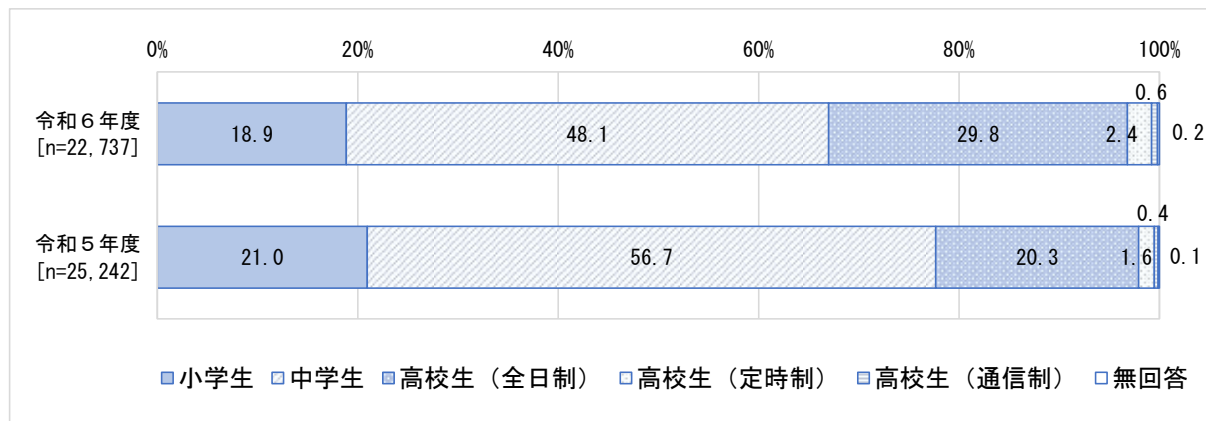


※全体には学年不明が含まれる。以下のグラフ、表は同様

(2) 学年

学年は、「中学生」が 48.1%と最も高く、次いで「高校生（全日制）」（29.8%）、「小学生」（18.9%）などとなっている。

図表 2 学年



(3) 居住地

居住地は、以下のとおり。

図表 3 居住市町村

(%)

	全体 (n=)	甲府市	富士吉田市	都留市	山梨市	大月市	韮崎市	南アルプス市	北杜市	甲斐市
全体	22,737	17.8	7.7	4.1	4.9	2.9	2.6	9.1	5.6	7.1
小学生	4,292	14.4	7.9	3.5	4.6	2.4	3.0	9.1	5.8	11.0
中学生	10,939	17.7	8.4	4.3	6.0	3.2	1.9	9.7	6.5	4.9
高校生 (全日制)	6,781	19.8	6.8	4.4	3.5	2.8	3.5	8.4	4.2	8.0
高校生 (定時制)	543	22.5	5.3	2.6	2.4	2.0	4.6	8.1	4.2	8.7
高校生 (通信制)	137	22.6	7.3	4.4	3.6	0.7	2.9	4.4	2.9	11.7

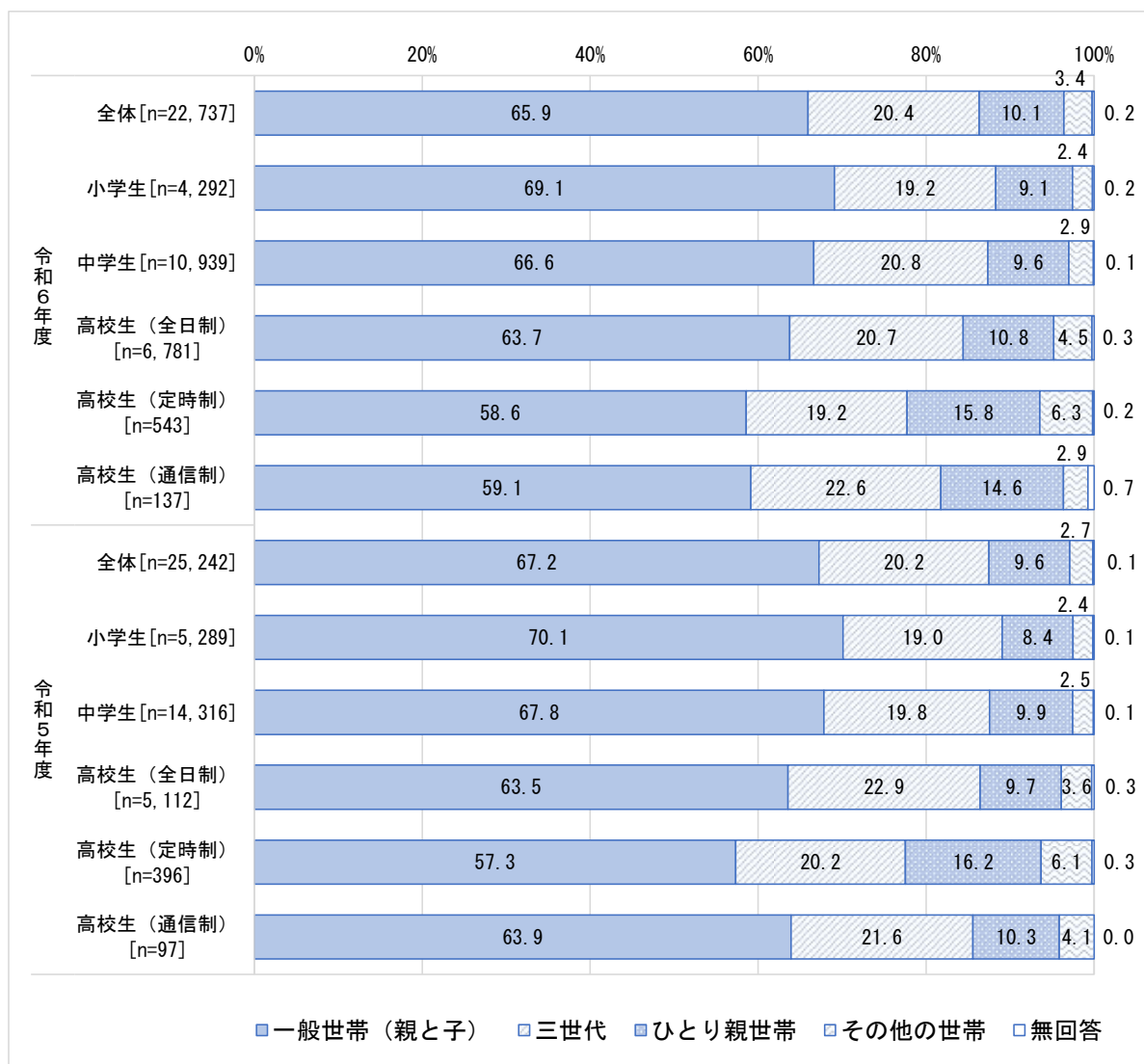
	笛吹市	上野原市	甲州市	中央市	市川三郷町	早川町	身延町	南部町	富士川町	昭和町
全体	5.6	2.8	4.2	3.8	1.7	0.0	1.1	0.4	1.9	3.9
小学生	7.7	1.4	4.2	5.4	1.7	0.2	0.7	0.7	1.3	4.4
中学生	4.4	2.8	5.0	4.0	2.1	0.0	1.3	0.0	2.5	4.9
高校生 (全日制)	6.1	3.6	3.0	2.4	1.2	0.0	1.2	0.7	1.2	2.3
高校生 (定時制)	7.7	1.7	3.3	3.9	1.3	0.0	0.6	0.4	0.7	2.4
高校生 (通信制)	9.5	5.8	3.6	1.5	0.7	0.0	0.7	0.0	3.6	2.2

	道志村	西桂町	忍野村	山中湖村	鳴沢村	富士河口湖町	小菅村	丹波村	県外	無回答
全体	0.2	0.4	1.9	0.3	0.5	4.7	0.1	0.0	2.7	1.8
小学生	0.1	0.1	1.8	0.2	0.7	5.1	0.1	0.0	0.0	2.7
中学生	0.2	0.3	2.4	0.1	0.5	5.2	0.1	0.0	0.1	1.3
高校生 (全日制)	0.1	0.6	1.3	0.5	0.5	3.9	0.1	0.0	8.2	1.8
高校生 (定時制)	0.2	0.2	0.7	0.4	0.2	5.0	0.0	0.0	7.2	3.9
高校生 (通信制)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	8.0	0.0

(4) 家族構成

家族構成について、「一般世帯（親と子）」がどの学年でも最も高くなっている。

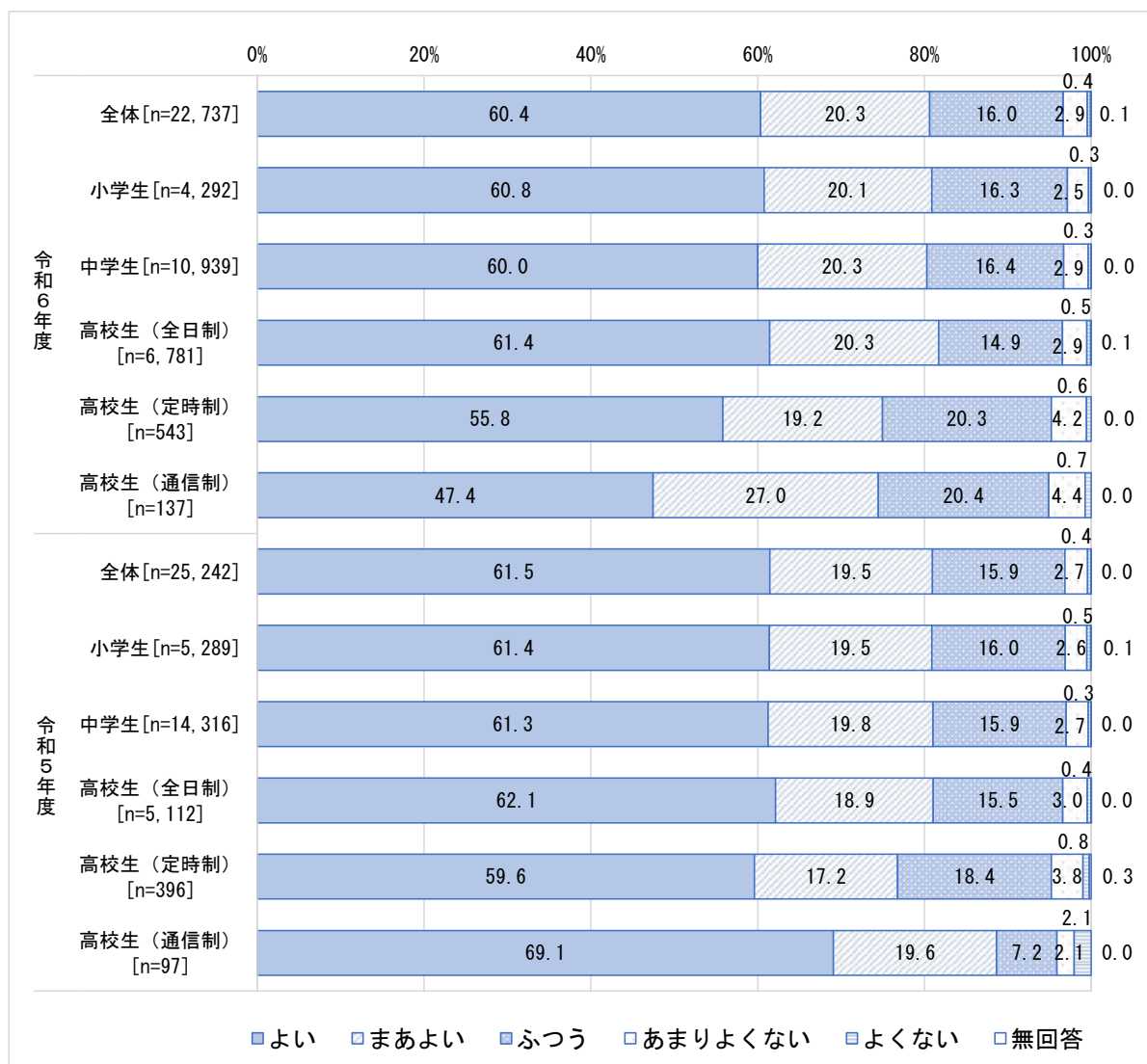
図表 4 家族構成（複数回答）



(5) 自分の健康

健康について、どの学年も「よい」と「まあよい」を合わせて8割前後となっている。

図表 5 自分の健康



2. 学校生活などについて

(1) 現在、悩んだり困っていること

現在、悩んだり困っていることは、小学生では「特にない」が 53.1%で最も高く、次いで「勉強のこと（学校の成績など）」（21.3%）、「しょうらいの夢や進路のこと」（21.2%）などとなっている。

中学生では「勉強のこと（学校の成績など）」が 49.7%で最も高く、次いで「特にない」（36.1%）、「しょうらいの夢や進路のこと」（35.9%）などとなっている。

高校生（全日制）では「しょうらいの夢や進路のこと」（46.0%）、「勉強のこと（学校の成績など）」（42.3%）が高く、次いで「特にない」（33.4%）などとなっている。

高校生（定時制）では「しょうらいの夢や進路のこと」（41.3%）が最も高く、次いで「特にない」（38.9%）、「勉強のこと（学校の成績など）」（34.6%）などとなっている。

高校生（通信制）では「しょうらいの夢や進路のこと」（47.4%）が最も高く、次いで「勉強のこと（学校の成績など）」（43.8%）、「特にない」（38.0%）などとなっている。

図表 6 現在、悩んだり困っていること（複数回答） (%)

	全体 (n=)	友人との関係のこと	勉強のこと（学校の成績など）	しょうらいの夢や進路のこと	部活動のこと	じゆくや習い事ができないこと	学校に支払うお金のこと（学費、集金など）	家庭のお金のこと（食べ物を買うお金や必要なものを買うお金がたりないことなど）
全体	22,737	16.3	41.7	36.3	11.2	1.4	2.2	2.2
小学生	4,292	18.4	21.3	21.2	7.1	1.9	0.8	1.7
中学生	10,939	16.7	49.7	35.9	11.2	1.6	1.3	1.7
高校生(全日制)	6,781	15.0	42.3	46.0	14.0	0.7	4.3	3.1
高校生(定時制)	543	9.8	34.6	41.3	9.2	0.9	3.7	4.1
高校生(通信制)	137	16.1	43.8	47.4	10.9	1.5	5.1	4.4

	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）	病気や障がいのある家族のこと	家族の通訳のこと	自分のために使える時間が少ない	その他	特にない	無回答
全体	4.7	3.4	1.1	0.3	3.1	1.3	38.6	1.5
小学生	5.0	3.6	1.2	0.2	3.3	2.0	53.1	2.2
中学生	4.9	3.4	0.9	0.2	2.7	1.2	36.1	1.4
高校生(全日制)	4.1	3.2	1.3	0.3	3.6	1.0	33.4	1.0
高校生(定時制)	6.6	3.3	1.1	0.9	4.6	1.8	38.9	0.9
高校生(通信制)	2.9	5.8	2.9	0.7	5.8	2.9	38.0	0.0

図表 7 現在、悩んだり困っていること（複数回答）【令和5年度】

（％）

	全体 (n=)	友人との関係のこと	勉強のこと(学校の成績など)	しょうらいの夢や進路のこと	部活動のこと	じゆくや習い事ができないこと	学校に支払うお金のこと(学費、集金など)	家庭のお金のこと (食べ物を買うお金や必要なものを買うお金がたりないことなど)
全体	25,242	17.0	42.5	35.7	12.5	1.3	2.7	2.4
小学生	5,289	19.2	29.0	24.4	15.5	1.7	2.5	2.4
中学生	14,316	18.1	49.1	37.0	11.1	1.4	1.9	2.2
高校生(全日制)	5,112	11.9	38.7	43.5	13.4	0.5	4.7	3.0
高校生(定時制)	396	12.9	33.8	40.9	9.8	1.5	6.3	6.1
高校生(通信制)	97	15.5	43.3	30.9	12.4	2.1	4.1	5.2

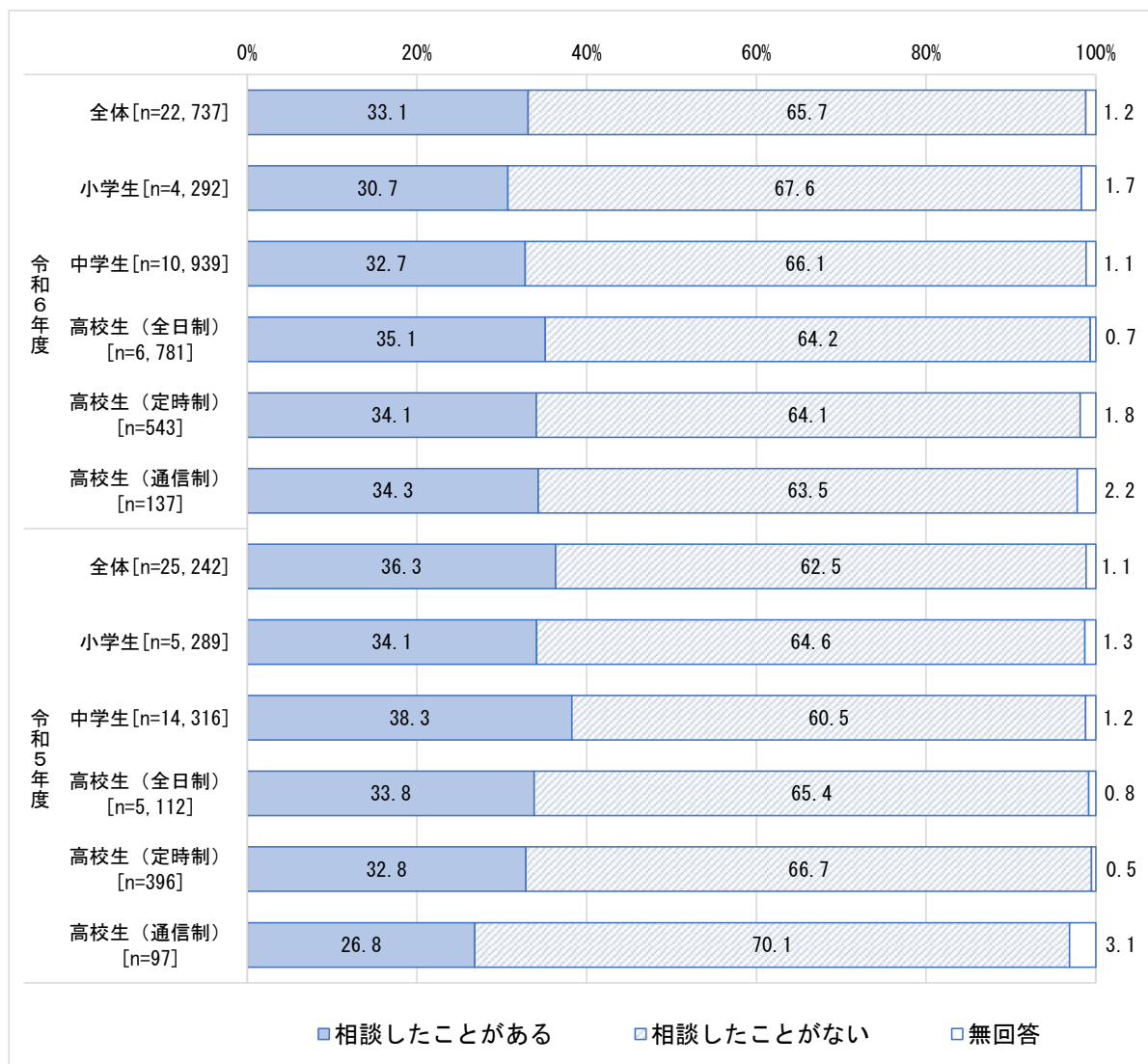
	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)	病気や障がいのある家族のこと	家族の通訳のこと	自分のために使える時間が少ない	その他	特にない	無回答
全体	5.1	3.7	1.4	0.2	2.8	1.5	38.4	1.8
小学生	5.2	3.7	1.7	0.4	2.9	1.9	47.1	1.6
中学生	5.6	3.9	1.3	0.2	2.6	1.3	35.7	2.1
高校生(全日制)	3.5	3.2	1.1	0.1	3.3	1.7	37.1	1.2
高校生(定時制)	6.6	4.5	1.8	0.3	4.0	1.3	39.4	0.8
高校生(通信制)	8.2	4.1	1.0	1.0	6.2	4.1	38.1	4.1

（２） この１年間で学校で大人に相談したこと

この１年間で、悩んだり困ったりしていることなどについて、学校で大人（先生など）に「相談したことがある」のは、小学生で 30.7%、中学生で 32.7%、高校生（全日制）で 35.1%、高校生（定時制）で 34.1%、高校生（通信制）で 34.3%となっている。学年が上がるにつれ、やや高くなっている。

令和５年度と比較すると、「相談したことがある」は、中学生で 5.6 ポイント減少している。

図表 ８ この１年間で学校で大人に相談したこと

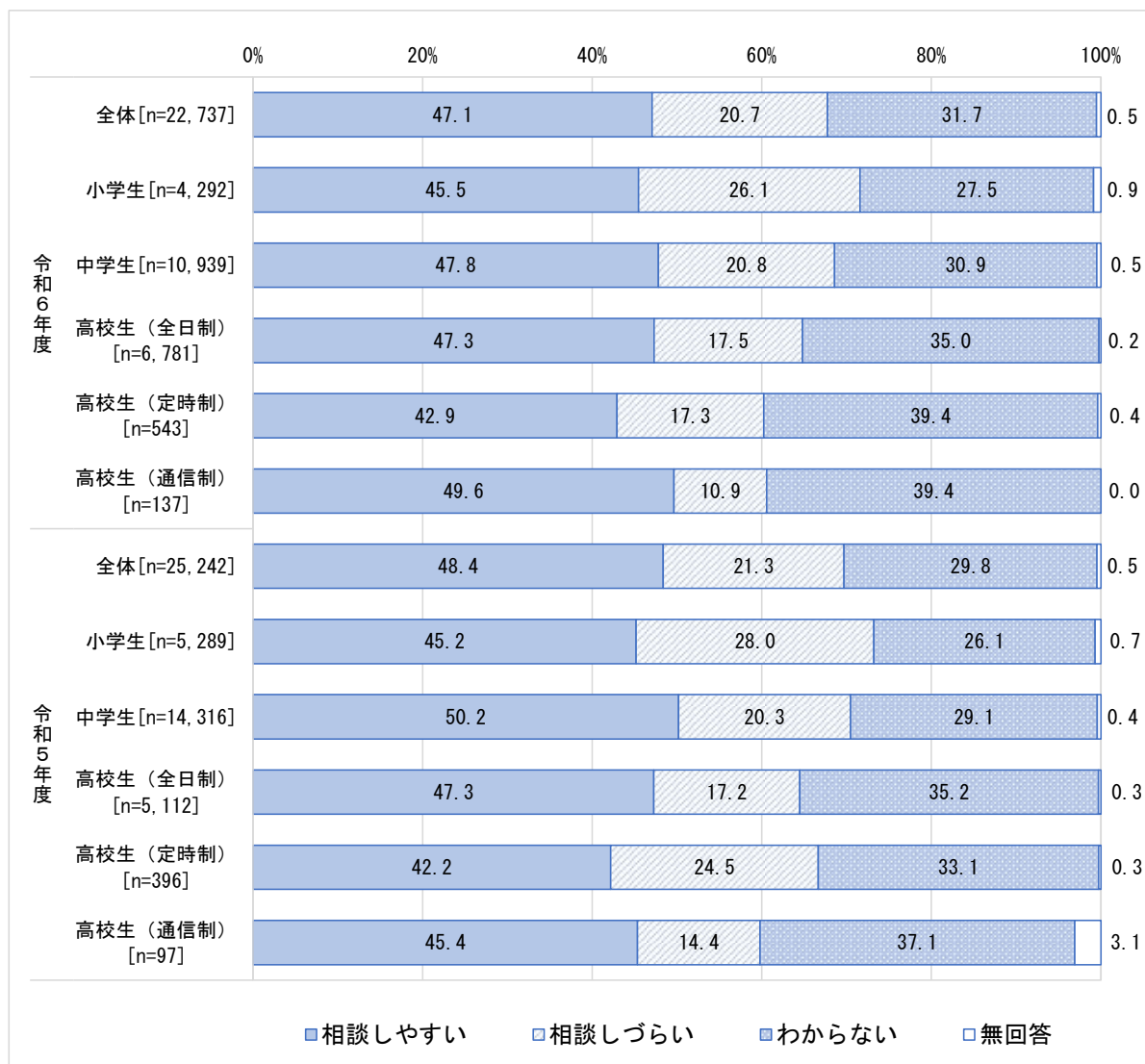


(3) 先生への相談のしやすさ

先生への相談のしやすさについて、「担任の先生」に「相談しやすい」のは、小学生で 45.5%、中学生で 47.8%、高校生（全日制）で 47.3%、高校生（通信制）で 49.6%となっている。一方、高校生（定時制）では 42.9%と他に比べて低くなっている。

令和 5 年度と比較すると、高校生（定時制）で「相談しづらい」が 7.2 ポイント減少している。

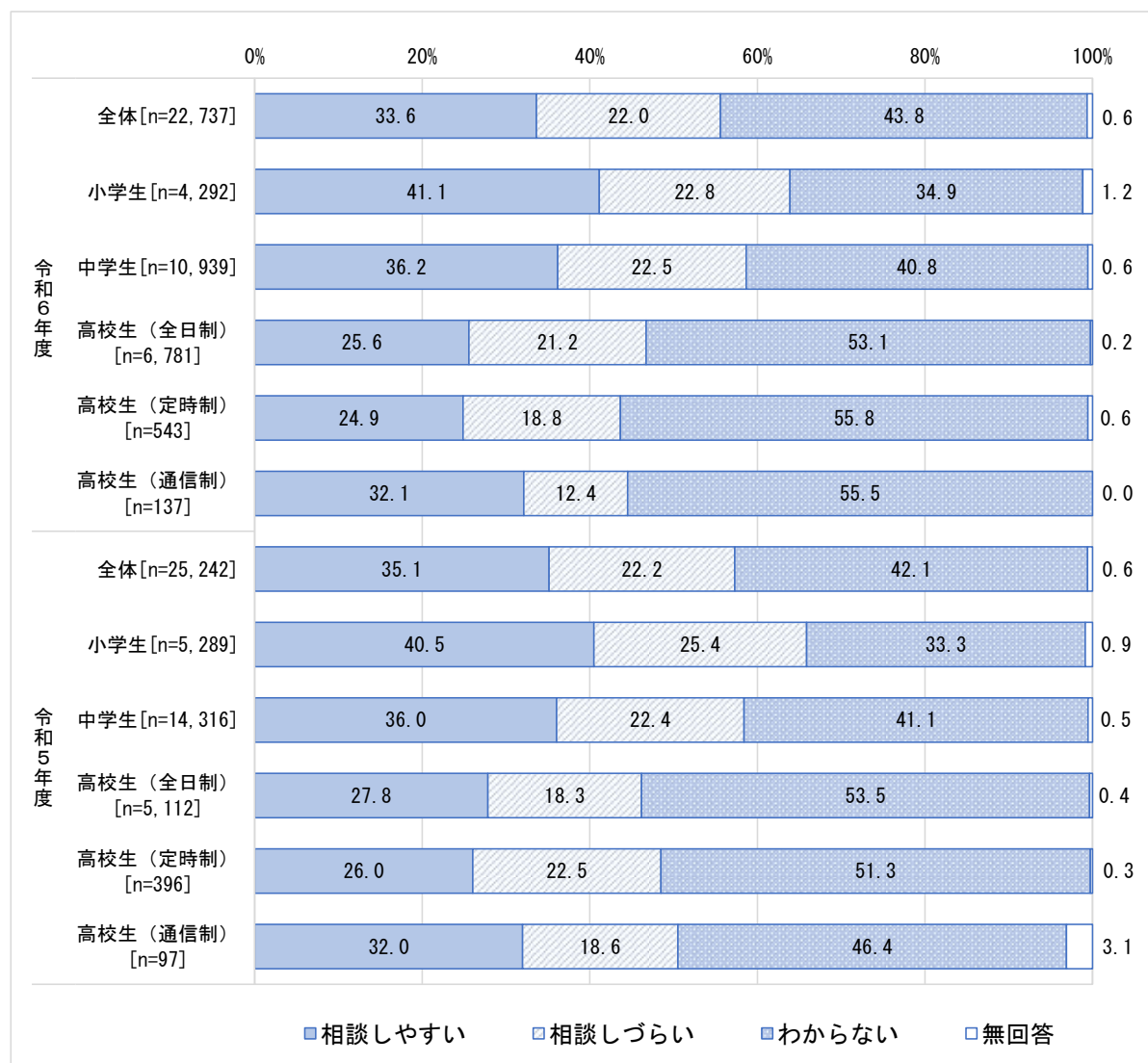
図表 9 先生への相談のしやすさ <担任の先生>



「保健室の先生」に「相談しやすい」のは、小学生で 41.1%、中学生で 36.2%、高校生（通信制）は 32.1%であるが、高校生（全日制）は 25.6%、高校生（定時制）は 24.9%と全体よりも低い。「わからない」は高校生で 5 割を超えている。

令和 5 年度と比較すると、高校生（通信制）で「相談しづらい」が 6.2 ポイント減少している。

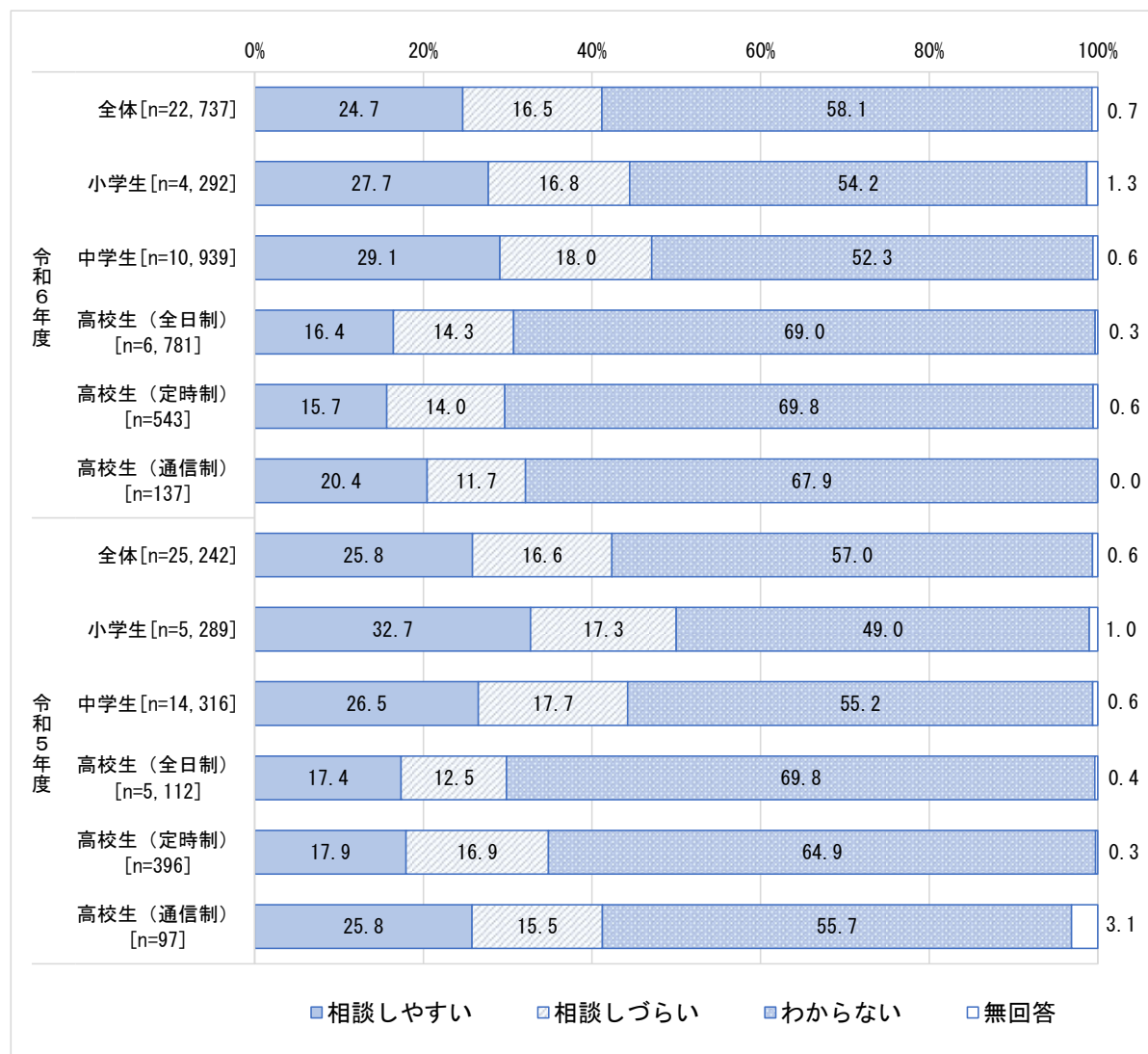
図表 10 先生への相談のしやすさ <保健室の先生(養護教諭)>



「カウンセラーの先生」に「相談しやすい」のは、小学生で 27.7%、中学生で 29.1%、高校生（通信制）で 20.4%となっている。高校生（全日制）は 16.4%、高校生（定時制）は 15.7%と、全体よりも低くなっている。「わからない」の割合が小中学生で 5 割を超え、高校生では 7 割近くになっている。

令和 5 年度と比較すると、「相談しやすい」が小学生と高校生（通信制）で約 5 ポイント減少している。

図表 11 先生への相談のしやすさ <カウンセラーの先生>



(4) 今の生活への満足度

今の生活（学校生活や家族のことを含めて）にどのくらい満足しているかについて、たいへん満足を10点、まったく満足していないを0点として聞いたところ、小学生、中学生、高校生（定時制）、高校生（通信制）では「10点」が、高校生（全日制）では「8点」が最も高くなっている。

図表 12 今の生活への満足度

(%)

	全体 (n=)	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	平均	標準偏差
全体	22,737	0.7	0.5	1.0	2.5	4.0	9.9	8.5	14.7	20.4	13.8	23.8	0.2	7.6	2.1
小学生	4,292	0.7	0.6	0.7	2.1	3.2	7.1	6.1	11.3	18.5	17.4	32.3	0.1	8.0	2.1
中学生	10,939	0.6	0.4	0.9	2.4	3.8	9.0	7.6	14.6	20.9	15.2	24.4	0.1	7.7	2.1
高校生 (全日制)	6,781	0.9	0.5	1.2	2.8	4.5	12.7	11.5	17.2	21.0	9.8	17.9	0.1	7.2	2.1
高校生 (定時制)	543	1.7	1.1	2.4	3.1	7.4	16.8	9.2	12.7	16.9	8.5	20.1	0.2	6.9	2.5
高校生 (通信制)	137	0.7	1.5	2.2	2.9	5.8	10.9	8.8	14.6	19.7	6.6	26.3	0.0	7.3	2.4

図表 13 今の生活への満足度【令和5年度】

(%)

	全体 (n=)	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	平均	標準偏差
全体	25,242	0.7	0.5	1.1	2.5	3.9	10.0	7.7	14.7	20.7	14.1	24.0	0.1	7.6	2.2
小学生	5,289	0.8	0.5	1.0	2.0	3.2	7.0	5.6	11.4	19.2	17.4	31.7	0.2	8.0	2.1
中学生	14,316	0.7	0.5	1.0	2.3	3.8	9.8	7.6	14.8	20.8	14.8	23.7	0.1	7.6	2.1
高校生 (全日制)	5,112	0.7	0.6	1.2	3.2	4.5	13.5	10.2	17.7	21.9	9.5	16.9	0.2	7.1	2.1
高校生 (定時制)	396	1.8	1.0	1.8	3.5	6.8	13.4	9.3	14.1	21.0	7.3	19.4	0.5	7.0	2.4
高校生 (通信制)	97	5.2	0.0	0.0	4.1	3.1	3.1	8.2	21.6	14.4	13.4	26.8	0.0	7.5	2.6

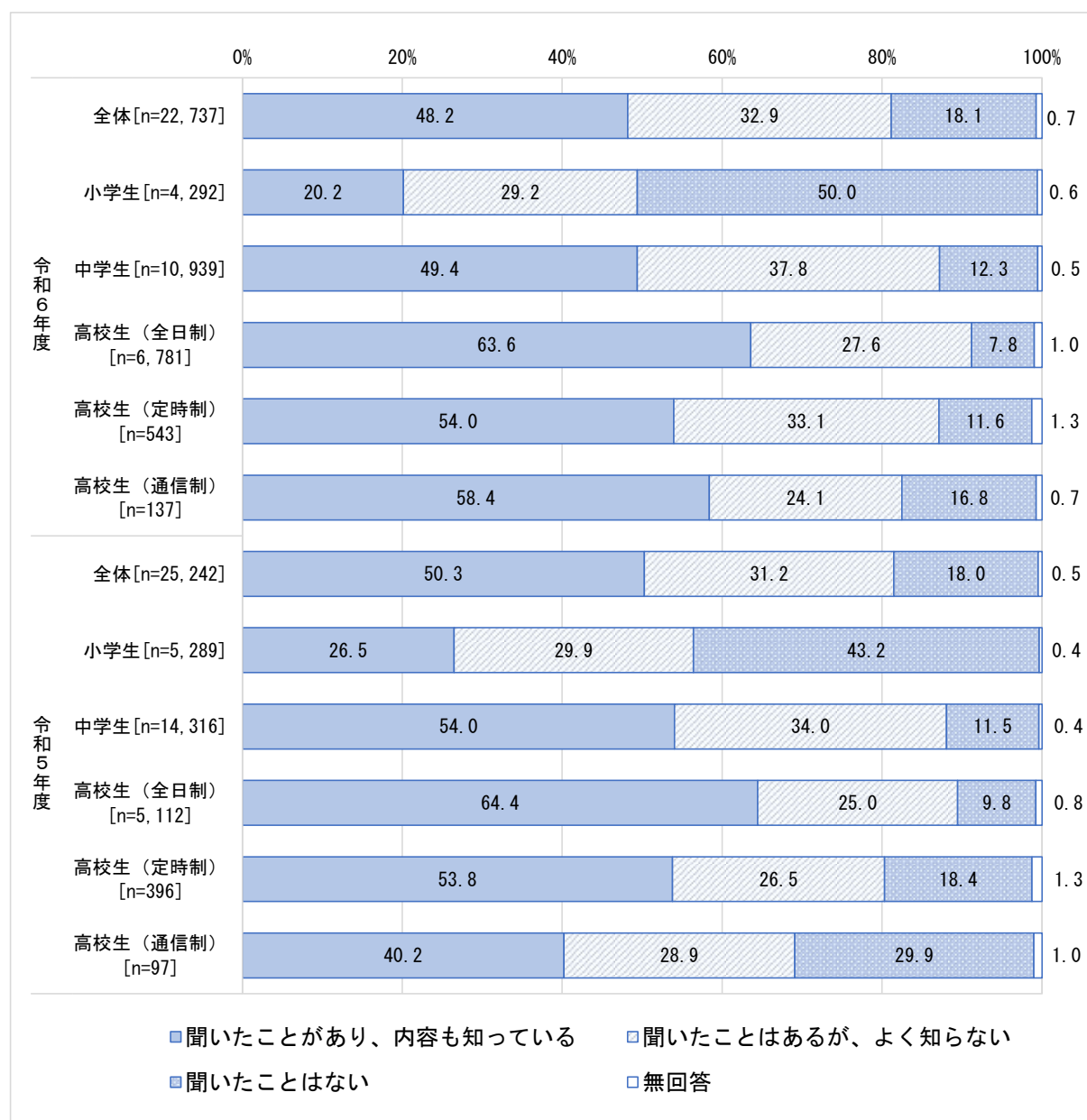
3. ヤングケアラーやヤングケアラーへの支援について

(1) 「ヤングケアラー」という言葉の認知状況

「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあるかについて、「聞いたことがあり、内容も知っている」は、中学生で 49.4%、高校生（全日制）で 63.6%、高校生（定時制）で 54.0%、高校生（通信制）で 58.4%となっている。一方、小学生では 20.2%と他と比べて低くなっている。

令和 5 年度と比較すると、「聞いたことがあり、内容も知っている」は、小学生で 6.3 ポイント減少し、高校生（通信制）では 18.2 ポイント増加している。

図表 14 「ヤングケアラー」という言葉の認知状況



(2) 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか

「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに「聞いたことがあり、内容も知っている」、「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した子どもに「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか聞いたところ、小学生では、「テレビ」が最も高く、次いで「学校」、「チラシや掲示物」となっている。中学生と高校生では、「学校」が最も高く、次いで「テレビ」、「SNS」となっている。

令和5年度と比較すると、ほとんどの学年も、「テレビ」が減少し、「学校」が増加している。

図表 15 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか（複数回答） (%)

	全体 (n=)	テレビ	新聞	ラジオ	雑誌や本	チラシや掲示物	イベントや交流会	学校	インターネットのホームページ	SNS	友人・知人から聞いた	その他	無回答
全体	18,448	55.9	10.4	2.5	8.7	14.6	1.9	66.0	8.8	22.2	5.7	1.6	1.3
小学生	2,119	59.8	10.1	2.8	10.6	15.9	1.4	40.2	11.4	15.9	9.1	3.9	1.0
中学生	9,539	54.1	9.1	2.2	8.0	14.9	1.5	68.4	9.3	22.1	6.0	1.5	1.1
高校生(全日制)	6,185	57.4	12.5	2.8	9.2	14.0	2.5	71.0	7.2	24.1	4.1	1.0	1.6
高校生(定時制)	473	54.1	10.8	3.0	9.3	14.2	2.7	67.4	6.1	26.0	6.1	0.6	0.8
高校生(通信制)	113	54.0	16.8	3.5	8.8	8.8	0.9	64.6	12.4	29.2	3.5	1.8	3.5

図表 16 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか（複数回答）【令和5年度】 (%)

	全体 (n=)	テレビ	新聞	ラジオ	雑誌や本	チラシや掲示物	イベントや交流会	学校	インターネットのホームページ	SNS	友人・知人から聞いた	その他	無回答
全体	20,565	64.9	12.4	2.9	9.6	15.0	2.1	59.3	9.3	23.4	6.5	2.1	1.4
小学生	2,983	73.1	12.2	3.6	10.9	14.7	1.4	28.9	12.1	20.3	10.5	4.5	1.1
中学生	12,606	63.7	11.9	2.7	9.7	15.7	1.8	63.2	9.4	23.3	6.3	1.9	1.3
高校生(全日制)	4,572	63.3	13.7	2.8	8.9	13.7	3.3	68.0	7.3	25.3	4.5	1.2	1.6
高校生(定時制)	318	61.9	11.9	1.9	5.0	12.3	2.8	65.7	6.9	29.6	6.0	2.5	0.6
高校生(通信制)	67	55.2	4.5	3.0	4.5	16.4	3.0	65.7	7.5	17.9	6.0	1.5	1.5

(3) 学校で「ヤングケアラー」を知った方法

「ヤングケアラー」という言葉を「学校」で知ったと回答した子どもに、「学校」ではどのような方法で「ヤングケアラー」という言葉を知ったか聞いたところ、小学生と中学生で「ヤングケアラーについてのアンケート」、高校生（全日制）と高校生（定時制）で「配布されたチラシ」、高校生（通信制）で「授業」が最も高くなっている。

令和5年度と比較すると、全体的に減少傾向にあるが、特に高校生（全日制）を除き「授業」が、小学生を除き「配布されたチラシ」が減少している。

図表 17 学校で「ヤングケアラー」を知った方法（複数回答）（％）

	全体 (nⅡ)	授業	集会	配布された チラシ	掲示物	ヤングケアラーに ついてのアンケート	その他	無回答
全体	12,168	36.3	12.4	44.6	14.6	54.9	1.1	1.0
小学生	852	33.8	1.8	34.3	14.1	44.0	2.2	2.2
中学生	6,527	32.0	7.9	42.6	12.2	64.2	1.2	0.8
高校生(全日制)	4,389	42.7	20.4	49.1	18.0	44.3	0.7	1.0
高校生(定時制)	319	43.6	20.4	51.4	19.4	41.1	2.2	0.3
高校生(通信制)	73	46.6	15.1	38.4	15.1	42.5	1.4	0.0

※「ヤングケアラーについてのアンケート」は今年度からの項目

図表 18 学校で「ヤングケアラー」を知った方法（複数回答）【令和5年度】（％）

	全体 (nⅡ)	授業	集会	配布された チラシ	掲示物		その他	無回答
全体	12,205	42.4	14.6	56.4	16.8		6.6	1.5
小学生	862	48.7	3.7	37.2	19.8		11.0	2.0
中学生	7,971	41.1	11.6	57.8	15.4		7.8	1.6
高校生（全日制）	3,110	42.7	24.8	58.3	19.1		2.6	1.1
高校生（定時制）	209	51.2	22.5	56.0	20.6		1.9	1.9
高校生（通信制）	44	61.4	20.5	50.0	22.7		6.8	0.0

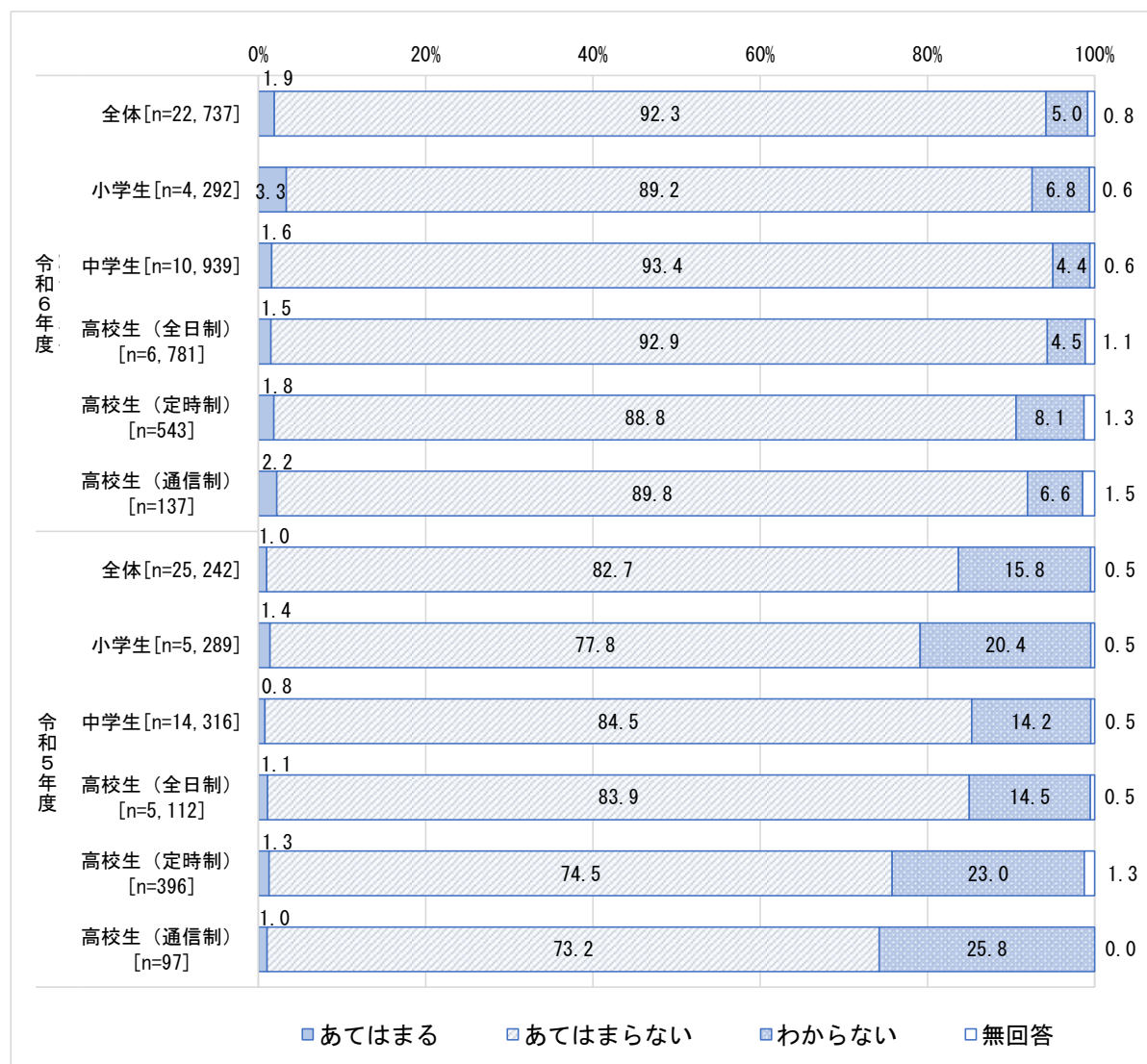
(4) 自分が「ヤングケアラー」にあてはまるか

自分が「ヤングケアラー」にあてはまると思うか聞いたところ、全体では「あてはまる」が 1.9%、「あてはまらない」が 92.3%、「わからない」が 5.0%となっている。

「あてはまる」は小学生で 3.3%、中学生で 1.6%、高校生（全日制）で 1.5%、高校生（定時制）で 1.8%、高校生（通信制）で 2.2%となっている。

令和 5 年度と比べると、「わからない」が減少している。

図表 19 自分が「ヤングケアラー」にあてはまるか



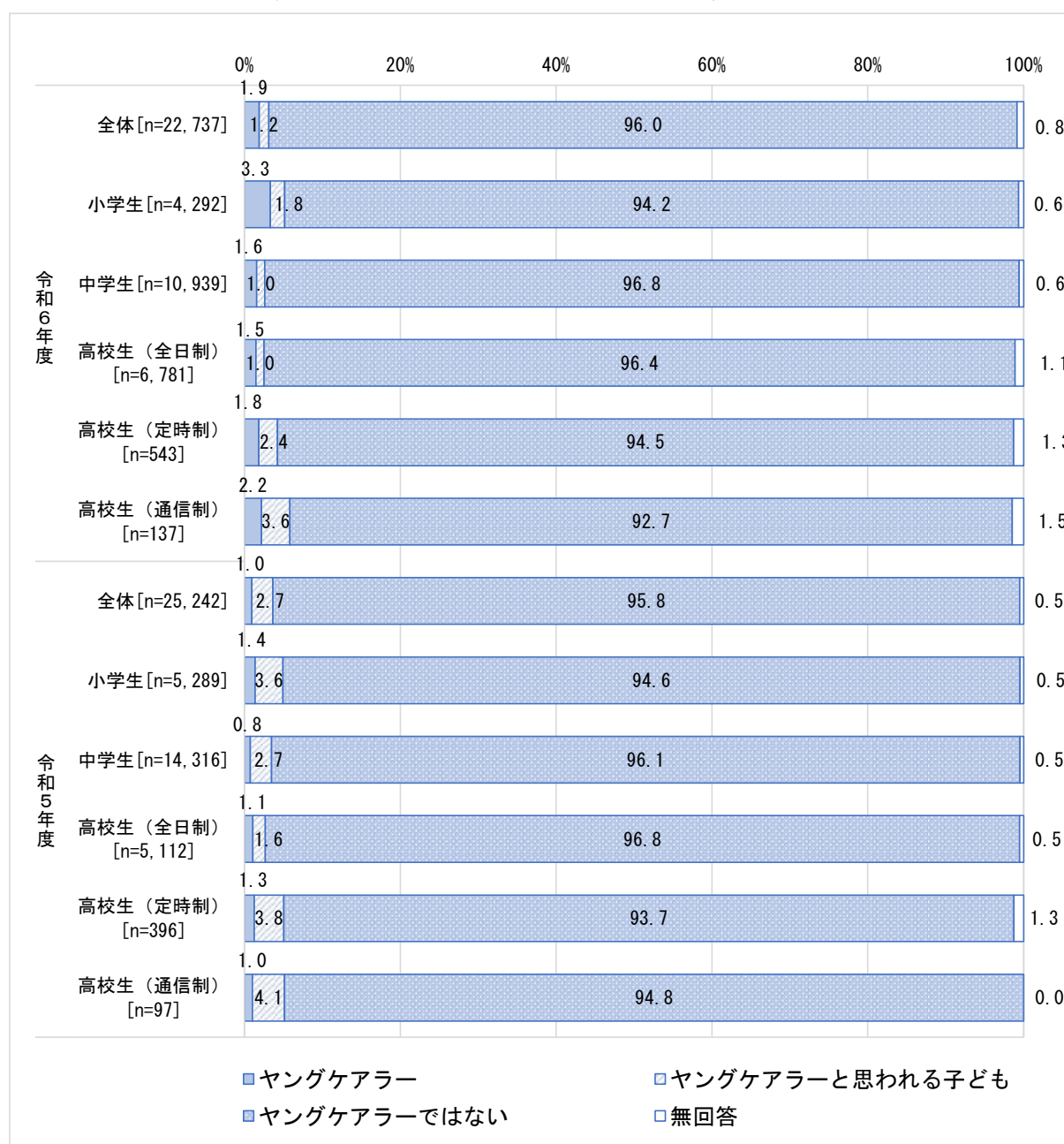
自分が「ヤングケアラー」にあてはまるかどうか「わからない」と回答した人にその理由を聞いたところ、以下のような意見が挙げられた。

項目	主な意見(抜粋)
ヤングケアラーについての理解	・「ヤングケアラー」がわからない、理解出来ていない ・基準、定義がわからない ・手伝いとの違いがわからない ・必要以上の世話がどこまでかわからない ・「必要以上に」の基準が分からないから ・イラストを見ても当てはまっているかわからない
きょうだいのお世話	・兄弟の面倒を見ていることがあるけど、苦痛ではないから。 ・弟の世話や家事はしているけど、授業や宿題に影響がないから ・弟、妹の世話は、手伝いとしてやってと言われているから ・兄弟の世話や家の手伝いを毎日している(風呂掃除、玄関掃除 etc…)
病気や障がいのある家族	・障がいを持つ姉がいて、その面倒を見ることがあるから ・母が病気だが父と協力してるので1人の時間や自由はあるからどっちかわからない ・糖尿病のおばあちゃんの世話をしているから ・認知症の祖母祖父の手伝い、代わりに家事をすることがある ・障がいのある親がいるが、あてはまるかわからない ・障がいを持つ祖母や姉がいて、祖母の認知症などでも身の回りの世話を家族でしている ・昔は障がいの母がいて介護していたが、今は母が亡くなり、祖母を介助している ・学校から帰ってきたら母と交代で祖母の介護をしているが、ただの手伝いだと感じるから。
家事	・ご飯の支度や家事は子供がやっているが家族は病気などではない ・親は病気ではないけれど、家事は自分がしているから ・親が祖父の介護をしていて自分は家事をしているから ・両親が共働きで、ある程度の家事や洗濯などをしているがその分両親には感謝をされているから ・毎日家の事をやらされて、テスト勉強が出来なかったり自分の好きな時間が少しずつ奪われている感じがする
ひとり親家庭	・母子家庭で家事や妹のことをよく面倒を見るが、自分の時間もある ・ひとり親で夜遅くまで仕事で帰ってこれないことも多く、幼い弟の面倒を見ることもが、毎日ではないからわからない ・別に家族の世話をしているわけではないが、片親のため、家事をしなければならず、勉強時間が削られているから ・母子家庭で家事は日によって変わるから(平日はだいたい自分達で全部する) ・去年母が亡くなり家事の手伝いをするようになったため勉強時間が短くなった ・母子家庭でお母さんが仕事を頑張ってくれている間、学校から帰ってきて洗濯物を畳んだりお風呂を沸かしたり、身体障害者の祖父のご飯の用意をしているがこれがヤングケアラーに当てはまるのかわからないから
その他	・私には、自由な”時間”はあるが、家には経済的に余裕がなくて、学校へ提出するべきである集金などが間に合わなかったり、余裕にご飯を食べられない。親は日本語があまりわからないから紙とかを説明するのに時間がかかる ・自分の家庭が他の家庭と同じだと思ってるが、「ヤングケアラー」の説明を見てほとんどが自分に当てはまってるけど自分はそうじゃないと思ってるから ・自分が苦勞してるかわからないから ・ヤングケアラーとは言えないと思うけど、家族のことで結構自分の負担になっている ・日本語の通訳と家庭の関係以外普通に暮らせてるから

自身が「ヤングケアラー」に「あてはまる」と回答した子どもを「ヤングケアラー」とし、「わからない」と回答した子どものうち、現在悩んだり困っていることとして、「自分と家族との関係のこと」「家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）」「病気や障がいのある家族のこと」「家族の通訳のこと」「自分のために使える時間が少ない」のいずれか 1 つ以上選んだ子どもを「ヤングケアラーと思われる子ども」（詳細は次節の「ヤングケアラーについて（追加分析）」を参照）、それ以外を「ヤングケアラーではない」とする。「ヤングケアラーと思われる子ども」は、全体では 1.2%、小学生では 1.8%、中学生と高校生（全日制）では 1.0%、高校生（定時制）では 2.4%、高校生（通信制）では 3.6%となっている。

令和 5 年度と比べると、全体的に減少している。

図表 20 ヤングケアラー・ヤングケアラーと思われる子ども

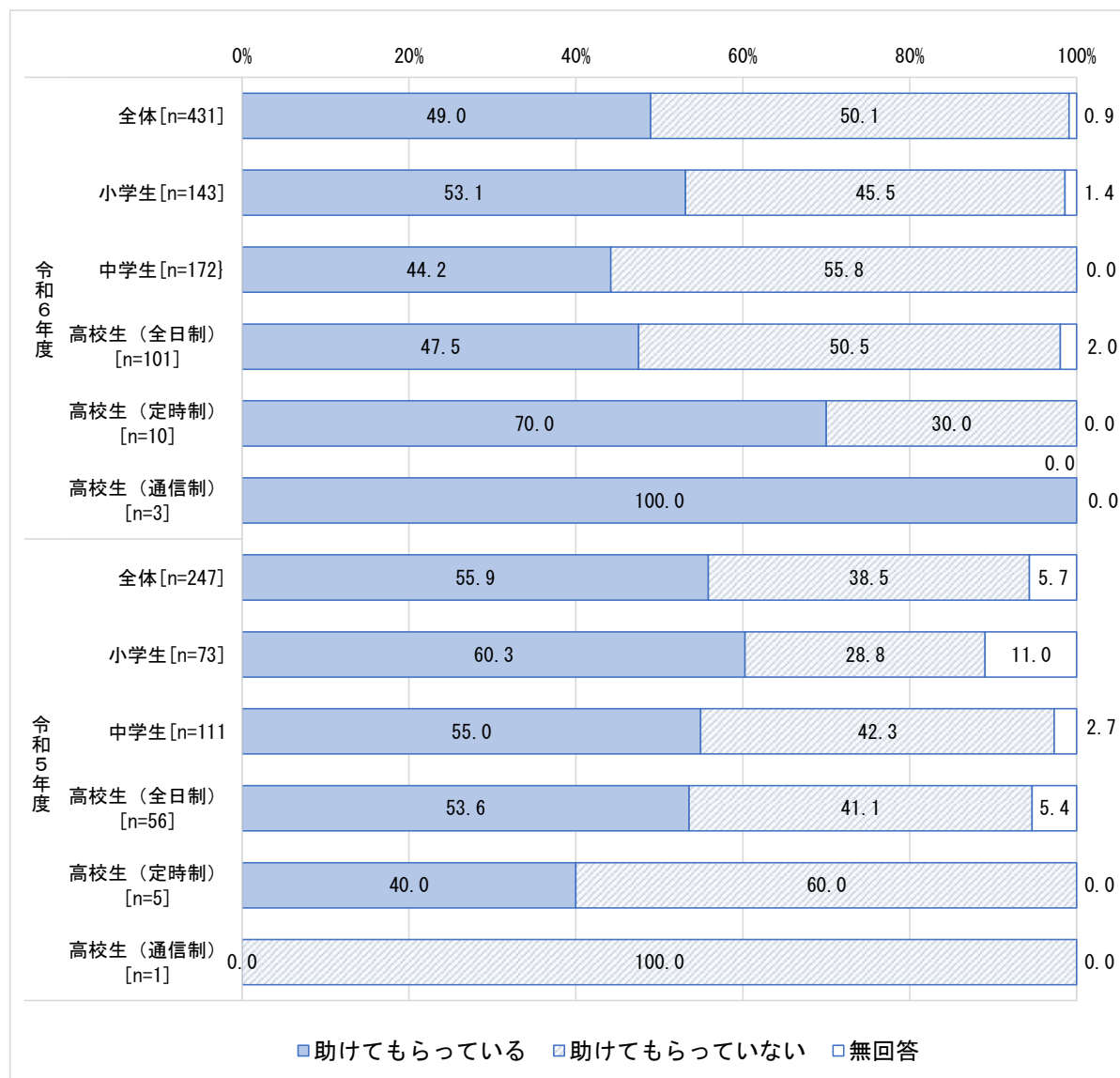


（５） 家事や家族のお世話を他の人に助けてもらっているか

自分が「ヤングケアラー」に「あてはまる」と回答した子どもに、家事や家族のお世話をするを、他の人（ヘルパー、親せき、近所の人、友人）に助けてもらっているか聞いたところ、「助けてもらっている」のは全体では49.0%で、小学生では53.1%、中学生で44.2%、高校生（全日制）で47.5%となっている。

令和５年度に比べると、「助けてもらっている」は減少傾向にある。

図表 21 家事や家族のお世話を他の人に助けてもらっているか

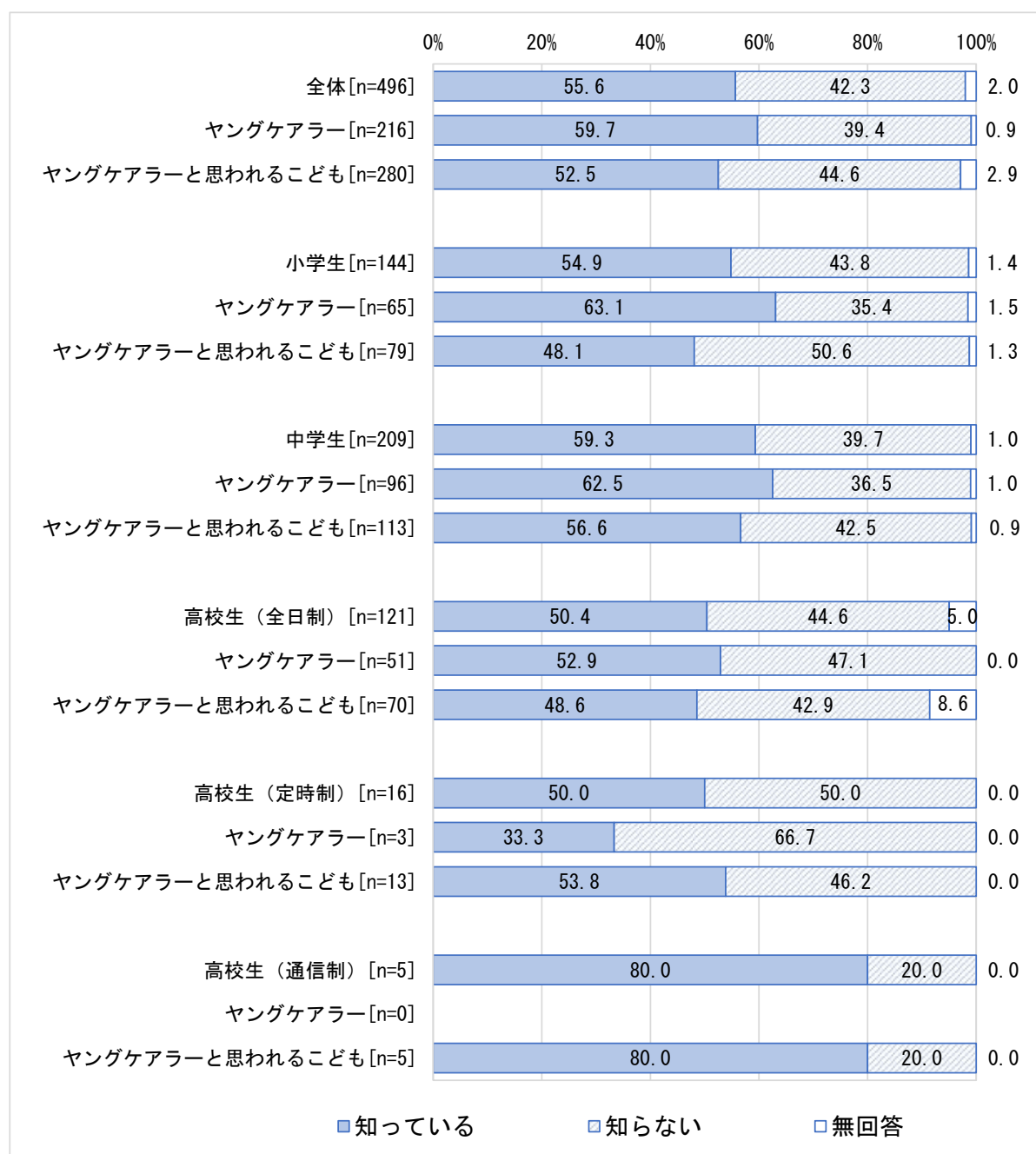


（６） 相談できる人や場所、相談窓口（電話・SNS など）を知っているか

自分が「ヤングケアラー」に「あてはまる」と回答した子どもと「ヤングケアラーと思われる子ども」（自身がヤングケアラーか「わからない」と回答したうち、家族関係等の悩みのある子ども。詳細は次節の「ヤングケアラーについて（追加分析）」を参照）に、困ったときやつらいとき、家族のことで不安になったときに、相談できる人や場所、相談窓口（電話・SNS など）を知っているか聞いたところ、「知っている」のは全体では 55.6%、うち「ヤングケアラー」で 59.7%、「ヤングケアラーと思われる子ども」で 52.5%となっている。

学年別にみると、「知っている」が小学生、中学生、高校生（全日制）で「ヤングケアラー」が「ヤングケアラーと思われる子ども」よりも約 4～15 ポイント高くなっている。

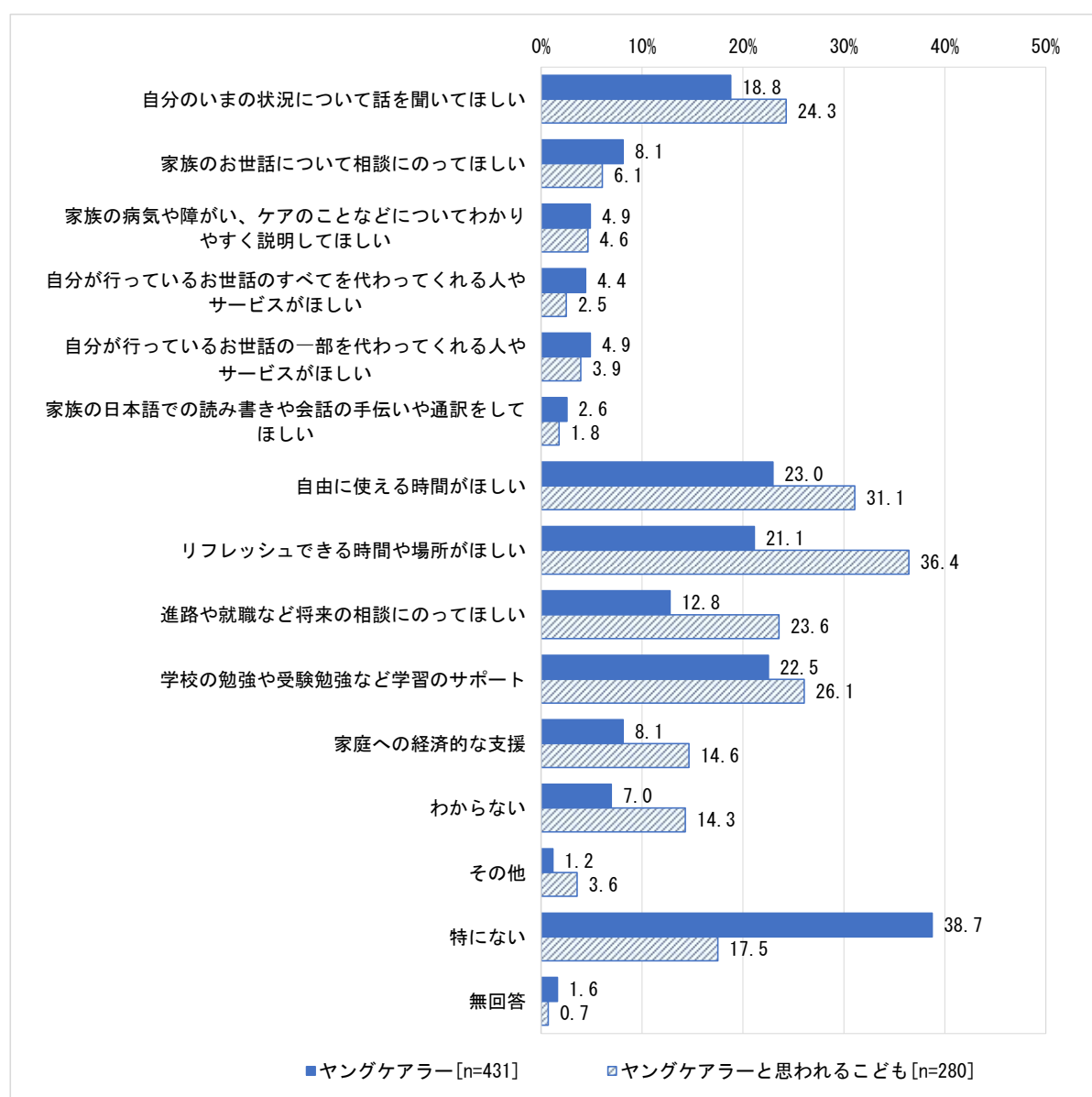
図表 22 相談できる人や場所、相談窓口（電話・SNS など）を知っているか



(7) 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援について

自分が「ヤングケアラー」に「あてはまる」と回答した子ども（「ヤングケアラー」）と「ヤングケアラーと思われる子ども」（自身がヤングケアラーか「わからない」と回答したうち、家族関係等の悩みのある子ども。詳細は次節の「ヤングケアラーについて（追加分析）」を参照）に、学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援について聞いたところ、「ヤングケアラー」では「特にない」が 38.7%と最も高く、次いで「自由に使える時間がほしい」（23.0%）、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」（22.5%）、「リフレッシュできる時間や場所がほしい」（21.1%）などとなっている。「ヤングケアラーと思われる子ども」では、「リフレッシュできる時間や場所がほしい」が 36.4%と最も高く、次いで「自由に使える時間がほしい」（31.1%）、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」（26.1%）となっており、いずれも「ヤングケアラー」よりも高くなっている。

図表 23 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援（複数回答）



学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援について学年別にみると、「ヤングケアラー」では、「特になし」が最も高くなっているが、その他では「自由に使える時間がほしい」「リフレッシュできる時間や場所がほしい」「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」が上位にあがっている。

「ヤングケアラーと思われる子ども」でも同様に、「自由に使える時間がほしい」「リフレッシュできる時間や場所がほしい」「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」が上位にあがっているが、加えて「進路や就職など将来の相談にのってほしい」も高くなっている。

図表 24 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 必要としている支援

(複数回答) (学年別) (%)

		全体 (n=)	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	家族の通訳をしてほしい	自由に使える時間がほしい
全体	ヤングケアラー	431	18.8	8.1	4.9	4.4	4.9	2.6	23.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	280	24.3	6.1	4.6	2.5	3.9	1.8	31.1
小学生	ヤングケアラー	143	19.6	8.4	4.9	3.5	7.7	2.8	25.9
	ヤングケアラーと思われる子ども	79	29.1	5.1	7.6	3.8	5.1	1.3	31.6
中学生	ヤングケアラー	172	17.4	8.1	4.7	5.8	2.9	1.7	22.7
	ヤングケアラーと思われる子ども	113	22.1	5.3	0.9	2.7	1.8	2.7	36.3
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	101	19.8	6.9	4.0	3.0	4.0	3.0	21.8
	ヤングケアラーと思われる子ども	70	24.3	7.1	5.7	0.0	4.3	0.0	22.9
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	10	20.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	13	23.1	15.4	15.4	7.7	15.4	7.7	23.1
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0

		全体(n=)	リフレッシュできる時間や場所がほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい	学校の勉強や受験勉強など学習のサポート	家庭への経済的な支援	わからない	その他	特にない	無回答
全体	ヤングケアラー	431	21.1	12.8	22.5	8.1	7.0	1.2	38.7	1.6
	ヤングケアラーと思われる子ども	280	36.4	23.6	26.1	14.6	14.3	3.6	17.5	0.7
小学生	ヤングケアラー	143	24.5	9.8	17.5	6.3	7.0	2.8	39.9	1.4
	ヤングケアラーと思われる子ども	79	39.2	20.3	21.5	13.9	15.2	1.3	12.7	1.3
中学生	ヤングケアラー	172	21.5	16.3	30.2	8.1	7.6	0.0	37.8	1.7
	ヤングケアラーと思われる子ども	113	38.1	23.9	35.4	12.4	12.4	3.5	15.9	0.9
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	101	17.8	11.9	16.8	9.9	6.9	1.0	35.6	2.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	70	32.9	25.7	17.1	20.0	14.3	4.3	25.7	0.0
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	10	10.0	10.0	20.0	10.0	0.0	0.0	70.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	13	38.5	30.8	15.4	15.4	15.4	15.4	23.1	0.0
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	5	0.0	20.0	40.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0

「ヤングケアラー」および「ヤングケアラーと思われる子ども」で、学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援について「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」、「自分が行っているお世話の一部を代わりにしてくれる人やサービスがほしい」、「家族の通訳をしてほしい」と回答した子どもに詳細を聞いたところ、以下のような意見があった。

図表 25 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援（自由意見）

自分のいまの状況について話を聞いてほしい
<具体的に話をしやすい相手、方法、場所・場面など> 【話やすい相手】 ●学校の先生 ・学校の先生 ・担任の先生 ・副担任 ・仲のいい先生 ・元担任 ・保健室の先生 ・支援員の先生 ●友人 ・友達 ・仲のよい友達 ・親友 ●親・家族 ●カウンセラー ●心の発達センター ●役所職員 ●同じ悩みのある人 ・お互いに、信頼できて、同じ年の子同じ悩みを持つ子 ・同じ状況の人 ●女の人 ・女性で、必ず秘密を守ってくれる人 ・女性カウンセラー ●知らない人、自分のことを知られていない人 ●その他 ・話しやすい人 ・信頼でき、やさしい・親切な人 ・信用できる人 ・優しくて私がやりたいことをこなしてくれる人 ・実際に行動を提案してくれる、実行を支援してくれるひと。こちらの要望も考えてくれるひと ・SNS の仲間 【方法】 ●対面 ・対面で話したい ・会話 ●電話 ●メール、LINE、チャット ●文面・手紙 ・声を出したくないから文面だけで伝えたい ●その他 ・決まった曜日や時間などを決めて、その時間の中で話す ・大声で叫ぶ 【場所・場面】 ●1対1で話せる場所 ・相手と二人きりになれて、自分が話していることが誰にも聞こえないところ ・誰にも聞かれず話しやすい場所 ●静かなところ、リラックスできる場所 ●学校 ・相談室 ・保健室などクラスの人がいらない所 ・相談できる個室がほしい ・空き教室

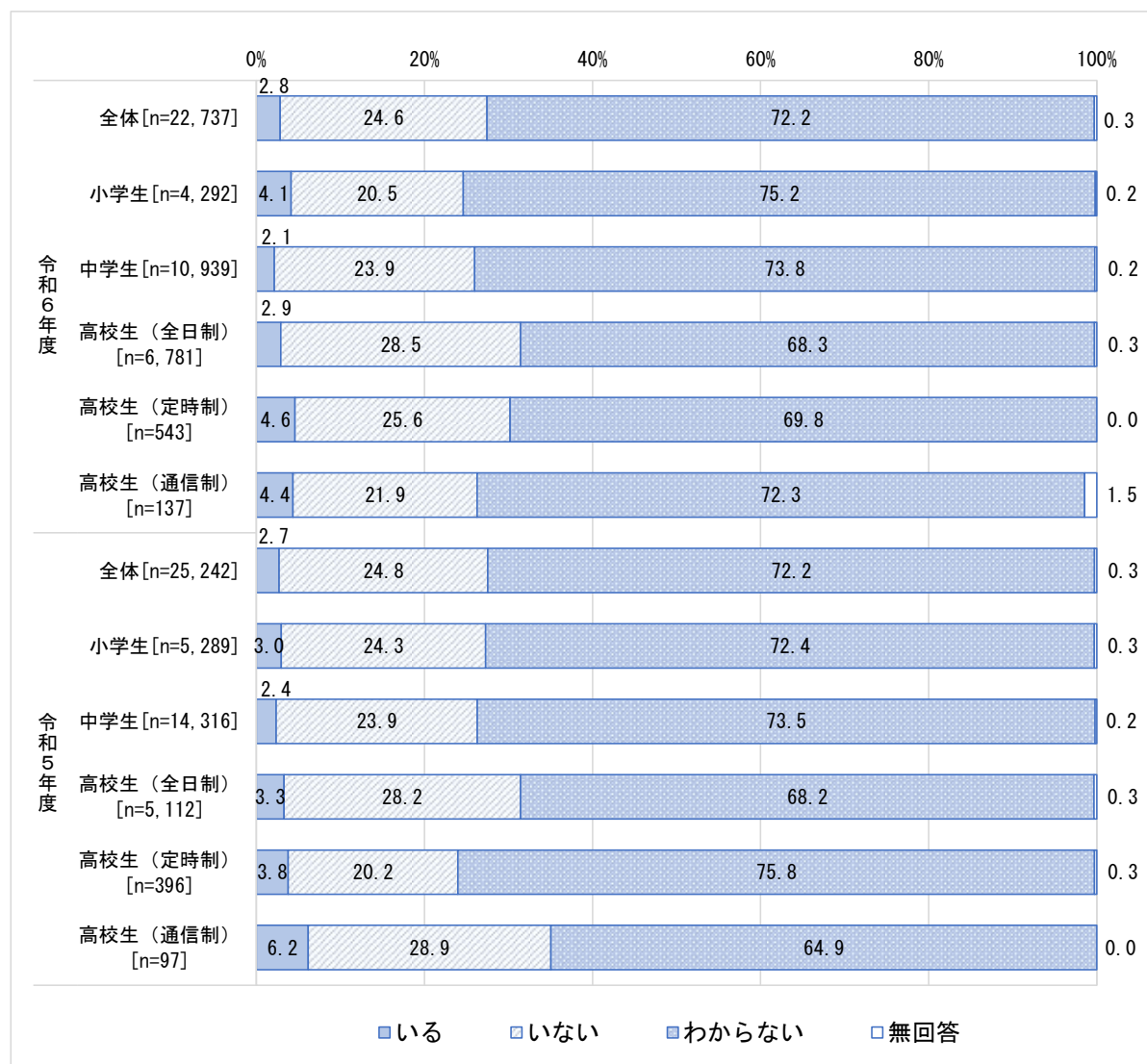
●家、自分の部屋 ●その他 ・図書館 ・病院 ・家族がいない静かな場所 ・話すのに時間がかかってもいい時間帯 ・放課後など人が少ない時間帯 ・放課後、通学前、一人っきりのとき など
自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい <具体的にどんなお世話か、もしくはどんな時かなど> 【家事】 ・家事をしてくれる人。親の仕事が忙しい時や休みの日に休みたいとき ・友だちと遊びたいときなどに晩ごはんを作ってほしい ・料理を作って欲しい ・ご飯を食べる時にママによく怒られご飯を出してもらえないから、一緒に片付けやご飯の準備を手伝ってほしい。パパがお仕事でいない間、ママのお手伝いを手伝ってほしい ・家の掃除。ゴミ屋敷のため一度大々的に、その後定期的に ・洗濯をしてほしい 【介護】 ・親の体調が悪い時にサポートしてくれる ・祖母の介護など ・夜の介護 ・買い物行ってる時とか、周りに自分しか世話が出来る人がいない時、親が近くに居ない時 【きょうだいの世話】 ・弟や妹（の世話） 【勉強について】 ・宿題がわからない。勉強の仕方がわからない。授業が頭に入ってこない ・宿題などの家で勉強するとき など
家族の通訳をしてほしい <具体的にどんな時か、どんなことに困っているかなど> ・漢字が読めない 書けない ・店などでいつも通訳しないとイケない ・会話がうまくまとまらない ・すべて。契約書を書く時や買い物や市役所の申請や請求書や重要書類など ・自分の中では自由が欲しい。その後お母さんのお手伝いをしたい など

（８） 友人や周りに「ヤングケアラー」にあてはまる子どもはいるか

友人や周り（クラスメイト、違うクラスの子、違う学年の子、他の学校の友人）に「ヤングケアラー」にあてはまる子どもがいるか聞いたところ、「いる」は小学生で4.1%、中学生で2.1%、高校生（全日制）で2.9%、高校生（定時制）で4.6%、高校生（通信制）で4.4%となっている。一方、「わからない」が、いずれの学年においても7割前後となっている。

令和5年度に比べると、「いる」の割合にほぼ変化はない。

図表 26 友人や周りに「ヤングケアラー」にあてはまる子どもはいるか



(9) 「ヤングケアラー」の子どもがいた場合、どうするか

友人や周りに、「ヤングケアラー」にあてはまる子どもがいた場合、どうするか聞いたところ、いずれの学年でも、「相談にのってあげる、困っていることがないか聞いてみる」が最も高く、6～7割となっている。次いで小学生と中学生では「学校の先生に相談する」、高校生（全日制）と高校生（定時制）では「わからない」、高校生（通信制）では「家族（親、きょうだいなど）に相談する」が高くなっている。

令和5年度に比べると、高校生（定時制）で、「学校の先生に相談する」「別の友人に相談する」が、高校生（通信制）では「相談にのってあげる、困っていることがないか聞いてみる」「家族（親、きょうだいなど）に相談する」が増加している。

図表 27 「ヤングケアラー」の子どもがいた場合、どうするか（複数回答） (%)

	全体 (n=11)	相談にのってあげる、 困っていることがない か聞いてみる	学校の先生に相談する	家族（親、きょうだいなど） に相談する	知り合いの大人（学童の先生、 近所の人、スポーツのコーチ、じゅく の先生など）に相談する	別の友人に相談する	相談できる場所（相談窓口 などを教えてあげる	何もしない	わからない	その他	無回答
全体	22,737	69.4	20.1	18.9	5.3	10.8	18.5	4.7	13.2	0.7	1.0
小学生	4,292	72.9	24.7	21.9	7.0	15.2	22.3	2.9	11.5	1.1	1.1
中学生	10,939	71.0	22.0	20.1	5.4	11.5	19.4	4.4	12.1	0.6	1.0
高校生 (全日制)	6,781	65.4	14.7	15.3	3.8	7.1	14.9	6.1	15.7	0.5	0.7
高校生 (定時制)	543	60.6	15.8	14.5	6.6	10.7	14.5	7.7	17.9	0.7	0.9
高校生 (通信制)	137	65.7	14.6	19.7	5.1	5.8	16.8	5.8	16.1	0.7	2.2

図表 28 「ヤングケアラー」の子どもがいた場合、どうするか（複数回答）【令和5年度】 (%)

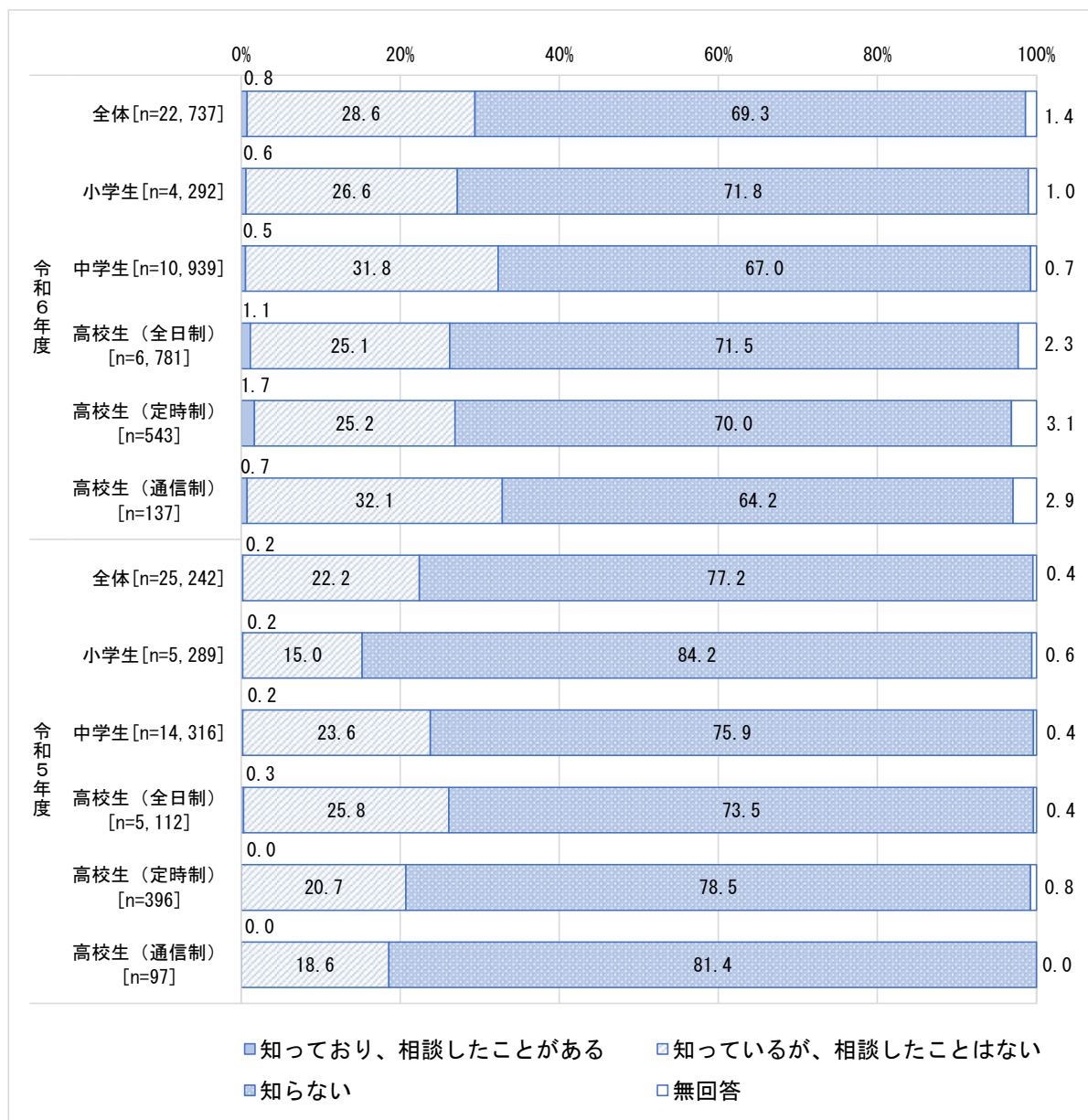
	全体(n=)	相談にのってあげる、困っていることがないか聞いてみる	学校の先生に相談する	家族（親、きょうだいなど）に相談する	知り合いの大人（学童の先生、近所の人、スポーツのコーチ、じゅく先生など）に相談する	別の友人に相談する	相談できる場所（相談窓口など）を教えてあげる	何もしない	わからない	その他	無回答
全体	25,242	71.2	19.2	19.2	5.1	10.3	19.1	5.0	12.8	0.8	0.8
小学生	5,289	75.1	23.7	23.0	6.9	14.8	22.3	3.6	10.6	1.2	0.7
中学生	14,316	71.8	20.0	19.7	5.3	10.0	19.9	4.9	12.4	0.8	0.8
高校生（全日制）	5,112	66.7	13.1	14.3	3.1	7.2	14.1	6.4	15.1	0.6	1.0
高校生（定時制）	396	57.6	9.6	11.9	2.8	4.8	12.4	10.6	20.7	1.0	1.0
高校生（通信制）	97	56.7	17.5	13.4	4.1	7.2	12.4	9.3	22.7	1.0	2.1

（１０）「24 時間電話相談窓口」の認知状況

「24 時間電話相談窓口（0120-189-783、0120-0-78310）」について知っているか聞いたところ、知っている子ども（「知っており、相談したことがある」と「知っているが、相談したことはない」の合計）がいずれの学年も３割前後となっている。

令和５年度と比べると、知っている子どもは高校生（全日制）を除いて、約６～１４ポイント増加している。

図表 29 「24 時間電話相談窓口」の認知状況

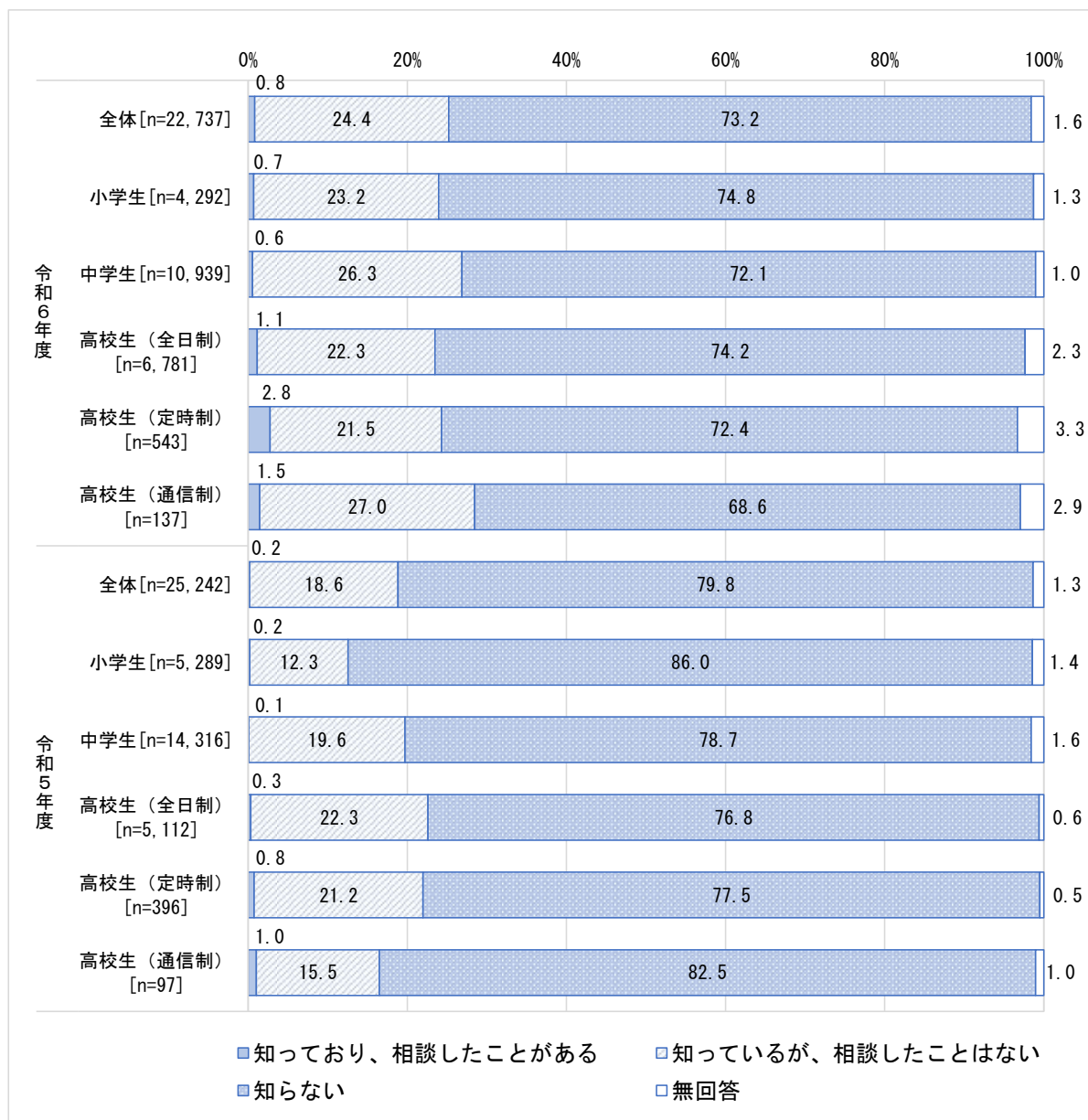


（１１）「相談支援センター（山梨県総合教育センター）」の認知状況

「相談支援センター（山梨県総合教育センター）」について知っているか聞いたところ、知っている子ども（「知っており、相談したことがある」と「知っているが、相談したことはない」の合計）がどの学年も２割台となっている。

令和５年度と比較すると、知っているこどもは高校生（全日制）と高校生（定時制）を除いて、約７～１２ポイント増加している。

図表 30 「相談支援センター（山梨県総合教育センター）」の認知状況

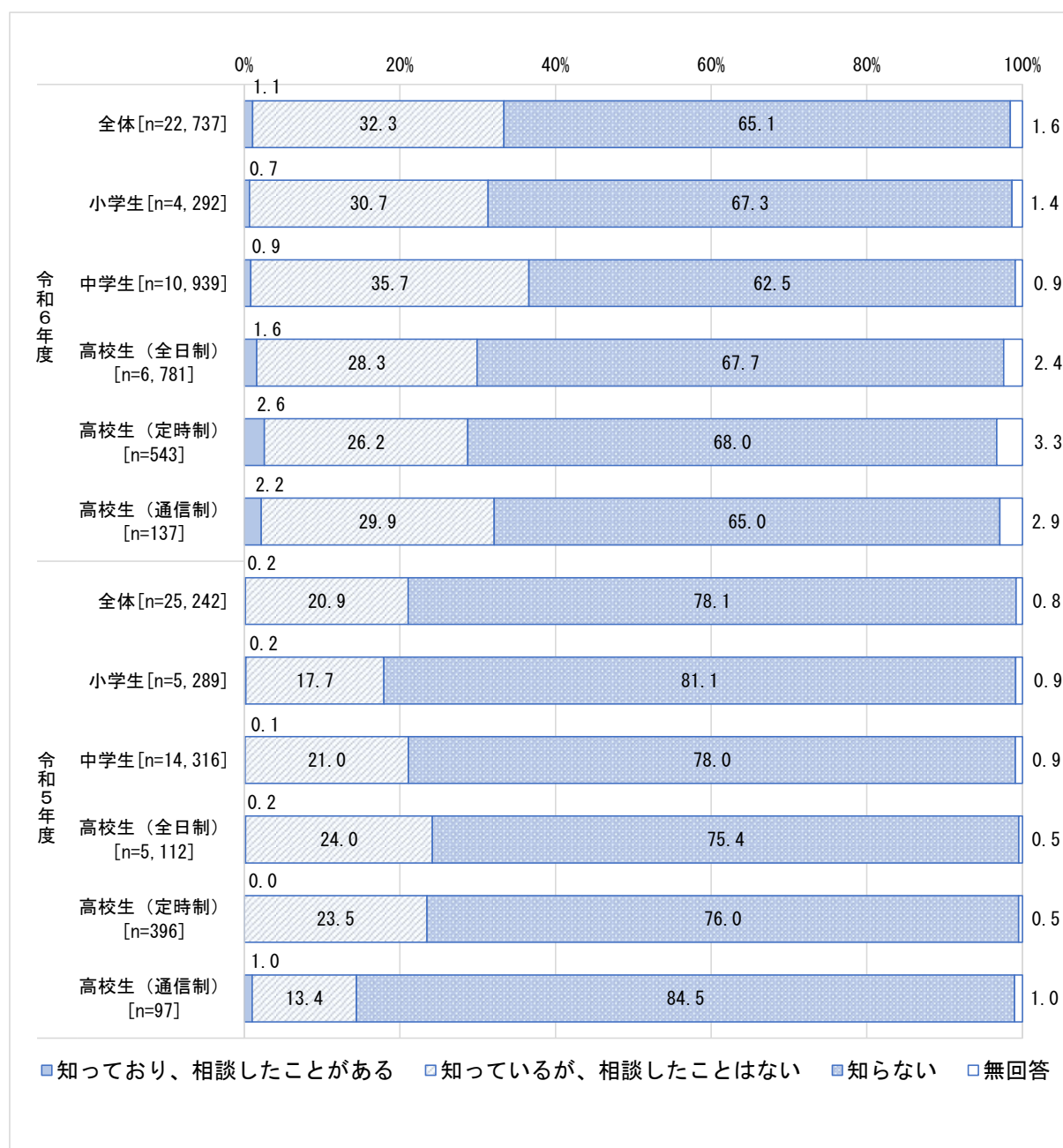


(12) 「SNS 相談窓口」の認知状況

「SNS 相談窓口」について知っているか聞いたところ、知っている子ども（「知っており、相談したことがある」と「知っているが、相談したことはない」の合計）はどの学年も 3 割前後となっており、中学生が 36.6%と最も高くなっている。

令和 5 年度と比較すると、知っているこどもはどの学年も約 5 ～18 ポイント増加している。

図表 31 「SNS 相談窓口」の認知状況



(13) 「24 時間電話相談窓口」に相談したことがない理由

「24 時間電話相談窓口」について、「知っているが、相談したことはない」と回答した子どもの、相談したことがない理由は、どの学年も「特に相談する必要があるから」が最も高く、小学生で 79.5%、中学生で 89.9%、高校生（全日制）で 91.7%、高校生（定時制）で 89.8%となっている。

令和 5 年度と比較すると、小学生で「何を話したらよいかわからないから」「話を聞いてくれる人がどんな人かわからないから」「電話で話をするのが苦手だから」「電話で相談していることを親や友人など周りの人に知られたくないから」が、高校生（定時制）で「相談しても何もかわらないと思うから」が約 5 ポイント増加している。

図表 32 「24 時間電話相談窓口」に相談したことがない理由（複数回答） (%)

	全体 (n=11)	特に 相談する 必要が ない から	何を 話したら よいか わから ない から	話を 聞いて もらえ るか 不安 だから	話を 聞いて くれる 人がど んな人 かわか らない から	電話 で話を するの が苦手 だから	親や 友人な ど周り の人に 知られ たくな いから	電話 で相談 している ことを 親や友 人など 周りの 人に 知られ たくな いから	相談 する時 間がな いから	その他	無 回 答
全体	6,508	88.4	10.1	4.1	7.6	7.0	6.2	6.2	3.4	0.9	0.9
小学生	1,141	79.5	17.4	7.9	15.8	12.6	13.1	8.9	6.2	2.2	1.0
中学生	3,477	89.9	9.4	3.7	7.1	6.5	5.9	5.9	3.1	0.6	0.9
高校生(全日制)	1,702	91.7	6.3	2.4	3.1	4.1	2.1	4.6	2.2	0.8	0.8
高校生(定時制)	137	89.8	10.9	4.4	6.6	7.3	6.6	8.8	2.9	0.0	0.7
高校生(通信制)	44	77.3	18.2	4.5	15.9	9.1	4.5	11.4	4.5	2.3	0.0

図表 33 「24 時間電話相談窓口」に相談したことがない理由（複数回答）【令和 5 年度】 (%)

	全体 (n=11)	特に 相談する 必要が ない から	何を 話したら よいか わから ない から	話を 聞いて もらえ るか 不安 だから	話を 聞いて くれる 人がど んな人 かわか らない から	電話 で話を するの が苦手 だから	親や 友人な ど周り の人に 知られ たくな いから	電話 で相談 している ことを 親や友 人など 周りの 人に 知られ たくな いから	相談 する時 間がな いから	その他	無 回 答
全体	5,600	88.2	8.5	3.5	5.8	5.6	4.6	5.0	3.0	0.7	3.2
小学生	794	84.0	12.0	6.0	10.5	7.4	7.8	6.9	4.7	1.4	3.7
中学生	3,378	88.5	9.0	3.6	6.1	6.2	5.0	5.2	3.1	0.7	2.9
高校生(全日制)	1,320	90.2	5.0	1.7	2.2	2.9	1.8	3.5	1.9	0.1	3.5
高校生(定時制)	82	86.6	9.8	1.2	4.9	3.7	2.4	3.7	3.7	1.2	2.4
高校生(通信制)	18	88.9	11.1	11.1	11.1	5.6	5.6	11.1	5.6	0.0	11.1

(14) 「相談支援センター」に相談したことがない理由

「相談支援センター」について、「知っているが、相談したことはない」と回答した子どもの、相談したことがない理由は、どの学年も「特に相談する必要があるから」が最も高く、小学生で 79.5%、中学生で 88.7%、高校生（全日制）で 90.0%、高校生（定時制）で 82.9%となっている。

令和 5 年度と比較すると、小学生では「特に相談する必要があるから」が 5.0 ポイント減少し、「直接会って、話をするのが苦手だから」が 6.6 ポイント増加している。高校生（定時制）では「特に相談する必要があるから」が 6.4 ポイント減少し、「話を聞いてくれる人がどんな人かわからないから」が 7.3 ポイント増加している。

図表 34 「相談支援センター」に相談したことがない理由（複数回答） (%)

	全体（n＝）	特に相談する必要がないから	何を話したらよいかわからないから	話を聞いてもらえるか不安だから	話を聞いてくれる人がどんな人かわからないから	手だから	直接会って、話をするのが苦手だから	直接会って、相談していることを親や友人など周りの人に知られたくないから	思うから	相談しても何もかわらないと相談する時間がないから	その他	無回答
全体	5,549	87.2	10.3	4.4	7.1	6.8	5.5	5.3	3.1	0.5	2.1	
小学生	997	79.5	17.7	7.9	14.2	15.2	12.3	8.0	4.9	1.1	2.6	
中学生	2,877	88.7	9.5	4.0	6.6	5.7	5.1	4.9	3.2	0.3	1.6	
高校生（全日制）	1,515	90.0	6.6	2.7	3.2	3.5	1.8	4.3	1.7	0.4	2.6	
高校生（定時制）	117	82.9	11.1	2.6	8.5	4.3	3.4	6.0	4.3	0.9	5.1	
高校生（通信制）	37	75.7	21.6	16.2	10.8	16.2	5.4	5.4	5.4	2.7	0.0	

図表 35 「相談支援センター」に相談したことがない理由（複数回答）【令和 5 年度】 (%)

	全体（n＝）	特に相談する必要がないから	何を話したらよいかわからないから	話を聞いてもらえるか不安だから	話を聞いてくれる人がどんな人かわからないから	話を聞いてくれるのが苦手だから	直接会って、相談していることを親や友人など周りの人に知られたくないから	直接会って、話をするのが苦手だから	相談する時間がないから	その他	無回答
全体	4,707	88.4	8.7	3.6	5.4	5.1	4.7	4.8	3.2	0.3	2.7
小学生	653	84.5	13.0	6.3	9.5	8.6	8.1	7.0	5.7	0.3	2.5
中学生	2,809	88.4	9.1	3.7	6.1	5.6	5.1	5.1	3.2	0.5	2.7
高校生（全日制）	1,139	90.4	4.8	1.8	1.8	2.2	1.8	2.5	2.1	0.1	2.7
高校生（定時制）	84	89.3	10.7	0.0	1.2	2.4	3.6	6.0	1.2	0.0	2.4
高校生（通信制）	15	93.3	13.3	13.3	6.7	6.7	6.7	6.7	6.7	0.0	6.7

(15) 「SNS 相談窓口 (LINE)」に相談したことがない理由

「SNS 相談窓口 (LINE)」について、「知っているが、相談したことはない」と回答した子どもの、相談したことがない理由は、どの学年も「特に相談する必要があるから」が最も高く、小学生で 79.9%、中学生で 89.3%、高校生（全日制）で 91.5%、高校生（定時制）で 88.7%となっている。

令和 5 年度と比較すると、「特に相談する必要があるから」が小学生で 6.2 ポイント減少し、高校生（定時制）で 7.0 ポイント増加している。

図表 36 「SNS 相談窓口 (LINE)」に相談したことがない理由（複数回答） (%)

	全体（n＝）	特に相談する必要がないから	何を話したらよいかわからないから	話を聞いてもらえるか不安だから	話を聞いてくれる人がどんな人かわからないから	SNS（LINE）で相談していることを親や友人など周りの人に知られたくないから	相談しても何もかわらないと思うから	相談する時間がないから	SNS（LINE）を使っていないから	その他	無回答
全体	7,336	88.1	9.3	3.9	6.9	5.4	5.6	2.7	3.2	0.6	2.1
小学生	1,316	79.9	15.7	6.9	13.7	11.2	8.4	5.0	11.6	1.4	2.9
中学生	3,909	89.3	8.6	3.7	6.4	5.2	5.3	2.4	2.1	0.3	2.0
高校生（全日制）	1,921	91.5	6.3	2.4	3.2	1.9	3.9	1.5	0.1	0.6	1.8
高校生（定時制）	142	88.7	7.7	4.2	6.3	2.1	7.0	4.2	0.0	0.7	2.8
高校生（通信制）	41	78.0	14.6	2.4	9.8	7.3	7.3	4.9	0.0	2.4	0.0

図表 37 「SNS 相談窓口 (LINE)」に相談したことがない理由（複数回答）【令和 5 年度】 (%)

	全体 (n＝)	特に相談する必要があるから	何を話したらよいかわからないから	話を聞いてもらえるか不安だから	話を聞いてくれる人がどんな人かわからないから	SNS (LINE)で相談していることを親や友人など周りの人に知られたくないから	相談する時間がないから	相談しても何もかわらないと思うから	SNS (LINE)を使っていないから	その他	無回答
全体	5,279	89.5	8.8	4.0	5.7	5.0	4.8	2.9	2.8	0.5	1.8
小学生	938	86.1	13.9	7.5	9.2	8.2	7.4	5.0	9.1	0.7	1.8
中学生	3,003	89.5	9.0	3.8	6.2	5.2	5.1	2.7	2.0	0.7	1.6
高校生(全日制)	1,227	92.7	4.2	1.5	2.0	2.1	1.9	1.7	0.1	0.1	1.9
高校生(定時制)	93	81.7	10.8	4.3	4.3	2.2	8.6	3.2	0.0	0.0	3.2
高校生(通信制)	13	92.3	15.4	15.4	7.7	0.0	7.7	7.7	7.7	0.0	7.7

(16) 知っている啓発の取組

知っているヤングケアラーの啓発の取組を聞いたところ、「特になし」が最も高く、いずれの学年においても8割前後となっている。知っている取組の中では小学生、中学生、高校生（定時制）で「TikTok『【山梨県公式】山梨コネクトヤングケアラー』」が、高校生（全日制）では「TikTok『【山梨県公式】山梨コネクトヤングケアラー』」と「『山梨コネクトヤングケアラー』相談促進啓発カード」が、高校生（通信制）では「『山梨コネクトヤングケアラー』相談促進啓発カード」が最も高くなっている。

令和5年度と比較すると、ほぼ同様の傾向となっている。

図表 38 知っている啓発の取組（複数回答）

(%)

	全体(n=)	TikTok 【山梨県公式】 山梨コネクトヤングケアラー	X(旧Twitter) 【山梨県公式】 山梨コネクトヤングケアラー	YouTube 動画 「山梨コネクトヤングケアラー」	「山梨コネクトヤングケアラー」 相談促進啓発カード	特になし	無回答
全体	22,737	8.9	3.8	6.7	7.9	80.1	1.3
小学生	4,292	8.8	4.3	7.5	5.3	82.9	1.5
中学生	10,939	9.1	4.0	7.2	8.4	79.6	1.2
高校生(全日制)	6,781	8.8	3.1	5.5	8.8	79.4	1.3
高校生(定時制)	543	9.2	4.8	5.7	8.1	80.5	1.3
高校生(通信制)	137	9.5	2.9	8.8	10.9	76.6	1.5

図表 39 知っている啓発の取組（複数回答）【令和5年度】

(%)

	全体(n=)	TikTok 【山梨県公式】 山梨コネクトヤングケアラー	X(旧Twitter) 【山梨県公式】 山梨コネクトヤングケアラー	YouTube 動画 「山梨コネクトヤングケアラー」	「山梨コネクトヤングケアラー」 相談促進啓発カード	特になし	無回答
全体	25,242	9.9	4.6	8.6	7.6	79.3	0.7
小学生	5,289	10.4	5.1	9.4	5.7	80.9	0.6
中学生	14,316	10.3	5.1	9.4	7.8	78.4	0.7
高校生(全日制)	5,112	8.2	3.0	5.9	8.9	79.7	0.8
高校生(定時制)	396	7.6	2.5	6.3	8.1	81.8	0.3
高校生(通信制)	97	8.2	4.1	6.2	4.1	84.5	2.1

(17) この1年間で、自身や周りの人の意識や行動で変わったと思うこと

県のヤングケアラーの啓発の取組が進むなかで、この1年間において、自身や周りの人の意識や行動で変わったと思うことを聞いたところ、「その他」を除き、いずれの学年も「自分が、ヤングケアラーについてよく理解できるようになった」が最も高く、次いで「ヤングケアラーについてもっと知りたいと思った」となっている。

図表 40 この1年間で、自身や周りの人の意識や行動で変わったと思うこと（複数回答）（%）

	全体（n＝）	自分が、ヤングケアラーについてよく理解できるようになった	ヤングケアラーについてもっと知りたいと思った	家族や周りの人に、ヤングケアラーについて教えてあげた	周りの人とヤングケアラーについて話をすることが増えた	ヤングケアラーの相談窓口を見ることが増えた	ヤングケアラーで困っている人がいないか気にするようになった	ヤングケアラーかもしれない人に声をかけた
全体	22,737	35.4	13.3	3.3	1.7	5.2	8.4	0.8
小学生	4,292	32.2	17.9	3.4	0.9	3.4	10.3	1.3
中学生	10,939	40.0	12.7	3.3	1.7	5.8	8.5	0.6
高校生(全日制)	6,781	30.8	11.6	3.1	2.1	5.6	7.0	0.6
高校生(定時制)	543	26.0	9.6	2.9	2.9	4.6	7.0	1.5
高校生(通信制)	137	32.1	14.6	6.6	2.9	2.9	8.0	0.7

	自分がヤングケアラーだと気づき、困った時は周りの人に助けを求めようと思った	特になし	その他	無回答
全体	2.0	0.4	46.9	0.9
小学生	3.8	0.7	47.7	1.0
中学生	1.8	0.3	43.5	0.7
高校生(全日制)	1.1	0.3	51.1	0.8
高校生(定時制)	2.4	0.7	58.4	1.1
高校生(通信制)	1.5	0.7	48.9	2.2

4. ヤングケアラーについて（追加分析）

（１） 自身がヤングケアラーか自己認識別の「ヤングケアラー」という言葉の認知状況

自身が「ヤングケアラー」にあてはまるか自己認識別の「ヤングケアラー」の認知状況をみると、小学生から高校生まで共通して、自身が「ヤングケアラー」に「あてはまらない」とする子どもは「聞いたことがあり、内容も知っている」割合が、自身が「ヤングケアラー」に「あてはまる」か「わからない」と回答した子どもに比べ高くなっている。小学生・中学生では、自身が「ヤングケアラー」に「あてはまる」か「わからない」と回答した子どもの大半が、「聞いたことはあるが、よく知らない」「聞いたことはない」としている。

一方、高校生では、自身が「ヤングケアラー」に「あてはまる」子どもは「ヤングケアラー」のことを「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答している割合が、小・中学生に比べ高くなっている。

また、中学生・高校生の「わからない」と回答している子どもの6割近くは「聞いたことはあるが、よく知らない」としている。ただし、中学生以上で「わからない」と回答しているそれぞれ2割程度の子どもの「ヤングケアラー」のことを「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答しているにもかかわらず、「わからない」と回答している。

図表 41 自身がヤングケアラーであるかの自己認識別 「ヤングケアラー」という言葉の認知状況

(%)

		全体 (n=)	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことはあるが、よく知らない	聞いたことはない	無回答
全体	あてはまる	431	22.7	34.8	42.0	0.5
	わからない	1,137	18.8	50.1	30.1	1.0
	あてはまらない	20,980	50.4	32.0	17.0	0.6
小学生	あてはまる	143	7.7	23.8	68.5	0.0
	わからない	294	12.9	30.6	55.4	1.0
	あてはまらない	3,828	21.1	29.4	49.0	0.5
中学生	あてはまる	172	23.3	41.9	34.9	0.0
	わからない	483	20.7	56.5	21.9	0.8
	あてはまらない	10,220	51.2	36.9	11.4	0.5
高校生(全日制)	あてはまる	101	41.6	38.6	17.8	2.0
	わからない	307	21.2	57.3	20.8	0.7
	あてはまらない	6,297	66.1	26.0	7.0	0.9
高校生(定時制)	あてはまる	10	30.0	30.0	40.0	0.0
	わからない	44	18.2	63.6	13.6	4.5
	あてはまらない	482	58.1	30.5	10.6	0.8
高校生(通信制)	あてはまる	3	33.3	33.3	33.3	0.0
	わからない	9	33.3	33.3	33.3	0.0
	あてはまらない	123	61.0	23.6	14.6	0.8

(2) 自身が「ヤングケアラー」か自己認識別の現在、悩んだり困っていること

現在、悩んだり困っていることは、自身の「ヤングケアラー」かどうかの自己認識にかかわらず、上位は同じ傾向となっているが、自身が「ヤングケアラー」に「あてはまる」とする子どもは、他に比べて「自分と家族との関係のこと」「家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）」「病気や障がいのある家族のこと」「自分のために使える時間が少ない」をあげる割合が高く、「特にない」とする割合は低くなっている。さらに中・高校生では「学校に支払うお金のこと（学費、集金など）」「家庭のお金のこと（食べ物を買うお金や必要なものを買うお金がたりないことなど）」をあげる割合が高い。

また、自身が「ヤングケアラー」にあてはまるか「わからない」とする子どもも、「あてはまらない」とする子どもに比べて、上記「あてはまる」とする子どもと同様の項目をあげる割合が高く、「特にない」とする割合は低くなっているものが多い。

図表 42 自身が「ヤングケアラー」かの自己認識別 現在、悩んだり困っていること（複数回答） (%)

		全体 (n=)	友人との 関係のこと	勉強のこと (学校の成績 など)	しょうらいの 夢や進路 のこと	部活動のこと	じゆくや習い 事ができ ないこと	学校に支払う お金のこと (学費、集金 など)	家庭のお金 のこと(食べ 物を買うお 金や必要な ものを 買うお金が たりない ことなど)
全体	あてはまる	431	25.1	48.3	37.1	15.8	4.4	5.1	8.8
	わからない	1,137	23.7	45.3	37.7	15.5	3.3	4.9	6.1
	あてはまらない	20,980	15.8	41.4	36.2	10.9	1.2	1.9	1.8
小学生	あてはまる	143	30.8	32.9	23.1	11.2	3.5	2.1	4.9
	わからない	294	32.3	28.9	28.9	10.9	3.1	3.7	6.1
	あてはまらない	3,828	16.8	20.4	20.6	6.6	1.8	0.5	1.2
中学生	あてはまる	172	25.0	66.9	44.2	19.8	6.4	4.7	9.9
	わからない	483	21.5	57.1	36.9	16.4	4.8	2.1	3.3
	あてはまらない	10,220	16.3	49.1	35.7	10.9	1.4	1.2	1.5
高校生 (全日制)	あてはまる	101	19.8	41.6	47.5	16.8	2.0	9.9	10.9
	わからない	307	20.5	44.6	45.6	18.6	1.3	10.1	9.8
	あてはまらない	6,297	14.7	42.3	46.0	13.8	0.6	3.9	2.7
高校生 (定時制)	あてはまる	10	10.0	30.0	20.0	10.0	10.0	10.0	10.0
	わからない	44	15.9	29.5	47.7	15.9	4.5	6.8	9.1
	あてはまらない	482	9.1	35.3	41.3	8.5	0.4	3.3	3.5
高校生 (通信制)	あてはまる	3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3
	わからない	9	0.0	44.4	55.6	11.1	0.0	11.1	11.1
	あてはまらない	123	17.9	43.9	47.2	11.4	1.6	4.9	3.3

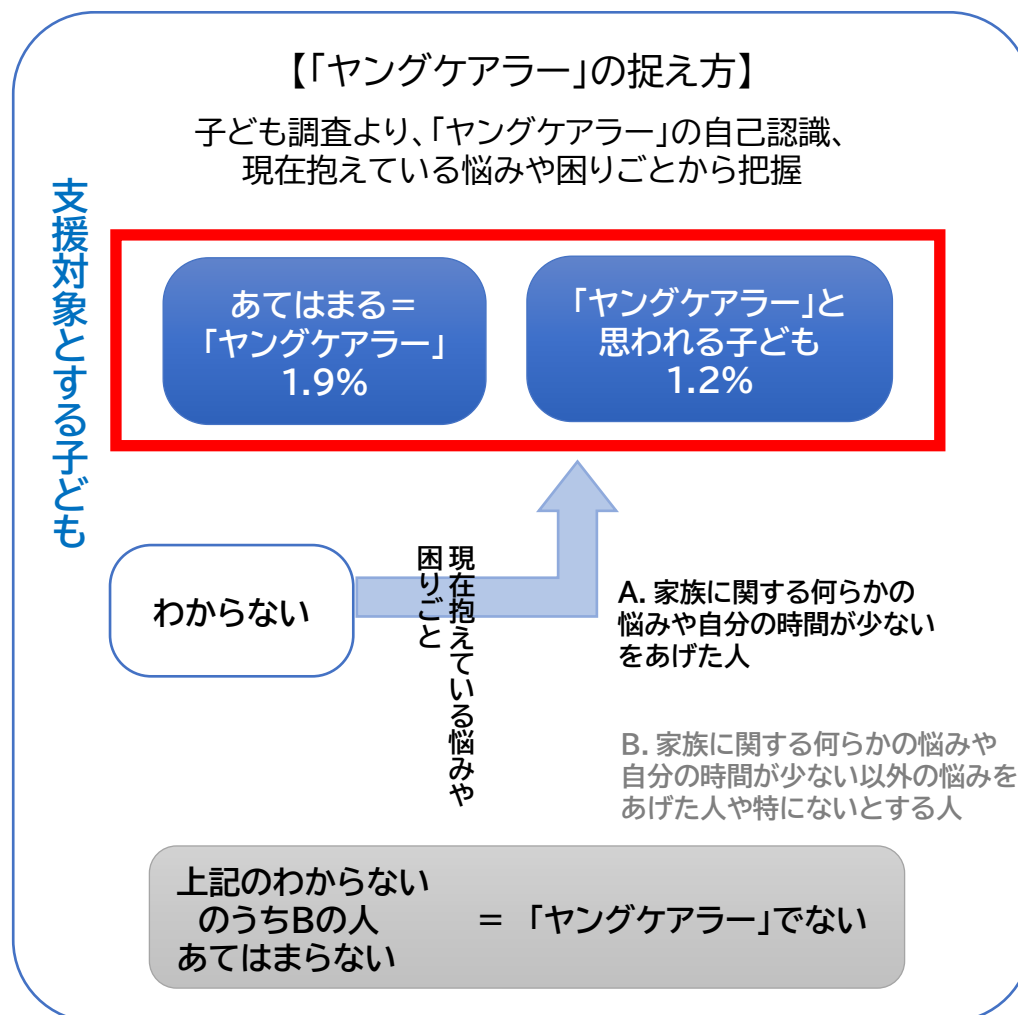
		全体(n=)	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)	病気や障がいのある家族のこと	家族の日本語での読み書きや会話の手伝いや通訳をしないといけないこと	自分のために使える時間が少ない	その他	特にない	無回答
全体	あてはまる	431	13.9	10.2	4.6	1.4	11.8	3.9	27.4	0.7
	わからない	1,137	13.3	8.9	4.0	1.1	9.6	3.3	31.2	1.1
	あてはまらない	20,980	4.1	3.0	0.9	0.2	2.6	1.1	39.2	1.4
小学生	あてはまる	143	16.8	9.8	5.6	0.7	10.5	7.7	32.9	0.7
	わからない	294	12.6	10.9	4.1	1.7	10.9	3.7	36.7	0.3
	あてはまらない	3,828	4.0	2.8	0.8	0.1	2.4	1.6	55.0	2.3
中学生	あてはまる	172	14.5	12.2	2.3	0.6	12.2	2.9	21.5	1.2
	わからない	483	13.9	8.5	3.3	1.2	7.7	3.5	29.4	2.5
	あてはまらない	10,220	4.3	3.0	0.7	0.2	2.3	1.0	36.7	1.3
高校生 (全日制)	あてはまる	101	8.9	6.9	6.9	3.0	10.9	0.0	27.7	0.0
	わからない	307	12.4	7.2	4.2	0.3	10.7	1.6	29.6	0.0
	あてはまらない	6,297	3.6	3.0	1.1	0.2	3.1	0.9	33.6	1.0
高校生 (定時制)	あてはまる	10	20.0	20.0	10.0	10.0	30.0	10.0	50.0	0.0
	わからない	44	20.5	9.1	6.8	2.3	11.4	11.4	27.3	0.0
	あてはまらない	482	5.2	2.5	0.4	0.6	3.3	0.8	39.4	1.0
高校生 (通信制)	あてはまる	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	わからない	9	0.0	22.2	11.1	0.0	22.2	0.0	22.2	0.0
	あてはまらない	123	3.3	4.9	2.4	0.8	4.9	3.3	39.0	0.0

（３） 自身が「ヤングケアラー」および、自身では「ヤングケアラー」かわからないが「ヤングケアラー」と思われる子ども

前述の通り、自身が「ヤングケアラー」かの自己認識で「わからない」と回答した子どもについて、さらに分析を行ったところ、実際に家族のことや、自分自身に使える時間のことで悩んだり困ったりしている子どもが多いことが明らかとなった。

山梨県ヤングケアラー支援計画ではこうした子どもを「ヤングケアラーと思われる子ども」として整理し、支援の対象に含めている。（詳細は下記参照）

ヤングケアラーは全体の 1.9%、ヤングケアラーと思われる子どもは 1.2%で、支援対象とする子ども全体は 3.1%となっており、令和 5 年度（3.7%）と大きな変化はみられない。



*「ヤングケアラーと思われる子ども」・・・自身が「ヤングケアラー」に「あてはまる」か「わからない」と回答した子どものうち、現在悩んだり困っていることとして、「自分と家族との関係のこと」「家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）」「病気や障がいのある家族のこと」「家族の通訳のこと」「自分のために使える時間が少ない」のいずれか 1 つ以上選んだ子ども

① 家族構成

「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子どもともに、「ヤングケアラーではない（ヤングケアラーにあてはまらない）」に比べて、「ひとり親世帯」の割合が高くなっている。

図表 43 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 家族構成 (%)

		全体 (n)	一 般 世 帯 (親 と 子)	三 世 代	ひ と り 親 世 帯	そ の 他 の 世 帯	無 回 答
全体	ヤングケアラー	431	55.7	18.6	20.4	5.3	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	280	49.6	19.6	19.6	10.4	0.7
	ヤングケアラーではない	21,837	66.4	20.5	9.7	3.2	0.1
小学生	ヤングケアラー	143	57.3	16.8	20.3	5.6	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	79	55.7	20.3	17.7	6.3	0.0
	ヤングケアラーではない	4,043	69.8	19.3	8.6	2.2	0.2
中学生	ヤングケアラー	172	55.2	19.8	20.9	4.1	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	113	46.9	19.5	22.1	10.6	0.9
	ヤングケアラーではない	10,590	67.0	20.8	9.3	2.8	0.1
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	101	57.4	18.8	16.8	6.9	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	70	52.9	18.6	12.9	14.3	1.4
	ヤングケアラーではない	6,534	64.0	20.8	10.6	4.4	0.2
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	10	50.0	10.0	30.0	10.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	13	23.1	23.1	46.2	7.7	0.0
	ヤングケアラーではない	513	59.6	18.9	15.0	6.2	0.2
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	3	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	5	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0
	ヤングケアラーではない	127	61.4	22.8	12.6	2.4	0.8

② 健康状態

「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子どもともに、「ヤングケアラーではない（ヤングケアラーにあてはまらない）」に比べて、健康状態が「あまりよくない」「よくない」といった割合が高くなっており、特にヤングケアラーと思われる子どもで高い。中学生以上のヤングケアラーと思われる子どもでは、2割以上が「あまりよくない」「よくない」となっている。

図表 44 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 自身の健康 (%)

		全体 (n)	よい	まあよい	ふつう	あまり よくない	よくない	無回答
全体	ヤングケアラー	431	52.0	20.0	17.6	9.3	1.2	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	280	20.4	22.5	38.6	15.4	3.2	0.0
	ヤングケアラーではない	21,837	61.0	20.3	15.7	2.6	0.3	0.0
小学生	ヤングケアラー	143	54.5	18.2	17.5	9.8	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	79	20.3	27.8	43.0	7.6	1.3	0.0
	ヤングケアラーではない	4,043	61.7	20.1	15.7	2.2	0.3	0.0
中学生	ヤングケアラー	172	48.3	23.8	18.0	9.3	0.6	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	113	23.0	22.1	31.9	19.5	3.5	0.0
	ヤングケアラーではない	10,590	60.5	20.3	16.2	2.7	0.3	0.0
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	101	53.5	16.8	17.8	8.9	3.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	70	18.6	20.0	41.4	14.3	5.7	0.0
	ヤングケアラーではない	6,534	62.0	20.3	14.6	2.7	0.4	0.0
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	10	50.0	10.0	20.0	10.0	10.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	13	0.0	7.7	61.5	30.8	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	513	56.9	19.7	19.5	3.5	0.4	0.0
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	5	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	127	46.5	27.6	21.3	3.9	0.8	0.0

③ 現在、悩んだり困っていること

「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子どもともに学年を問わず、「ヤングケアラーではない（ヤングケアラーにあてはまらない）子ども」に比べて、「自分と家族との関係」「家族内の人間関係」「病気や障がいのある家族のこと」「家族の通訳のこと」「自分の時間のこと」をあげる割合が高く、中でも、「ヤングケアラー」と思われる子どもはヤングケアラーよりも高い。

図表 45 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 現在、悩んだり困っていること

		(複数回答) (%)							
		全体 (n=)	友人との関係のこと	勉強のこと(学校の成績など)	しゅららの夢や進路のこと	部活動のこと	じゅくや習い事ができないこと	学校に支払うお金のこと(学費、集金など)	家庭のお金のこと(食べ物を買うお金や必要なものをかうお金がたりないことなど)
全体	ヤングケアラー	431	25.1	48.3	37.1	15.8	4.4	5.1	8.8
	ヤングケアラーと思われる子ども	280	42.5	62.9	61.8	28.2	9.3	12.5	15.7
	ヤングケアラーではない	21,837	15.8	41.3	36.0	10.9	1.2	2.0	1.9
小学生	ヤングケアラー	143	30.8	32.9	23.1	11.2	3.5	2.1	4.9
	ヤングケアラーと思われる子ども	79	46.8	43.0	51.9	17.7	7.6	10.1	12.7
	ヤングケアラーではない	4,043	17.4	20.6	20.6	6.7	1.8	0.6	1.4
中学生	ヤングケアラー	172	25.0	66.9	44.2	19.8	6.4	4.7	9.9
	ヤングケアラーと思われる子ども	113	42.5	82.3	66.4	34.5	13.3	8.0	12.4
	ヤングケアラーではない	10,590	16.3	49.1	35.4	10.9	1.4	1.1	1.4
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	101	19.8	41.6	47.5	16.8	2.0	9.9	10.9
	ヤングケアラーと思われる子ども	70	40.0	60.0	64.3	30.0	5.7	20.0	22.9
	ヤングケアラーではない	6,534	14.7	42.2	45.8	13.8	0.6	4.0	2.8
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	10	10.0	30.0	20.0	10.0	10.0	10.0	10.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	13	46.2	30.8	69.2	30.8	7.7	23.1	23.1
	ヤングケアラーではない	513	8.8	34.9	41.1	8.6	0.6	3.1	3.5
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3
	ヤングケアラーと思われる子ども	5	0.0	60.0	60.0	20.0	0.0	20.0	20.0
	ヤングケアラーではない	127	17.3	43.3	47.2	11.0	1.6	4.7	3.1

		全体(n=)	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)	病気や障がいのある家族のこと	家族の日本語での読み書きや会話の手伝いや通訳をしないとけないこと	自分のために使える時間が少ない	その他	特にな	無回答
全体	ヤングケアラー	431	13.9	10.2	4.6	1.4	11.8	3.9	27.4	0.7
	ヤングケアラーと思われる子ども	280	53.9	36.1	16.1	4.6	38.9	5.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	21,837	3.9	2.8	0.8	0.2	2.5	1.2	39.3	1.4
小学生	ヤングケアラー	143	16.8	9.8	5.6	0.7	10.5	7.7	32.9	0.7
	ヤングケアラーと思われる子ども	79	46.8	40.5	15.2	6.3	40.5	6.3	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	4,043	3.8	2.7	0.8	0.1	2.3	1.7	54.8	2.2
中学生	ヤングケアラー	172	14.5	12.2	2.3	0.6	12.2	2.9	21.5	1.2
	ヤングケアラーと思われる子ども	113	59.3	36.3	14.2	5.3	32.7	6.2	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	10,590	4.2	2.9	0.7	0.2	2.2	1.1	36.7	1.4
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	101	8.9	6.9	6.9	3.0	10.9	0.0	27.7	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	70	54.3	31.4	18.6	1.4	47.1	1.4	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	6,534	3.5	2.9	1.0	0.2	3.0	1.0	33.8	1.0
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	10	20.0	20.0	10.0	10.0	30.0	10.0	50.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	13	69.2	30.8	23.1	7.7	38.5	7.7	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	513	4.9	2.3	0.4	0.6	3.1	1.6	39.4	1.0
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	5	0.0	40.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	127	3.1	4.7	2.4	0.8	4.7	3.1	39.4	0.0

④ この１年間で学校で大人に相談したこと

「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子どもともに、高校生（定時制）以外のどの学年においても、「ヤングケアラーではない（ヤングケアラーにあてはまらない）」に比べて、この１年間で学校で大人に「相談したことがある」割合が高くなっている。

図表 46 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 この１年間で学校で大人に相談したこと
(%)

		全体 (n=)	相談したこ とがある	相談したこ とがない	無回答
全体	ヤングケアラー	431	40.6	58.0	1.4
	ヤングケアラーと思われる子ども	280	39.3	59.6	1.1
	ヤングケアラーではない	21,837	32.9	66.0	1.1
小学生	ヤングケアラー	143	44.8	53.8	1.4
	ヤングケアラーと思われる子ども	79	32.9	64.6	2.5
	ヤングケアラーではない	4,043	30.2	68.1	1.6
中学生	ヤングケアラー	172	39.5	58.7	1.7
	ヤングケアラーと思われる子ども	113	42.5	57.5	0.0
	ヤングケアラーではない	10,590	32.5	66.4	1.1
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	101	37.6	61.4	1.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	70	45.7	54.3	0.0
	ヤングケアラーではない	6,534	35.0	64.3	0.6
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	10	20.0	80.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	13	23.1	69.2	7.7
	ヤングケアラーではない	513	34.7	63.5	1.8
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	3	66.7	33.3	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	5	20.0	80.0	0.0
	ヤングケアラーではない	127	33.9	63.8	2.4

⑤ 学校の大人への相談のしやすさ

学校の大人への相談のしやすさについて「相談しやすい」とあげた割合をみると、「ヤングケアラー」と思われる子どもは、「ヤングケアラー」の子どもに比べいずれも低い傾向となっている。

図表 47 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 悩んだり困ったりしたことを相談しやすいか_「相談しやすい」割合 (%)

		全体 (n=)	担任の先生	保健室の先生 (養護教諭)	カウンセラー の先生
全体	ヤングケアラー	431	46.4	46.4	33.9
	ヤングケアラーと思われる子ども	280	21.8	23.2	20.0
	ヤングケアラーではない	21,837	47.5	33.5	24.6
小学生	ヤングケアラー	143	42.0	52.4	36.4
	ヤングケアラーと思われる子ども	79	17.7	22.8	21.5
	ヤングケアラーではない	4,043	46.0	41.1	27.4
中学生	ヤングケアラー	172	45.3	46.5	37.2
	ヤングケアラーと思われる子ども	113	21.2	26.5	21.2
	ヤングケアラーではない	10,590	48.2	36.1	29.1
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	101	51.5	34.7	25.7
	ヤングケアラーと思われる子ども	70	28.6	20.0	15.7
	ヤングケアラーではない	6,534	47.5	25.5	16.3
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	10	70.0	70.0	20.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	13	15.4	15.4	30.8
	ヤングケアラーではない	513	42.7	24.0	15.0
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	3	33.3	33.3	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	5	20.0	20.0	0.0
	ヤングケアラーではない	127	52.0	33.1	22.0

⑥「ヤングケアラー」の言葉の認知度

「ヤングケアラー」の子どもはどの学年においても、「ヤングケアラー」と思われる子どもや「ヤングケアラーではない（ヤングケアラーにあてはまらない）」に比べて、「聞いたことはない」割合が高くなっている。

図表 48 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 「ヤングケアラー」の言葉の認知度

(%)

		全体 (n)	聞いたことがあり、 内容も知っている	聞いたことはあるが、 よく知らない	聞いたことはない	無回答
全体	ヤングケアラー	431	22.7	34.8	42.0	0.5
	ヤングケアラーと思われる子ども	280	36.1	40.4	22.9	0.7
	ヤングケアラーではない	21,837	48.9	32.8	17.6	0.7
小学生	ヤングケアラー	143	7.7	23.8	68.5	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	79	24.1	30.4	44.3	1.3
	ヤングケアラーではない	4,043	20.5	29.4	49.5	0.5
中学生	ヤングケアラー	172	23.3	41.9	34.9	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	113	40.7	45.1	13.3	0.9
	ヤングケアラーではない	10,590	50.0	37.7	11.9	0.5
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	101	41.6	38.6	17.8	2.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	70	41.4	41.4	17.1	0.0
	ヤングケアラーではない	6,534	64.2	27.3	7.6	0.9
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	10	30.0	30.0	40.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	13	30.8	61.5	7.7	0.0
	ヤングケアラーではない	513	55.4	32.6	10.9	1.2
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	3	33.3	33.3	33.3	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	5	60.0	20.0	20.0	0.0
	ヤングケアラーではない	127	59.1	24.4	15.7	0.8

⑦「ヤングケアラー相談窓口」について「知っており、相談したことのある」子ども

「ヤングケアラー相談窓口」である、「24 時間電話相談窓口」「相談支援センター」「SNS 相談窓口（LINE）」ともに、「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども、「ヤングケアラーではない（ヤングケアラーにあてはまらない）」のいずれも学年を問わず、「知っており、相談したことのある」子どもは少なかった。

図表 49 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 「ヤングケアラー相談窓口」について「知っており、相談したことがある」 (%)

		全体(n=)	24 時間電話 相談窓口	相談支援 センター	SNS 相談 窓口 (LINE)
全体	ヤングケアラー	431	2.8	3.7	3.9
	ヤングケアラーと思われる子ども	280	3.2	2.5	2.1
	ヤングケアラーではない	21,837	0.7	0.7	1.0
小学生	ヤングケアラー	143	1.4	4.2	4.2
	ヤングケアラーと思われる子ども	79	2.5	2.5	3.8
	ヤングケアラーではない	4,043	0.5	0.5	0.5
中学生	ヤングケアラー	172	1.7	1.7	1.7
	ヤングケアラーと思われる子ども	113	2.7	0.9	0.0
	ヤングケアラーではない	10,590	0.5	0.5	0.8
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	101	5.0	5.0	5.9
	ヤングケアラーと思われる子ども	70	4.3	2.9	1.4
	ヤングケアラーではない	6,534	1.0	1.0	1.5
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	10	10.0	10.0	10.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	13	7.7	7.7	7.7
	ヤングケアラーではない	513	1.4	2.3	2.3
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	3	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	5	0.0	20.0	20.0
	ヤングケアラーではない	127	0.8	0.8	1.6

⑧「24 時間電話相談窓口」、「相談支援センター」、「SNS 相談窓口」へ相談したことがない理由

「24 時間電話相談窓口」、「相談支援センター」、「SNS 相談窓口」へ相談したことがない理由については、いずれの窓口においても、「ヤングケアラー」では「特に相談する必要があるから」が比較的高くなっている。また、「ヤングケアラー」と思われる子どもでは、「相談しても何もかわらないと思うから」も2～3割が多くなっている。

図表 50 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 「24 時間電話相談窓口」相談したことがない理由（複数回答） (%)

		全体 (n=)	特に相談する 必要がないから	何を話したらよいか わからないから	話を聞いてもらえるか 不安だから	話を聞いてくれる人が どんな人かわからない から	電話で話をするのが 苦手だから
全体	ヤングケアラー	122	59.8	27.9	14.8	17.2	23.8
	ヤングケアラーと思われる 子ども	105	34.3	39.0	21.0	30.5	28.6
	ヤングケアラーではない	6,248	89.9	9.2	3.6	7.1	6.3
小学生	ヤングケアラー	47	53.2	34.0	17.0	19.1	25.5
	ヤングケアラーと思われる 子ども	39	28.2	43.6	25.6	38.5	35.9
	ヤングケアラーではない	1,049	82.6	15.7	6.9	14.9	11.2
中学生	ヤングケアラー	54	57.4	24.1	18.5	22.2	27.8
	ヤングケアラーと思われる 子ども	41	34.1	43.9	19.5	29.3	24.4
	ヤングケアラーではない	3,369	91.1	8.7	3.3	6.6	5.9
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	17	88.2	17.6	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる 子ども	20	50.0	25.0	10.0	15.0	20.0
	ヤングケアラーではない	1,655	92.1	5.9	2.3	3.0	4.0
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	3	66.7	33.3	0.0	0.0	33.3
	ヤングケアラーと思われる 子ども	3	33.3	33.3	66.7	33.3	66.7
	ヤングケアラーではない	128	91.4	9.4	3.1	6.3	5.5
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	1	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	ヤングケアラーと思われる 子ども	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	ヤングケアラーではない	41	82.9	17.1	4.9	14.6	7.3

(%)

		全体 (n=)	電話で相談しているこ とを親や友人など周 りの人に知られたく ないから	相談しても何もかわ らないと思うから	相談する時間がない から	その他	無回答
全体	ヤングケアラー	122	18.9	14.8	14.8	2.5	0.8
	ヤングケアラーと思われる 子ども	105	30.5	32.4	22.9	6.7	1.0
	ヤングケアラーではない	6,248	5.6	5.6	2.9	0.8	0.9
小学生	ヤングケアラー	47	25.5	12.8	17.0	2.1	2.1
	ヤングケアラーと思われる 子ども	39	48.7	30.8	35.9	7.7	0.0
	ヤングケアラーではない	1,049	11.3	8.0	4.7	1.9	1.0
中学生	ヤングケアラー	54	18.5	20.4	16.7	1.9	0.0
	ヤングケアラーと思われる 子ども	41	29.3	34.1	17.1	7.3	2.4
	ヤングケアラーではない	3,369	5.5	5.3	2.7	0.5	0.9
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	17	0.0	5.9	5.9	5.9	0.0
	ヤングケアラーと思われる 子ども	20	0.0	30.0	10.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	1,655	2.1	4.4	2.1	0.7	0.8
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる 子ども	3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	128	6.3	8.6	2.3	0.0	0.8
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる 子ども	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	ヤングケアラーではない	41	2.4	9.8	4.9	0.0	0.0

図表 51 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 「相談支援センター」相談したこと

がない理由（複数回答）

(%)

		全体 (n=)	特に相談する 必要がないから	何を話したらよいか わからないから	話を聞いてもらえるか 不安だから	話を聞いてくれる人が どんな人かわからない から	直接会って、話をする のが苦手だから
全体	ヤングケアラー	124	55.6	28.2	16.9	16.1	20.2
	ヤングケアラーと思われる 子ども	93	26.9	44.1	23.7	34.4	32.3
	ヤングケアラーではない	5,302	89.0	9.3	3.8	6.4	6.1
小学生	ヤングケアラー	47	57.4	31.9	21.3	25.5	29.8
	ヤングケアラーと思われる 子ども	32	25.0	53.1	21.9	40.6	37.5
	ヤングケアラーではない	912	82.7	15.8	6.8	12.8	13.7
中学生	ヤングケアラー	55	49.1	23.6	20.0	10.9	18.2
	ヤングケアラーと思われる 子ども	38	23.7	42.1	31.6	34.2	34.2
	ヤングケアラーではない	2,770	90.5	8.7	3.4	6.1	5.1
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	18	77.8	27.8	0.0	11.1	5.6
	ヤングケアラーと思われる 子ども	16	43.8	31.3	6.3	18.8	12.5
	ヤングケアラーではない	1,474	90.7	6.1	2.7	2.9	3.4
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる 子ども	5	20.0	40.0	20.0	60.0	60.0
	ヤングケアラーではない	107	86.9	8.4	1.9	6.5	1.9
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる 子ども	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	35	80.0	20.0	14.3	11.4	17.1

(%)

		全体 (n=)	直接会って、相談して いることを親や友人な ど周りの人に知られ たくないから	相談しても何もかわ らないと思うから	相談する時間がない から	その他	無回答
全体	ヤングケアラー	124	14.5	16.1	9.7	0.0	3.2
	ヤングケアラーと思われる 子ども	93	33.3	29.0	24.7	5.4	2.2
	ヤングケアラーではない	5,302	4.8	4.7	2.6	0.4	2.0
小学生	ヤングケアラー	47	21.3	19.1	8.5	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる 子ども	32	53.1	21.9	28.1	0.0	6.3
	ヤングケアラーではない	912	10.4	7.0	3.9	1.1	2.6
中学生	ヤングケアラー	55	12.7	18.2	12.7	0.0	3.6
	ヤングケアラーと思われる 子ども	38	28.9	34.2	23.7	7.9	0.0
	ヤングケアラーではない	2,770	4.7	4.2	2.7	0.2	1.5
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	18	5.6	5.6	5.6	0.0	5.6
	ヤングケアラーと思われる 子ども	16	6.3	37.5	12.5	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	1,474	1.8	3.9	1.5	0.4	2.6
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
	ヤングケアラーと思われる 子ども	5	40.0	20.0	60.0	20.0	0.0
	ヤングケアラーではない	107	1.9	5.6	1.9	0.0	4.7
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる 子ども	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	ヤングケアラーではない	35	5.7	5.7	5.7	0.0	0.0

図表 52 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 「SNS 相談窓口（LINE）」相談したこ

とがない理由（複数回答）

(%)

		全体 (n=)	特に相談する 必要が ないから	何を話したらよいか わからないから	話を聞いてもらえるか 不安だから	話を聞いてくれる人が どんな人かわからない から	SNS（LINE）で相談して いることを親や友人な ど周りの人に知られ たくないから
全体	ヤングケアラー	121	58.7	26.4	17.4	15.7	16.5
	ヤングケアラーと思われる 子ども	114	34.2	45.6	18.4	30.7	29.8
	ヤングケアラーではない	7,061	89.5	8.4	3.5	6.3	4.8
小学生	ヤングケアラー	46	60.9	32.6	19.6	19.6	15.2
	ヤングケアラーと思われる 子ども	38	28.9	57.9	23.7	50.0	47.4
	ヤングケアラーではない	1,222	82.2	13.9	5.9	12.4	9.9
中学生	ヤングケアラー	52	50.0	23.1	23.1	17.3	19.2
	ヤングケアラーと思われる 子ども	49	32.7	40.8	20.4	24.5	28.6
	ヤングケアラーではない	3,792	90.5	7.9	3.2	6.0	4.7
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	21	76.2	23.8	0.0	4.8	9.5
	ヤングケアラーと思われる 子ども	22	50.0	36.4	9.1	13.6	9.1
	ヤングケアラーではない	1,867	92.2	5.8	2.4	3.1	1.7
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる 子ども	3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	136	89.7	6.6	4.4	6.6	2.2
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	ヤングケアラーと思われる 子ども	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	ヤングケアラーではない	38	84.2	13.2	2.6	7.9	5.3

(%)

		全体 (n=)	相談しても何もかわ らないと思うから	相談する時間がない から	SNS(LINE)を使ってい ないから	その他	無回答
全体	ヤングケアラー	121	14.9	11.6	6.6	0.8	2.5
	ヤングケアラーと思われる子ども	114	29.8	20.2	12.3	4.4	3.5
	ヤングケアラーではない	7,061	5.0	2.3	3.0	0.5	2.1
小学生	ヤングケアラー	46	19.6	17.4	13.0	0.0	2.2
	ヤングケアラーと思われる子ども	38	26.3	31.6	18.4	0.0	5.3
	ヤングケアラーではない	1,222	7.4	3.8	11.1	1.4	2.8
中学生	ヤングケアラー	52	15.4	9.6	3.8	0.0	3.8
	ヤングケアラーと思われる子ども	49	32.7	16.3	14.3	6.1	4.1
	ヤングケアラーではない	3,792	4.9	2.1	1.9	0.2	2.0
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	21	4.8	4.8	0.0	4.8	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	22	31.8	4.5	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	1,867	3.6	1.4	0.1	0.5	1.8
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	3	33.3	66.7	0.0	33.3	0.0
	ヤングケアラーではない	136	6.6	2.9	0.0	0.0	2.9
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	ヤングケアラーではない	38	7.9	5.3	0.0	0.0	0.0

⑨ 今の生活の満足度

「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子どもともに、「ヤングケアラーではない（ヤングケアラーにあてはまらない）」に比べて、今の生活の満足度の平均点が低く、中でも、「ヤングケアラー」と思われる子どもの平均点は5点前後と、他に比べて1点以上の差がある。

図表 53 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 今の生活の満足度 (%)

		全体 (n=)	0 点	1 点	2 点	3 点	4 点	5 点	6 点
全 体	ヤングケアラー	431	2.8	1.6	2.8	6.3	8.8	13.5	7.9
	ヤングケアラーと思われる子ども	280	5.0	4.6	5.4	13.6	11.1	21.8	10.7
	ヤングケアラーではない	21,837	0.6	0.4	0.9	2.3	3.8	9.7	8.5
小 学 生	ヤングケアラー	143	2.1	2.1	2.1	5.6	11.2	13.3	7.7
	ヤングケアラーと思われる子ども	79	3.8	3.8	5.1	10.1	10.1	13.9	11.4
	ヤングケアラーではない	4,043	0.5	0.4	0.6	1.8	2.7	6.8	5.9
中 学 生	ヤングケアラー	172	1.7	1.7	2.3	6.4	8.7	15.1	8.7
	ヤングケアラーと思われる子ども	113	3.5	5.3	5.3	16.8	12.4	19.5	9.7
	ヤングケアラーではない	10,590	0.6	0.4	0.8	2.2	3.6	8.8	7.6
高 校 生 (全 日 制)	ヤングケアラー	101	5.0	0.0	4.0	6.9	6.9	11.9	7.9
	ヤングケアラーと思われる子ども	70	8.6	5.7	5.7	11.4	12.9	27.1	12.9
	ヤングケアラーではない	6,534	0.7	0.5	1.1	2.6	4.4	12.6	11.5
高 校 生 (定 時 制)	ヤングケアラー	10	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0	10.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	13	7.7	0.0	7.7	15.4	0.0	53.8	0.0
	ヤングケアラーではない	513	1.4	1.2	2.1	2.7	7.6	15.8	9.6
高 校 生 (通 信 制)	ヤングケアラー	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	5	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	20.0
	ヤングケアラーではない	127	0.8	1.6	2.4	2.4	6.3	10.2	8.7

(%)

		全体 (n=)	7 点	8 点	9 点	10点	無回答	平 均
全 体	ヤングケアラー	431	10.4	15.1	10.2	20.4	0.2	6.7
	ヤングケアラーと 思われる子ども	280	12.9	7.9	4.3	2.9	0.0	4.9
	ヤングケアラー ではない	21,837	14.9	20.7	14.0	24.1	0.1	7.6
小 学 生	ヤングケアラー	143	10.5	10.5	10.5	24.5	0.0	6.8
	ヤングケアラーと 思われる子ども	79	17.7	11.4	8.9	3.8	0.0	5.6
	ヤングケアラー ではない	4,043	11.2	19.0	17.8	33.1	0.1	8.1
中 学 生	ヤングケアラー	172	8.1	16.3	12.8	18.0	0.0	6.7
	ヤングケアラーと 思われる子ども	113	12.4	9.7	1.8	3.5	0.0	4.9
	ヤングケアラー ではない	10,590	14.8	21.2	15.4	24.6	0.1	7.7
高 校 生 (全 日 制)	ヤングケアラー	101	15.8	17.8	5.9	16.8	1.0	6.5
	ヤングケアラーと 思われる子ども	70	10.0	1.4	2.9	1.4	0.0	4.4
	ヤングケアラー ではない	6,534	17.4	21.3	9.9	18.0	0.1	7.2
高 校 生 (定 時 制)	ヤングケアラー	10	0.0	20.0	10.0	30.0	0.0	6.5
	ヤングケアラーと 思われる子ども	13	0.0	7.7	7.7	0.0	0.0	4.6
	ヤングケアラー ではない	513	13.3	17.3	8.6	20.3	0.2	6.9
高 校 生 (通 信 制)	ヤングケアラー	3	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	9.3
	ヤングケアラーと 思われる子ども	5	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.2
	ヤングケアラー ではない	127	15.0	19.7	7.1	26.0	0.0	7.3

「ヤングケアラー」と「ヤングケアラー」と思われる子どもを合わせた今の生活の満足度の平均は 6.0 点となっており、「ヤングケアラー」ではない子どもの平均 7.6 点に比べて、1.6 点低くなっている。

図表 54 「ヤングケアラー」＋「ヤングケアラー」と思われる子どもの今の生活の満足度 (点)

		全 体	小学生	中学生	高校生 (全 日 制)	高校生 (定 時 制)	高校生 (通 信 制)
全 体 (n=)		711	222	285	171	23	8
ヤングケアラー ＋ヤングケアラー と思われる子 ども	R6	6.0	6.3	6.0	5.6	5.4	6.8
	R5	5.4	5.6	5.4	5.3	5.8	5.8

⑩ この１年間で、自身や周りの人の意識や行動で変わったと思うこと

この１年間で、自身や周りの人の意識や行動で変わったと思うことは、「自分が、ヤングケアラーについてよく理解できるようになった」は、いずれの学年においても、「ヤングケアラー」ではない子どもは３割程度、特に中学生では４割となっている。一方、高校生以上の「ヤングケアラー」「ヤングケアラー」と思われる子どもでは２割以下となっている。

「自分がヤングケアラーだと気づき、困った時は周りの人に助けを求めてよいとわかった」は、「ヤングケアラー」で小・中学生では１割程度、高校生では僅かとなっている。

図表 55 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 「24 時間電話相談窓口」相談したことがない理由（複数回答） (%)

		全体（n＝	自分が、ヤングケアラーについてよく理解でき るようになった	自分が、ヤングケアラーについて もっと知りたいと思 った	ヤングケアラーについて 教えてあげた	家族や周りの人に、ヤ ングケアラーについて ことが増えた	周りの人とヤングケア ラーについて話をす ることが増えた	ヤングケアラーの相談 窓口を見ることが増 えた
全体	ヤングケアラー	431	27.4	16.7	7.0	2.3	4.9	
	ヤングケアラーと思われる 子ども	280	23.9	15.7	3.6	2.1	7.9	
	ヤングケアラーではない	21,837	35.8	13.2	3.2	1.7	5.2	
小学生	ヤングケアラー	143	30.1	21.7	6.3	0.7	5.6	
	ヤングケアラーと思われる 子ども	79	29.1	25.3	5.1	3.8	10.1	
	ヤングケアラーではない	4,043	32.3	17.7	3.3	0.8	3.2	
中学生	ヤングケアラー	172	33.7	19.2	8.1	3.5	5.8	
	ヤングケアラーと思われる 子ども	113	25.7	12.4	3.5	1.8	5.3	
	ヤングケアラーではない	10,590	40.4	12.6	3.2	1.6	5.8	
高校生 （全日制）	ヤングケアラー	101	16.8	5.9	6.9	2.0	3.0	
	ヤングケアラーと思われる 子ども	70	18.6	10.0	0.0	0.0	10.0	
	ヤングケアラーではない	6,534	31.3	11.8	3.1	2.1	5.6	
高校生 （定時制）	ヤングケアラー	10	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	
	ヤングケアラーと思われる 子ども	13	7.7	23.1	15.4	7.7	7.7	
	ヤングケアラーではない	513	26.9	9.2	2.7	2.9	4.7	
高校生 （通信制）	ヤングケアラー	3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	
	ヤングケアラーと思われる 子ども	5	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ヤングケアラーではない	127	33.9	15.7	7.1	2.4	3.1	

(%)

		全体 (n=)	ヤングケアラーで困っている人 がいないか気にするようになった	ヤングケアラーかもしれない人 に声をかけた	自分がヤングケアラーだと気づ き、困った時は周りの人に助け を求めてよいとわかった	その他	特になし	無回答
全体	ヤングケアラー	431	8.6	2.1	8.6	0.5	46.2	3.0
	ヤングケアラーと思われる 子ども	280	7.5	2.9	3.2	2.9	53.9	1.4
	ヤングケアラーではない	21,837	8.4	0.7	1.8	0.3	46.9	0.7
小学生	ヤングケアラー	143	10.5	3.5	13.3	0.0	44.1	2.1
	ヤングケアラーと思われる 子ども	79	11.4	5.1	5.1	1.3	41.8	1.3
	ヤングケアラーではない	4,043	10.2	1.2	3.4	0.7	48.1	0.8
中学生	ヤングケアラー	172	8.7	1.7	9.9	1.2	39.0	1.7
	ヤングケアラーと思われる 子ども	113	5.3	1.8	1.8	3.5	54.0	0.9
	ヤングケアラーではない	10,590	8.6	0.6	1.7	0.2	43.5	0.6
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	101	5.0	1.0	1.0	0.0	58.4	5.9
	ヤングケアラーと思われる 子ども	70	4.3	0.0	0.0	0.0	65.7	2.9
	ヤングケアラーではない	6,534	7.1	0.6	1.1	0.3	50.8	0.6
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	10	10.0	0.0	0.0	0.0	80.0	10.0
	ヤングケアラーと思われる 子ども	13	23.1	15.4	23.1	15.4	61.5	0.0
	ヤングケアラーではない	513	6.4	1.2	1.9	0.4	57.9	1.0
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
	ヤングケアラーと思われる 子ども	5	0.0	0.0	0.0	20.0	60.0	0.0
	ヤングケアラーではない	127	8.7	0.8	1.6	0.0	48.0	1.6

5. 自由意見

ヤングケアラーを助けるため必要なこと、助けてほしいことについて主な意見は以下のとおり。

<小学生>

自身がヤングケアラーに「あてはまる」とする子どもの主な意見

項目	主な意見(抜粋)
助けてほしい、理解してほしい	・心が病んでいる時に助けてほしい ・助けてほしいけどよくわからない ・理解してほしい ・いつも孤独の日々 ・相談を聞いてほしい
声かけ、相談	・友だちが知らなかったら教えてあげる ・周りを見ながら行動し、困っている人がいたら優しく声をかけてあげる ・相談をしてあげる ・ヤングケアラーはストレスを感じる事があるから、ヤングケアラーがいたら相談に乗りたい
自由な時間や場所	・一人の時間がほしい ・悩み事があるときに一人になれる時間、一人でいるときにスッキリしそうなことなど ・リフレッシュできる場所、時間が必要
学校の対応	・宿題など家での勉強のサポートや、自分が学校に行こうと思えるようなサポートがほしい ・学校の下校時間を毎日早めてほしい
支援	・支援をしっかりとる ・ママの洗濯やご飯の支度。自分とママの自由時間が持てるようにしたい

「ヤングケアラー」と思われる子どもの主な意見

項目	主な意見(抜粋)
声かけ、相談にのる	・ヤングケアラーの人には積極的に声をかけたほうがいい ・話をきいてあげたい ・相談にのる
相談する	・相談させてほしい
相談しやすい環境づくり	・定期的にヤングケアラーの子どもたちに寄り添い、相談をする窓口をつくってあげてほしい ・ヤングケアラーひとりひとりに、支援をしてあげてほしい ・周りを気遣って察してあげる。相談しやすい環境を作ってあげる。自分がヤングケアラーなら周りに話を聞いてほしい ・相談窓口などの呼びかけをもっと強めたり、近くにヤングケアラーの人がいたら、相談窓口を教えてあげるなど、自分でできる小さな手助けをしてもらうように呼びかける ・もっと身近に相談があるようにしてほしい
一人の時間 親との分離	・一人の時間が欲しくても作れないので、どうしたらいいか ・過去、親との仲が悪くなくて、親の機嫌を取るようになっていた。相談しても何も変わらない。親といると疲れてしまうので、子どもが休める所を作してほしい
育児・介護支援	・夜間の託児所 ・代わりに介護などをしてくれる人がいればいい ・高齢者施設にもっと効率よくスムーズに誰でも入れるようにしてほしい
経済的支援	・お金がない家庭、離婚をして生活が大変な人たちには、ご飯や洋服を寄付したり、月5万円とか少しでもお金をあげたほうがいい

自身がヤングケアラーに「あてはまらない」「わからない」とする子どもの主な意見

項目	主な意見(抜粋)
周知	・理解を広めることが大切。CMなどで告知をする ・チラシとかテレビでもっと出した方がいい。ヤングケアラーでもよく分かるように ・アンケートをしたり、インターネットなどでもっと「ヤングケアラー」を拡散する ・ポスターをコンビニなどのトイレの中の正面に貼る ・紙などを様々な場所に配布しすこしでもヤングケアラーをなくすように声掛けをする
理解	・周りの人の理解が必要 ・学校に遅れたりしてもみんなが理解し、許してあげる
気づく	・周りをよく見て、友達の少しの変化にも気づいてあげる ・友達がおかしいことに気がついて、友達に相談にのってあげたり、先生に話したりする ・周りの大人たちが子供たちの異変にいち早く気づきなるべく早く解決する
寄り添い	・寄り添って、一人にさせないこと ・その人の気持ちになってその辛さを自分も知ること。他人事ではなくまず分かち合う
話を聞く、声をかけ、相談に乗る	・話を聞いてあげるのが大切 ・様子を見て話しかける ・勇気を出して声をしっかりかける ・優しく話す。 ・相談に積極的に乗ってあげる。身近な人(家族や友人)に相談する ・相談にのってあげる。相手が少しでも楽になるよう話を聞いてあげる ・相談に乗ってあげたり、その相談を通して行動に移すことが必要 ・相談に乗ったり、自分に手伝えることがあったら手伝う ・誰でもいいので相談してほしい。一人で抱え込まないでほしい ・身の回りにヤングケアラーの人がいたら、相談に乗ってあげたり、授業などに追いついていなかったら、自分がわかる限りのことを教えてあげたりノートをとってあげたい ・自分が「ヤングケアラー」だったらいわれて嫌なことを言わないように相談を聞きたい。より傷つけないように気をつける
相談することが大事	・友達や家族などに相談することが大切だと思った ・仲の良い友だちなどに相談をしたい ・誰かに相談することが大事 ・相談してくれなければ周りの人もわからないのでその人が喋る勇気も必要
相談しやすい環境づくり・相談窓口の充実	・誰もが相談しやすい場所や雰囲気をつくる ・相談に乗っていいのかわからない人がいると思うので詳しく説明したほうがいい ・ヤングケアラーの子が相談しやすいように、周りの大人に知らせる ・自分から言うことができない子どもたちを支える取り組み。なかなか自分から言うのが難しいと思うから。 ・年上の人とかにはちょっと話しにくいと思うので、できるだけ同年代の人がいい ・ケータイを持ってなかったり、興味がないくらい時間がない人は相談しづらいのではないかな ・身近なところに相談できる場所(学校など) ・相談できる所を増やす ・相談窓口を教えてあげる ・相談窓口を増やしたり、チラシを配ったりして、知名度を上げ、悩みを抱えている人も気軽に相談できるようにする ・相談窓口も、もっと手軽に相談できるようにしたほうがいい。介護士などを気軽に雇えるようにするのもいい。 ・学校の先生などには相談しづらいので、もっと気軽に相談できるものがあったら良い ・気軽に相談できる場所が必要 ・気軽に相談できるチャットをつくる ・LINEなど匿名でできる相談窓口を増やす
カウンセラーの先生に相談	・母親によく暴力を振るわれたり家事もよくさせられていたが、カウンセラーに相談をして明るくなった ・もし私がヤングケアラーだったら、カウンセラーの先生に話を聞いてもらいたい
学校での対応	・ヤングケアラーを知らない人もいるので、学校での講座があるといい ・学校で、先生などの大人と一対一で話す機会を増やす ・学校で一週間に一回一対一で話す時間 ・学校などでヤングケアラーについてや相談できる場所を載せたプリントを配る ・学校などの取り組みでヤングケアラーのアンケートなどをすればいい

	・学校などで家庭の事情を聞いたり、親が聞けるような環境をつくる ・ボランティアなどで、ヤングケアラーや障害のある人達などの手伝いを特別授業などにして、交流などしてみたい
生活支援	・無料でお手伝いをしてくれる人 ・介護の人などのヤングケアラーをサポートする人が必要 ・介護士がたくさん必要 ・介護センターなどの福祉施設を無料で通えるようにする ・老人ホームやデイサービスなどに抵抗があるお年寄りがいるので、老人ホームやデイサービスの印象を変えたり、関心をもってもらえるように改善する ・障害者のいる家庭に支援の人を派遣したりお金をあげたりするとよい ・介護や保育などの施設をもっと充実させる ・家事を誰かにお手伝いしてほしい ・家事をやってほしい。買い物に行ってほしい ・家の手伝いなどをしてもらう人を紹介しその料金を支援する ・ヤングケアラーといっしょに介護や家事をする人をつくる
経済的支援	・学費・給食費の無償化 ・ヤングケアラーの人たちを補助金で支援する ・親や(病気の)きょうだいを介護施設や病院にいれるお金を市が負担する ・お金や人手を支援してほしい ・募金をしてあげて生活を支えてあげたい ・寄付する。助けたいと思う人が集まる団体を作る ・食べ物や飲み物などを支給
学習支援・居場所	・親が忙しい、親が病気、あるいは障害者などのこどもを預かって、その人にあった勉強などを受けさせるような施設があればいい ・学びの場の無償提供。年収による学習金、進学金のサポート。
アンケートを増やす	・直接話しづらい人がいると思うから、このようなアンケートを増やせば「ヤングケアラー」の人も話しやすい ・このようなアンケートをもっとすればいいと思う。 ・家庭でのアンケートのようなものを配布し、ヤングケアラーかどうかを知る機会を作る
ヤングケアラーの基準	・どこからがヤングケアラーか基準をはっきりすればいい。例えば「勉強をする時間が取れない」は、時間を入れるなどもう少し細かく聞いて答える側がはっきりと自分はヤングケアラーかどうか分かる質問がいい。誰もが「もしかしたら自分も…」と思うくらいにヤングケアラーの基準を下げたほうが効果的。軽いヤングケアラーこそ、そのままにしておくと状態が悪化していくので、どんなヤングケアラーの人でも見捨てずしっかりサポートしていくことが大切 ・ヤングケアラーかどうか判別できない人もいると思うから、どのような環境下なのか確認できることが必要
その他	・心配してくれるのはありがたいけど、言いたくなかったらいうからそんなに心配しないで欲しい ・ヤングケアラーの子に特別扱いをしたり気にしすぎたりすると逆に失礼だと思う。気にしすぎないのも大切 ・他の人に知られたくない人もいると思うから相談されても他の人にあまり言わないようにしたほうがいい

<中学生>

自身がヤングケアラーに「あてはまる」とする子どもの主な意見

項目	主な意見(抜粋)
相談に乗ってほしい、助けてほしい	・相談にのってほしい ・誰かの助けがほしい ・努力を認めてほしい
相談しやすい環境づくり	・自分から言いにくいから身近な人に気づいてあげてほしい ・優しく励ましたり、事情を聞いたりして少しずつ助けていく ・気軽に話せて情報が漏洩しないこと ・ヤングケアラーと思われる人に寄り添い、話を聞ける環境をたくさん作る
困り事	・手話がわからない
勉強時間や自由時間の確保	・たまに自分の時間や、勉強の時間が減っていることがある。 ・世話などで、宿題が出来る時間が少なく、ストレスや疲労が溜まり、寝不足で、体調不良になってしまう時がある。一人の時間が少なく、弟が全く、言うことが聞かなくて嫌になる ・自分の時間がほしい
支援	・母子家庭等の支援を増やしてほしい
その他	・ヤングケアラーは素晴らしいと思う ・ヤングケアラーは大事な事だと思った

「ヤングケアラー」と思われる子どもの主な意見

項目	主な意見(抜粋)
困り事	・家族との関係があんまり良くない ・勉強に追いつけているかわからないし、精神的に自分が不安定かもしれないから、少し助けてほしい気持ちがある ・外国人を助けて
声掛け、寄り添い	・普段から人にやさしくし、気にかけてあげる ・周りの早期発見 ・その人の今の状況を聞き、相手に寄り添ってあげる ・相談できる人がいればいいと思う ・ヤングケアラーの人は、話を聞いてもらえるだけで心の救いになると思うから、そういう人を見かけたら話しかけたりしてあげるのがいい
相談しやすい環境づくり	・気軽に相談しやすい環境を作る ・ヤングケアラーについてとか相談できる場所を多くの人に認知してもらう必要がある ・相談しやすい環境を作ることが大切。ヤングケアラーの人がいたら少しでも相談にのりたい
支援	・経済的な支援 ・国がもっと支援をうまくできるようにすればいい

自身がヤングケアラーに「あてはまらない」「わからない」とする子どもの主な意見

項目	主な意見(抜粋)
話を聞く、声を掛ける	・話を聞いてあげる ・話を聞いて、その人の気持ちが楽になるなら相談にのって上げようと思う ・話しかけてみる必要がある ・優しく接する ・相手の立場に寄り添ってあげる ・積極的にコミュニケーションをとる ・定期的に声掛けをする ・複数の目で見て、声をかけ支援すること ・「大丈夫?！」等の心配の言葉よりも寄り添ってほしい ・話しかけすぎず、時々普段の愚痴を聞くこと。それ以外はいつもどおりに接すること ・温かい言葉をかけること。無理に「相談に乗るよ」や「手伝うよ」という言葉をかけてしまうと相手は心の底で傷ついてしまうかもしれないからこそ、難しいけれど相手の気持ちを考えた上での言葉がけが必要
理解・啓発	・もっと多くの人に知ってもらう ・学校や周りの人の理解

項目	主な意見(抜粋)
	・ヤングケアラーでかわいそうと馬鹿にする人がいるので、理解を持ってもらいたい ・「可哀想」とか思わないでほしい ・家で自分の時間が取れないのが当たり前だと思っている人がいるかもしれないので、自分は助けて貰えるんだと、理解してもらうことが大事 ・ヤングケアラーはそれが当たり前だと思っているかもしれないので当たり前ではないことを知らせる ・ヤングケアラーの親にヤングケアラーを知らせる機会をもっと増やす ・チラシをもっと配布する
相談しやすい環境づくり	・同じ境遇の人たちに相談できれば安心感も増える ・相談しやすい環境を作ること ・身近に気楽に相談できるようなひとがいれば良い ・定期的なカウンセリング ・一人一人カウンセラーの先生と話す時間を設ける ・専用のフォームを作り、チャット式で困り事を聞く ・気軽に相談ができるようなサイト ・安心して相談できる相手が必要。電話先の顔も名前も年齢も知らない人にいきなり家の事の相談はしにくい。実際に会って対面しながら相談できたほうが、悩みの解消にもつながる ・ヤングケアラーは相談している時間がないので、電話とかは難しいと思う。電話ではない他の手段を考えることが良い
生活支援	・生活支援が必要 ・家事などの手伝い ・遅くまで小さい子を預かってくれる場所 ・税金でお手伝いさんを雇う ・ヘルパーやベビーシッター、家事代行サービスの教育を徹底し、その料金を無料化 ・家政婦や介護する人を税金で雇ってあげる。また施設に無料で預けさせる ・ボランティアを募集し、家に行って、生活の手伝いをする
経済的支援	・補助金などでヤングケアラーを支援する ・食料やお金などの支援をしっかりとる ・生活費を負担 ・お金の援助 ・お金。学校で行われる行事などの参加、行きたくても行けないということがないようにしてほしい ・お金ではなく物資を渡した方がいい ・こども食堂 ・ヤングケアラーに対して塾の費用などを無償にすればいい
アンケート	・このようなアンケートを定期的に行うことが必要 ・アンケートの実施をもっと増やしてヤングケアラーの人に気づく
自分の時間がもてる場所	・息抜きをする時間や場所が必要 ・ストレスを解消できる場所 ・こども食堂みたいな、同年代で集まれるような場所
福祉サービス等の充実	・預けられる施設やヘルパーさんが増えないといけない ・介護施設を増やす ・介護のしやすい道具または困っていることを解決してくれる道具 ・ヤングケアラーのかわりに無償で介護などを行ってくれるボランティアや施設 ・通訳が必要な親などの無料の日本語教室 ・ヤングケアラーの子供達や元ヤングケアラーの人たちを助ける法律がほしい ・学校や児童相談所、警察、病院、市役所、NPO 法人、支援団体、幼稚園や保育園、ベビーシッター、ヘルパー、家事代行サービスなどの連携

<高校生（全日制）>

自身がヤングケアラーに「あてはまる」とする子どもの意見

項目	主な意見（抜粋）
困り事	・学校に行くと家計が大変なことを隠すため笑顔で学校生活を送っているので時々辛くなる時がある。
相談	・相談に乗ったり助けたりする

「ヤングケアラー」と思われる子どもの意見

項目	主な意見（抜粋）
理解	・話を聞いて大変なのをわかって欲しい。
学校の対応	・介護度の高い家族や病気を患っている家族がいる家庭は、学校の授業を家でリモートで受けたり、何かあった場合すぐに対応できる環境が欲しい。共働きやひとり親の家庭環境だと家に介護度の高い家族や病気を患ってる家族が一人になってしまう可能性があり、とくに認知症の人は日中、徘徊をして行方不明になる可能性もあり、なにかあった場合助けることができないから

自身がヤングケアラーに「あてはまらない」「わからない」とする子どもの主な意見

項目	主な意見（抜粋）
話を聞く、声を掛ける、理解	・話を聞いて理解してあげることが大切 ・理不尽な事や嫌なことを自分から話す事ができないからただ話を聞いて欲しい ・理解すること ・相談に乗ってあげる。傍に寄り添ってあげる ・人の変化に気づくことが必要だと思う。ヤングケアラーと自覚していない人もいるから ・周りが気づいてあげたり、声掛けをすること ・自分だけで抱え込まないで大人に相談する
理解・啓発	・自分がヤングケアラーに該当すると自覚していない人がいるのではと感じたのでヤングケアラーはどのような人を指すのか具体例を挙げることが必要 ・自分がヤングケアラーかどうか分かる判断基準 ・自分がヤングケアラーだと自覚がない人もいると思うから積極的に呼びかけたら気を使うことが大切
寄り添い型支援	・「ヤングケアラー」であることに對して本人がどう思っているかを慮り、本人に寄り添った対応を心がけること。家庭環境や被介護者の状況により「ヤングケアラー」の状態も変わるため、画一的な対応はせず、よく話を聞いたうえで対応をする ・1人1人にしっかり寄り添っていく ・家の事情に無理に踏み込まず、相手の負担にならないくらいの解決方法を一緒に考えてあげたい
相談しやすい環境づくり	・一人で抱えるのではなく周りに伝えること ・もっと気軽に相談するシステムが必要 ・手伝いの境目で、「自分の時間は減っているけどヤングケアラーほどではないかも…」と思っている人も多いと思うので、軽く相談できる環境づくり ・もっと身近に気軽に相談に乗ってくれる人を作る必要がある ・相談窓口をもっと広めて、相談しやすい環境を作る ・相談できる機会を多く設けてそれを告知する ・相談できる手段を増やす
生活支援	・数年前までヤングケアラーだったが、習い事などの送迎をして欲しかった。家事などを手伝ってくれるサービスもあったら良かった ・自宅までお手伝いしてくれる人がきてくれること ・生活支援等の充実をさらにした方がいい ・料理、介護をお手伝いしてもらえるサービスを提供 ・無償支援制度 ・無料介護 ・大人の協力や助けてくれるような施設や店があてほしい ・家庭環境を地方自治体が介入して改善するべき

項目	主な意見(抜粋)
	・どんな支援が受けられるのかとかを当事者に伝えられるように取り組むのが大切
経済的支援	・経済的に支援すること ・国や県が金銭的な支援をする
学習支援	・学習の支援。自由時間の確保
アンケート	・このアンケートをすることによってヤングケアラーに悩んでいる人などが見つかると思う ・このアンケートの実施頻度を増やす
居場所	・学童のようなヤングケアラーで集まれる場所を作る
学校の対応	・学校の家庭訪問など、こどもの家庭の状態を調査できる取り組みが必要 ・学校の担任の理解、必要に応じて協力 ・ヤングケアラーが相談できる環境を学校で作る ・ヤングケアラーの子供達には学習機会など学校から対応してあげる必要がある ・授業にもっとヤングケアラーについて触れて学ぶ機会をつくると、知識だけでなくみんなが積極的にヤングケアラーの現状について相談、意見交換が活発して、助けることに繋がる ・校内で年に一度全員カウンセリングを受けることを義務づける ・教育機関でヤングケアラーについて発信する場を作る。他の社会問題に比べ、まだまだ理解が浸透していないと思う
福祉サービス等の充実	・保育施設の充実 ・介護施設をもっと充実させる ・介護施設や障がい者施設に入るための経済的支援をもっと負担して、お金がなくて施設に入れられない、という状況をなくす ・障害者施設の増設。実態の把握 ・日常的に介護などのサポートができるような資格、技術を持った人を増やし、ヤングケアラーが学校など外出している間に面倒を見てあげられるような体制づくり ・障がい者や高齢者がいる家庭への定期的な検査
制度づくり	・ヤングケアラーを助ける制度を作る
地域の協力	・地域全体で助け合うことが大切 ・地域の人の協力 ・地域の人との関わりを増やす ・地域としてたすけるための活動、啓発

<高校生（定時制）・（通信制）>

自身がヤングケアラーに「あてはまる」とする子どもの意見

項目	主な意見（抜粋）
相談	・相談に乗ってあげる

「ヤングケアラー」と思われる子どもの意見

項目	主な意見（抜粋）
周知	・取り組みを知ってもらうための誘導

自身がヤングケアラーに「あてはまらない」「わからない」とする子どもの主な意見

項目	主な意見（抜粋）
相談、理解	・相手の気持ちを尊重するのとして気に掛けること ・周囲の人間が作り出す、状況や場面に応じた雰囲気や環境が大事。そのためにはその人がどんな状況にあって本当はどうしたいのか何が辛いのか理解してあげる必要がある
相談しやすい環境づくり	・気軽に相談することのできる場所を増やす ・学校内での個別相談会 ・直接相談することは難しいことなので、SNS などを用いると相談しやすいのではないかな
生活支援	・ヤングケアラーになった背景の根本的原因について一緒に考え、話を聞くなど精神的なサポートをしながら現場へ行って手伝えるならば家政婦のようなことをする ・サポート出来る場所を見つけるお助け ・SNSなどで助けを呼べるような環境にする
経済的支援	・ヤングケアラーに寄付すればいい ・介護が必要な親族を病院やデイサービスに行かせられる手当を増やす
学習支援	・同世代同士で勉強を教えられるような仕組みを作ってほしい
啓発	・ヤングケアラーは自覚がないことがあり、親の介護を子がすることは当たり前、親のことが好きであり親孝行の気持ちが強い。もっとヤングケアラーについて知ってもらう機会が学校の講演会などであるといい ・学校などでちらし配布だけでなく、詳細を広める授業を実施し、ヤングケアラーについて様々な人に知ってもらう ・ヤングケアラーの実態を報道すること ・多くの人に知ってもらう ・もっと認知度を上げる

第III章 県政モニター調査

1. 調査について

県民の「ヤングケアラー」の認知度や意識を確認し、今後の県民意識の経年比較を行うために、県政モニターの登録者に対する「県政モニター調査」を実施した。サンプリングによる調査のため、回答者の属性ごとの回収割合は母集団の人口構成と異なる。そのため、県民の意見を適切に反映できるよう、回答者の属性ごとの回収割合を母集団の人口の構成比となるよう重みづけをして集計した。

<参考：重みづけについて>

例えば、①のように母集団の人口構成比と回収割合に差異がある場合、それらを比較して補正率を算出し（②）、男性の回収サンプルであれば「1.25」の重みづけをすることで、全人口に対する割合と同じ構成比にできる（③）。

①母集団と回収数（例）

	母集団の人口及び人口構成比		回収数及び回収割合	
	人口（人）	人口構成比（％）	回収数（人）	回収割合（％）
男性	1,000	50.0	120	40.0
女性	1,000	50.0	180	60.0
合計	2,000	100.0	300	100.0

②補正率（例）

	補正率
男性	1.25
女性	0.83

例：（男性の補正率）＝（母集団の男性の人口構成比）／（男性の回収割合）

③補正後の回収数（例）

	回収数（人）	回収割合（％）
男性	150	50.0
女性	150	50.0
合計	300	100.0

例：（男性の補正後の回収数）＝（男性の回収数）×（男性の補正率）

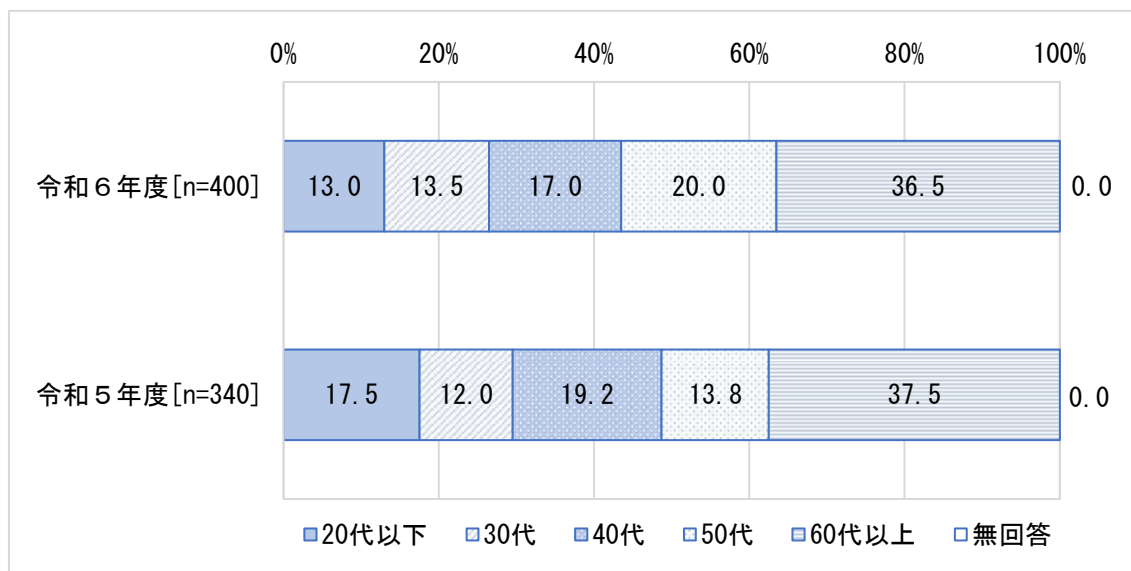
・重みづけの際の値は整数ではないため、重みづけ後の標本数は小数点以下を四捨五入した値となっている。
そのため、集計によっては総数と合わない場合がある。

2. 基礎情報

(1) 年代

年代は、「60代以上」が36.5%で最も高く、次いで「50代」(20.0%)、「40代」(17.0%)となっている。

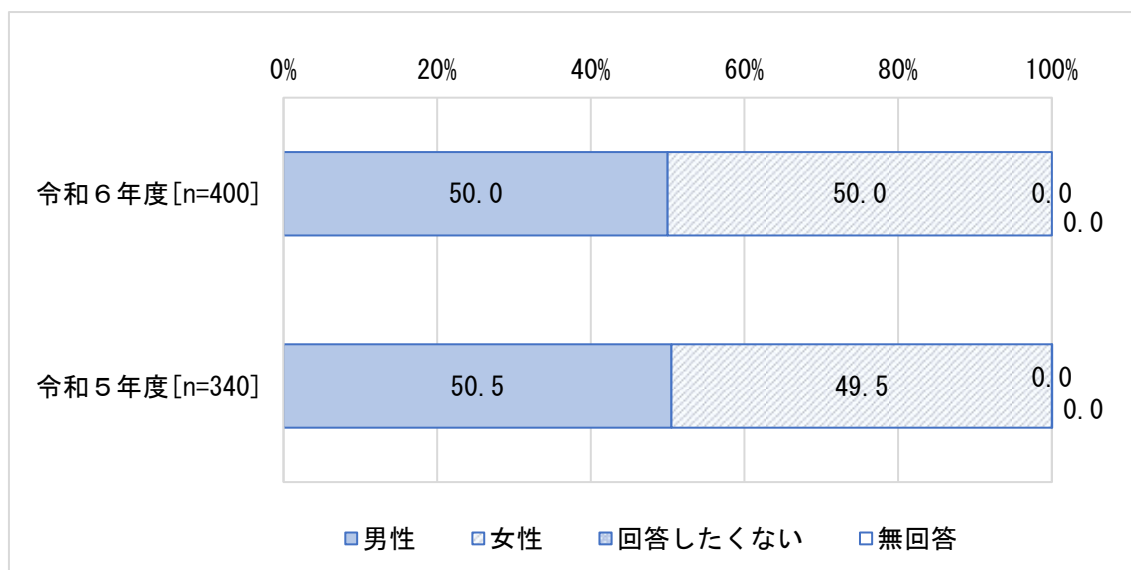
図表 56 年代



(2) 性別

性別は、「男性」「女性」と同じ割合である。

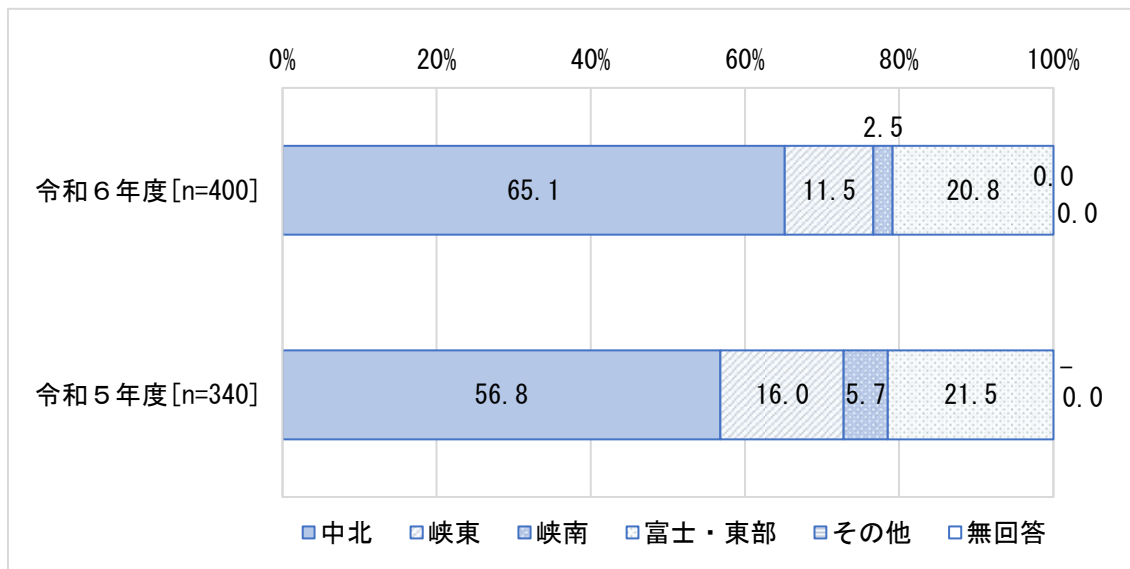
図表 57 性別



(3) 居住地

居住圏域は、「中北」が 65.1%と最も高く、次いで「富士・東部」(20.8%)、「峡東」(11.5%)となっている。

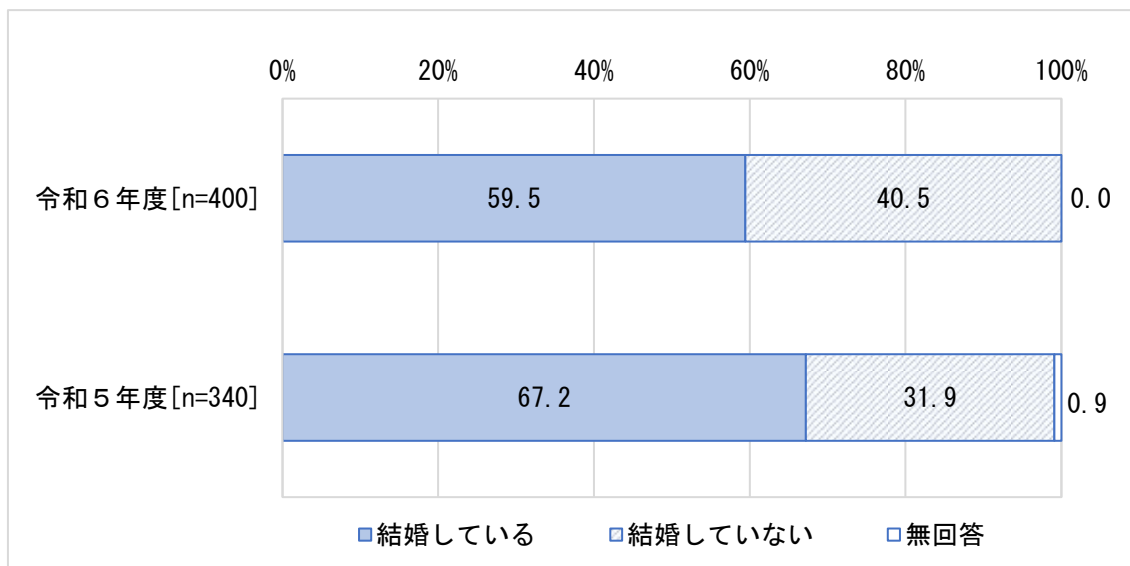
図表 58 居住圏域



(4) 婚姻状況

婚姻状況は、「結婚している」が 59.5%、「結婚していない」が 40.5%となっている。

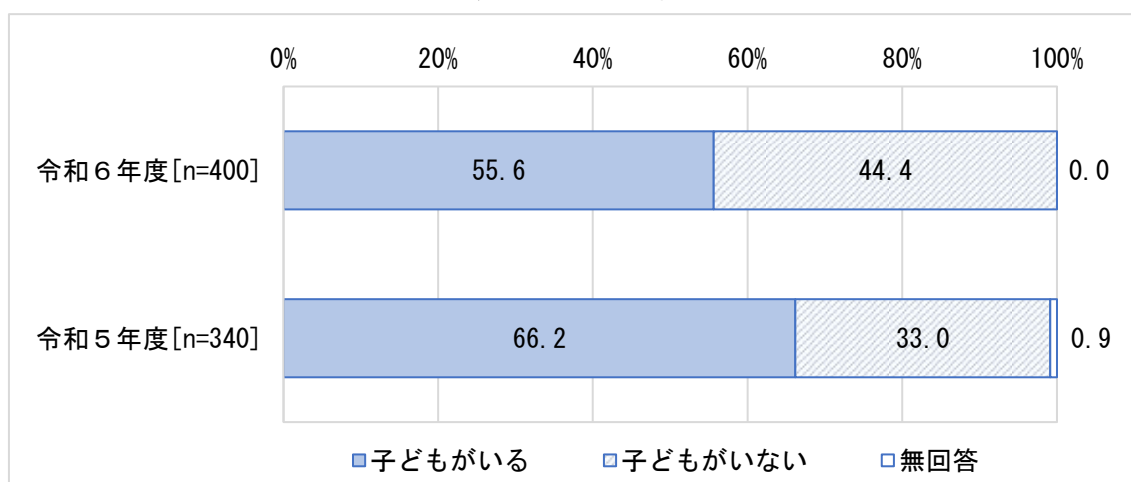
図表 59 婚姻状況



(5) 子どもの有無

子どもの有無は、「子どもがいる」が 55.6%となっている。

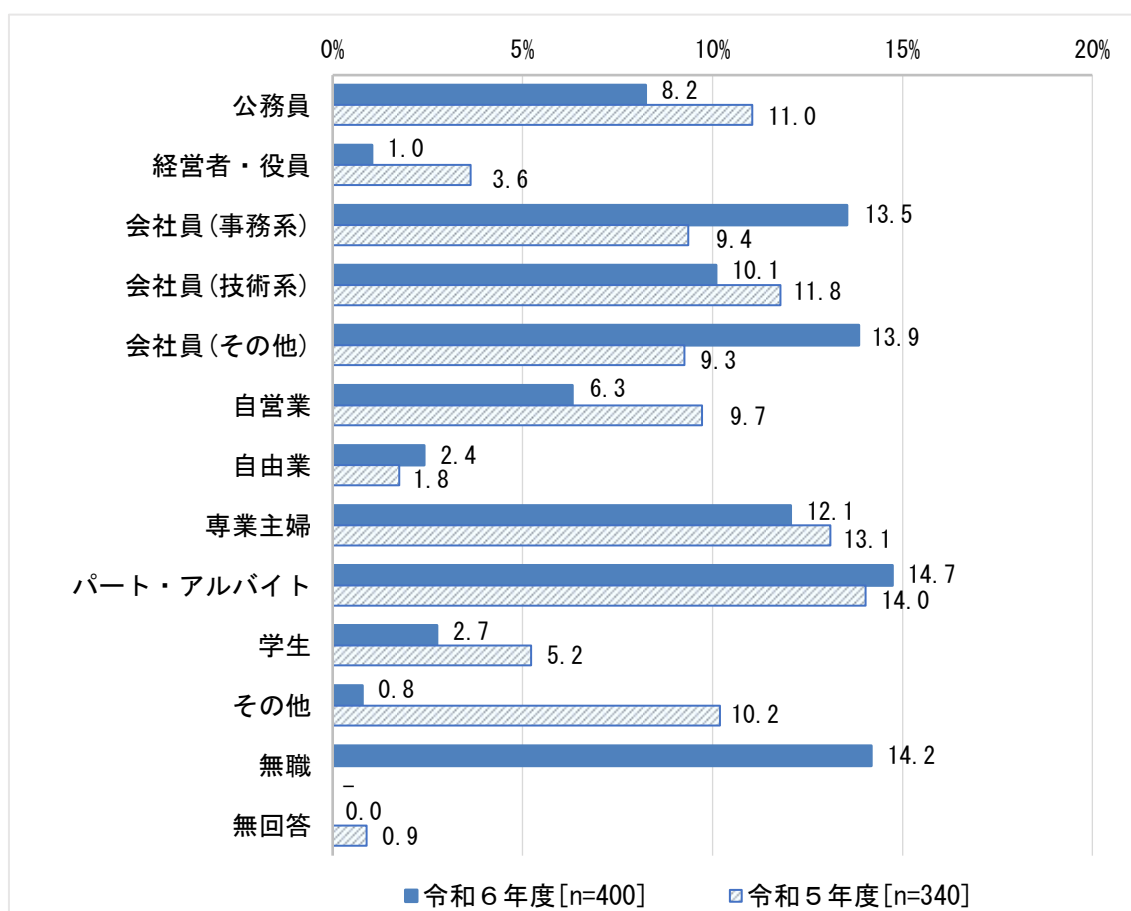
図表 60 子どもの有無



(6) 職業

職業は、「パート・アルバイト」が 14.7%で最も高く、次いで「無職」(14.2%)、「会社員(その他)」(13.9%)、「会社員(事務系)」(13.5%)となっている。

図表 61 職業

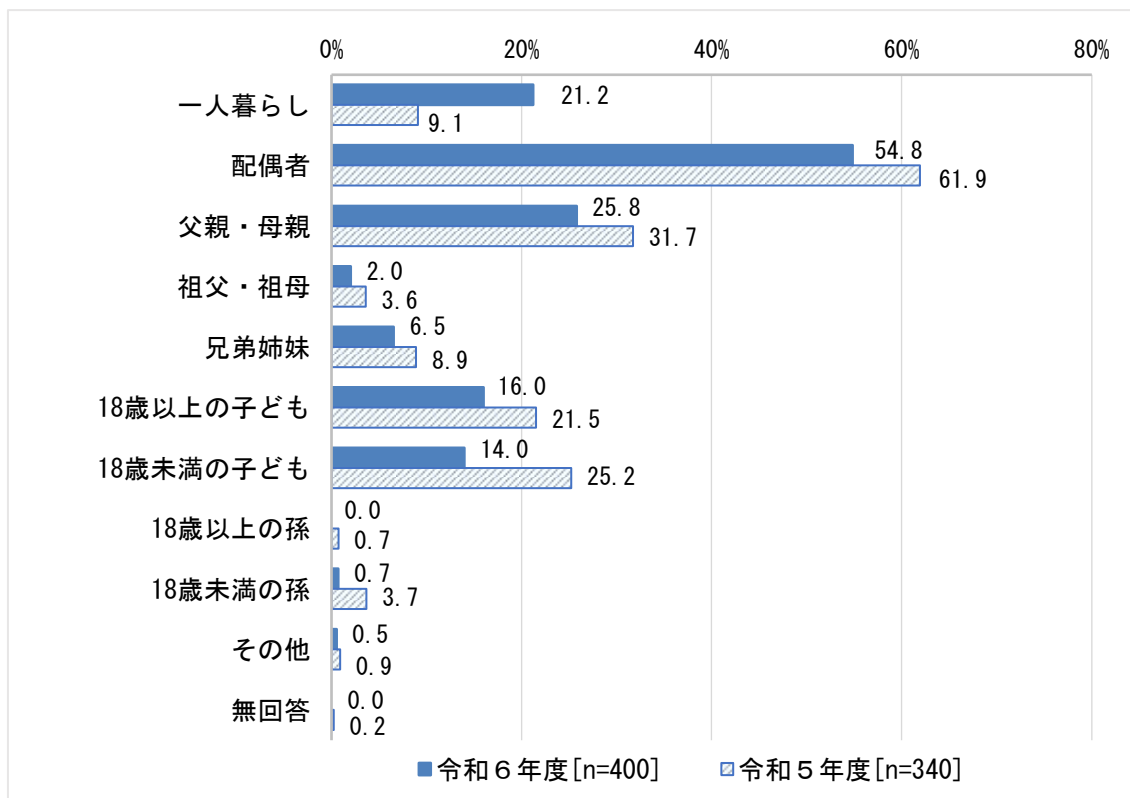


(7) 同居家族

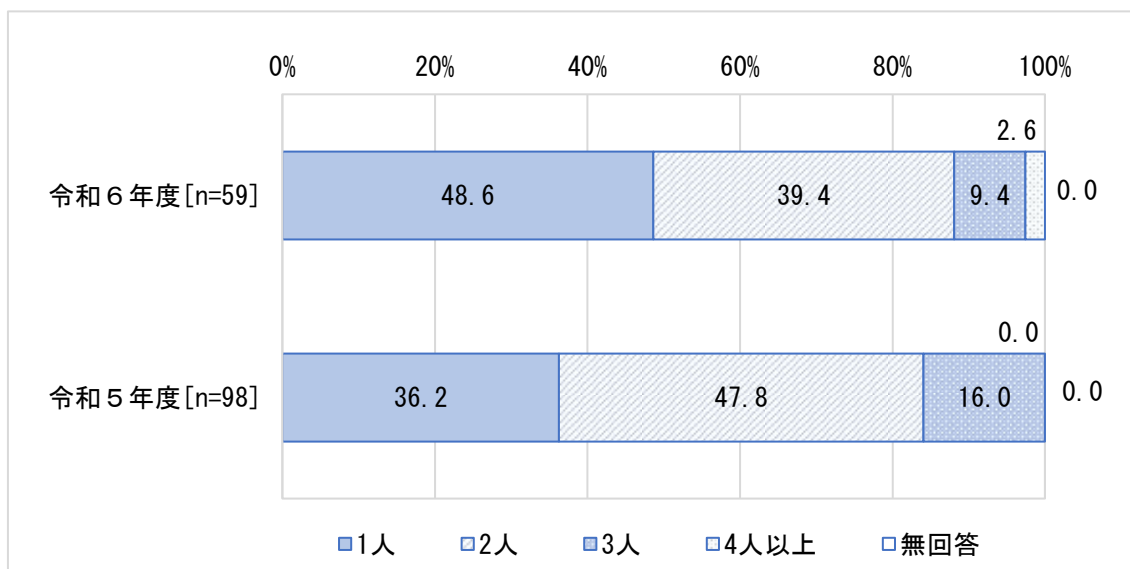
現在一緒に住んでいる家族は、「配偶者」が54.8%と最も高く、次いで「父親・母親」(25.8%)、「一人暮らし」(21.2%)、「18歳以上の子ども」(16.0%)、「18歳未満の子ども」(14.0%)となっている。

「18歳未満の子ども・孫」の人数は「1人」が48.6%で最も高く、次いで「2人」が39.4%となっている。

図表 62 同居家族（複数回答）



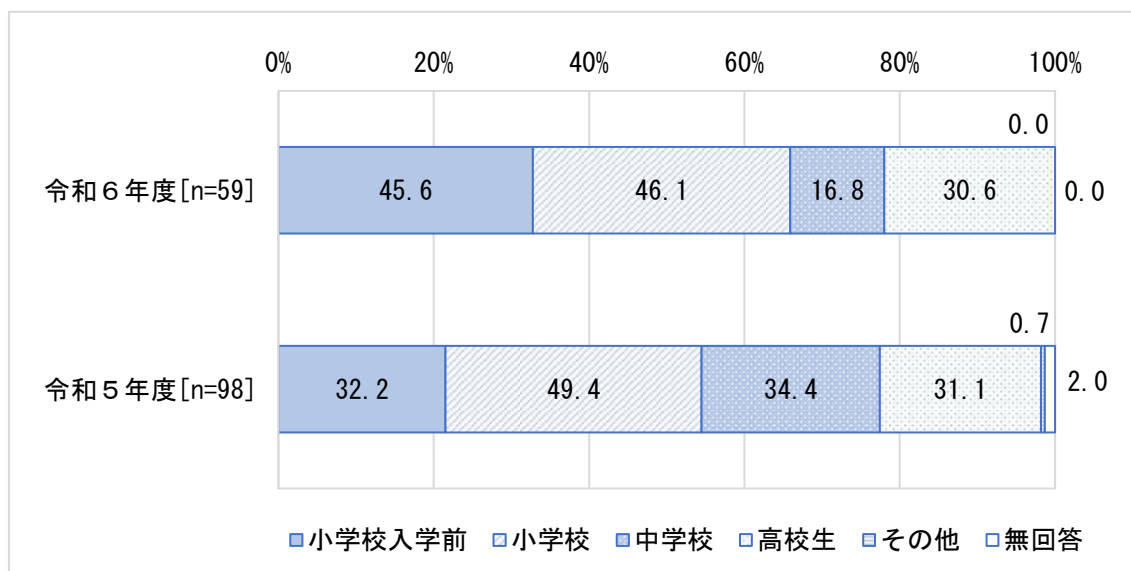
図表 63 18歳未満の子ども・孫の人数



（８） 同居している 18 歳未満の子ども・孫の年代

現在一緒に住んでいる家族に「18 歳未満の子ども」「18 歳未満の孫」がいると回答した方の、子どもや孫の年代は、「小学校」が 46.1%と最も高く、次いで「小学校入学前」が 45.6%、「高校生」が 30.6%、「中学校」が 16.8%となっている。

図表 64 18 歳未満の子ども・孫の年代



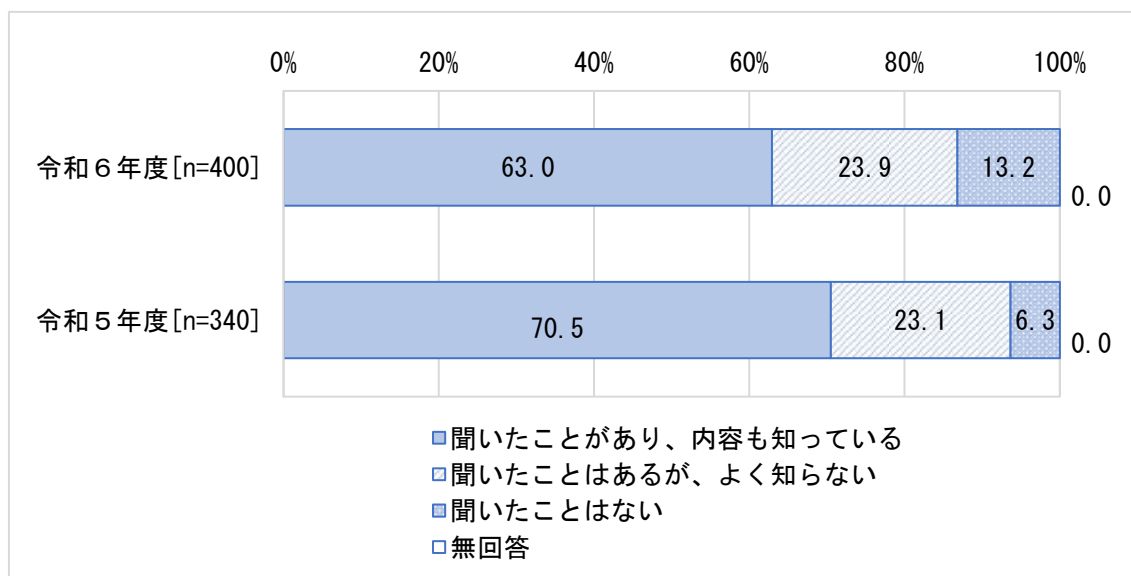
3. ヤングケアラーについて

(1) 「ヤングケアラー」という言葉の認知状況

「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあるかについて、「聞いたことがあり、内容も知っている」が 63.0%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が 23.9%で、言葉を聞いたことがある人は 8 割を超えている。

令和 5 年度と比べると「聞いたことがあり、内容も知っている」人は減少している。

図表 65 「ヤングケアラー」という言葉の認知状況



年代別では、「聞いたことがあり、内容も知っている」は、60 代以上が 66.7%で最も高く、次いで 30 代が 64.2%、20 代が 63.5%となっている。

一方、「聞いたことはない」は 20 代以下が 23.1%と最も高くなっている。

図表 66 「ヤングケアラー」という言葉の認知状況：年代別

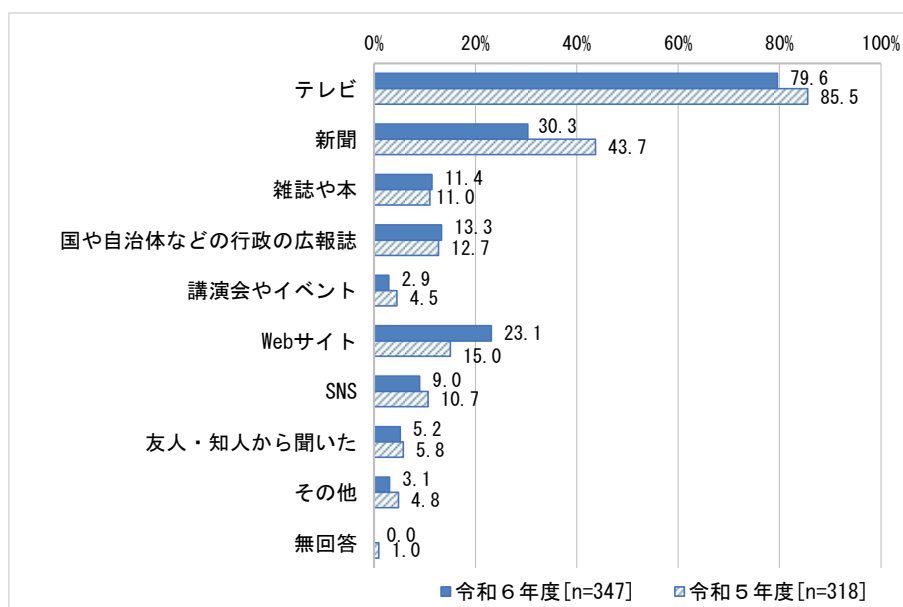
		全体(n=)	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことはあるが、よく知らない	聞いたことはない	無回答
年代別	20 代以下	52	63.5	13.5	23.1	0.0
	30 代	54	64.2	23.2	12.6	0.0
	40 代	68	55.5	27.0	17.6	0.0
	50 代	80	61.3	25.0	13.7	0.0
	60 代以上	146	66.7	25.8	7.6	0.0

(2) 「ヤングケアラー」という言葉の認知経路

「ヤングケアラー」という言葉を「聞いたことがあり、内容も知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方に、「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか聞いたところ、「テレビ」が 79.6%と最も高く、次いで「新聞」(30.3%)、「web サイト」(23.1%)、「国や自治体などの行政の広報誌」(13.3%)となっている。

令和 5 年度と比べると「テレビ」「新聞」が減少、「WEB サイト」が増加している。

図表 67 「ヤングケアラー」という言葉の認知経路（複数回答）



年代別にみると、どの年代でも「テレビ」が最も高く、6～8 割となっている。次いで 20 代以下では、「SNS」(30.0%)、30 代以上では「新聞」(各 22.0%、28.0%、30.5%、40.2%) が高くなっている。

図表 68 「ヤングケアラー」という言葉の認知経路：年代別（複数回答）

		全体 (n=)	テレビ	新聞	雑誌や本	国や自治体などの行政の広報誌	講演会やイベント	Web サイト	SNS	友人・知人から聞いた	その他	無回答
令和 6 年度	20 代以下	40	65.0	10.0	12.5	10.0	5.0	22.5	30.0	5.0	10.0	0.0
	30 代	47	83.8	22.0	8.6	12.3	3.4	17.1	12.7	3.1	2.1	0.0
	40 代	56	76.6	28.0	7.1	6.9	2.4	25.4	6.9	4.9	4.5	0.0
	50 代	69	81.1	30.5	14.6	8.8	4.3	26.0	8.8	5.9	1.4	0.0
	60 代以上	135	82.8	40.2	12.3	19.7	1.6	23.0	2.5	5.7	1.6	0.0
令和 5 年度	20 代以下	54	74.1	18.1	1.5	3.6	1.8	19.5	29.3	1.5	12.2	2.1
	30 代	38	88.3	15.1	10.3	7.3	0.0	17.5	24.2	3.0	4.4	0.0
	40 代	64	80.2	28.9	17.1	18.1	5.7	27.2	9.1	5.9	3.7	0.0
	50 代	43	92.9	50.8	8.7	10.4	3.9	21.8	4.5	0.0	1.9	0.0
	60 代以上	119	90.0	69.8	13.1	16.5	6.7	3.2	0.9	10.6	3.2	1.6

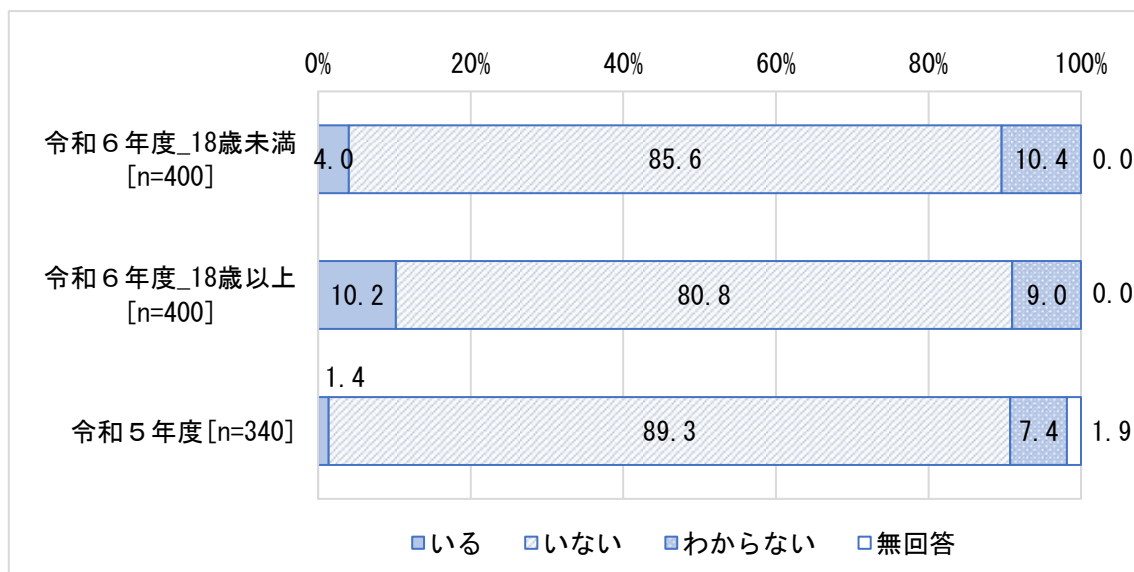
(3) 「ヤングケアラー」と思われる子どもの有無

家族・親族や、友人・知人やその子ども、子どものクラスメイト、近所の子ども・若者に「ヤングケアラー」と思われる子どもがいるか聞いたところ、家族・親族で「いる」は 18 歳未満で 4.0%、18 歳以上では 10.2%となっている。

友人・知人やその子ども、子どものクラスメイト、近所の子ども・若者で「いる」は 18 歳未満で 6.9%、18 歳以上では 7.3%となっている。

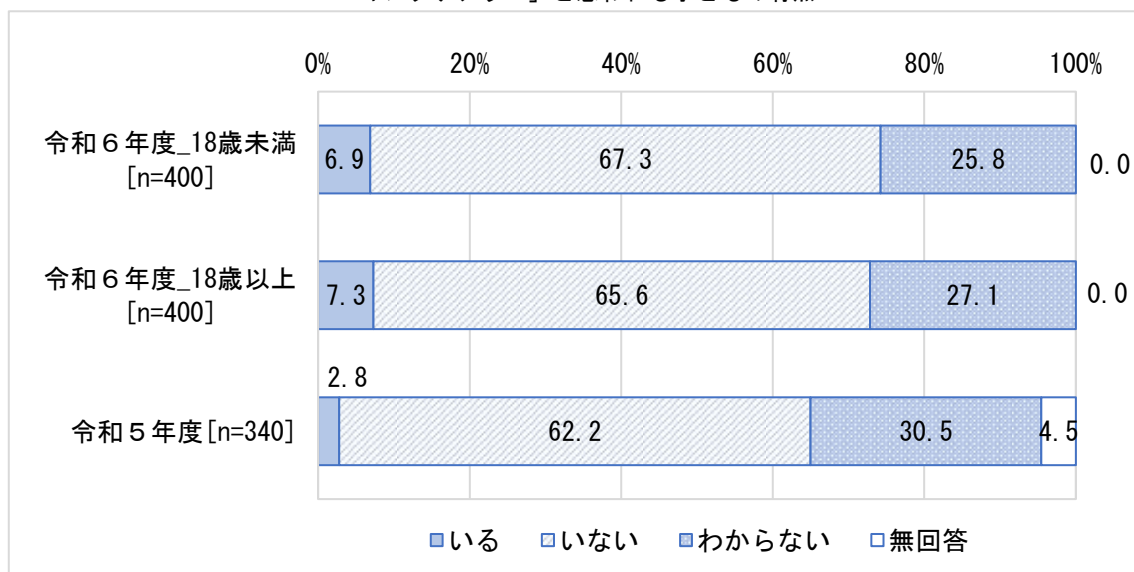
令和 5 年度に比べ、いずれも「いる」が増加している。

図表 69 家族・親族で「ヤングケアラー」と思われる子どもの有無



※令和 5 年度は「18 歳未満・18 歳以上」の区分なし

図表 70 友人・知人や、その子ども、子どものクラスメイト、近所の子ども・若者で「ヤングケアラー」と思われる子どもの有無



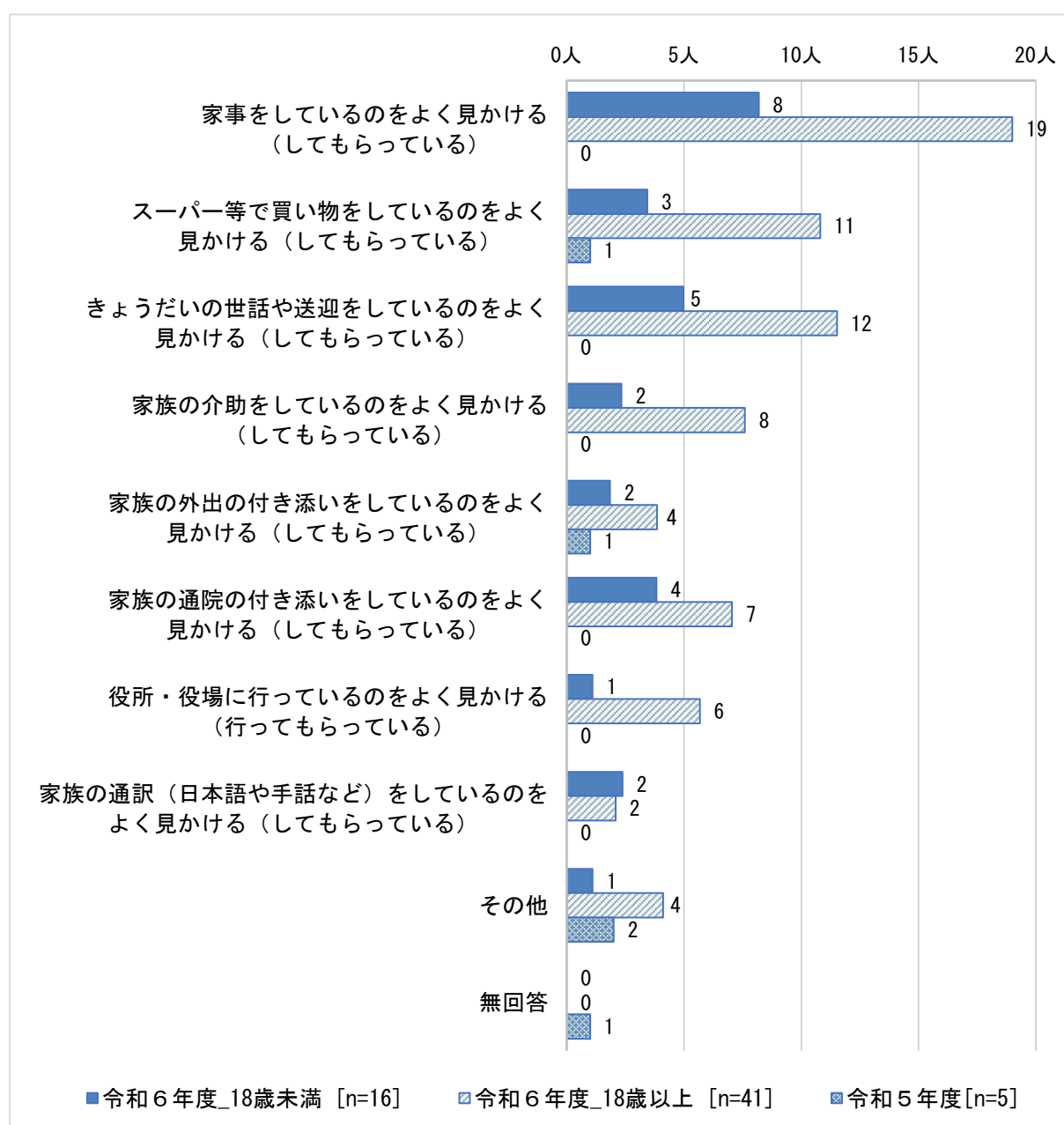
※令和 5 年度は「18 歳未満・18 歳以上」の区分なし

(4) 「ヤングケアラー」と思った理由

身の回りに「ヤングケアラー」と思われる子どもがいると回答した人に、なぜその子どもが「ヤングケアラー」だと思ったか聞いたところ、親族・家族では18歳未満では「家事をしているのをよく見かける（してもらっている）」が最も高く8人となっている。

18歳以上でも「家事をしているのをよく見かける（してもらっている）」が最も高く19人となっており、次いで「きょうだいの世話や送迎をしているのをよく見かける（してもらっている）」（12人）、「スーパー等で買い物をしているのをよく見かける（してもらっている）」（11人）、「家族の介助をしているのをよく見かける（してもらっている）」（8人）、「家族の通院の付き添いをしているのをよく見かける（してもらっている）」（7人）、「役所・役場に行っているのをよく見かける（行ってもらっている）」（6人）となっている。

図表 71 「ヤングケアラー」と思った理由（複数回答）
＜家族・親族＞

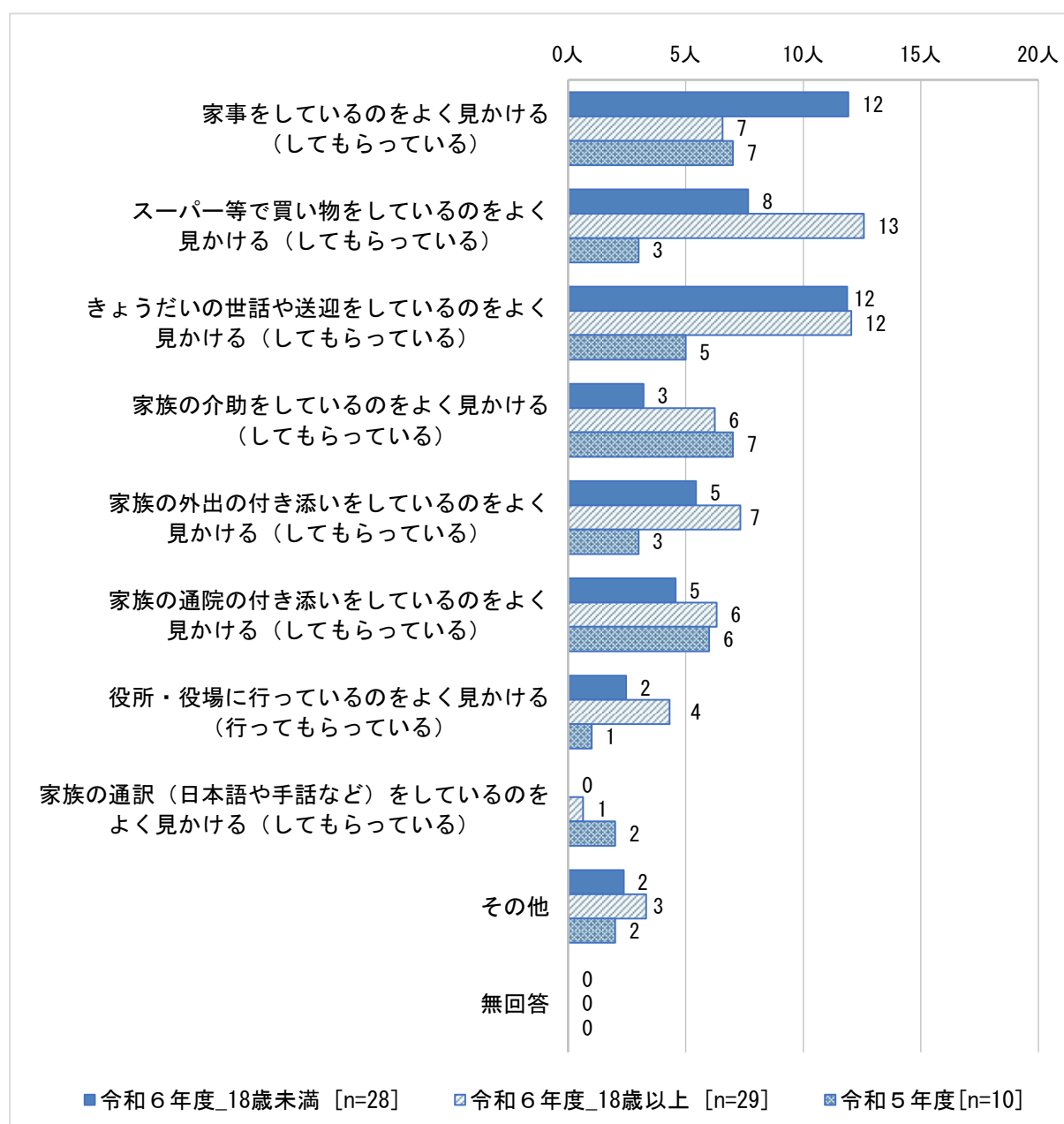


※令和5年度は「18歳未満・18歳以上」の区分なし

友人・知人や、その子ども、子どものクラスメイト、近所の子ども・若者については、18 歳未満では「家事をしているのをよく見かける（してもらっている）」「きょうだいの世話や送迎をしているのをよく見かける（してもらっている）」が最も高く各 12 人となっている。次いで「スーパー等で買い物をしているのをよく見かける（してもらっている）」（8 人）となっている。

18 歳以上では「スーパー等で買い物をしているのをよく見かける（してもらっている）」が最も高く 13 人となっている。次いで「きょうだいの世話や送迎をしているのをよく見かける（してもらっている）」（12 人）、「家事をしているのをよく見かける（してもらっている）」「家族の外出の付き添いをしているのをよく見かける（してもらっている）」（各 7 人）となっている。

＜友人・知人や、その子ども、子どものクラスメイト、近所の子ども・若者＞



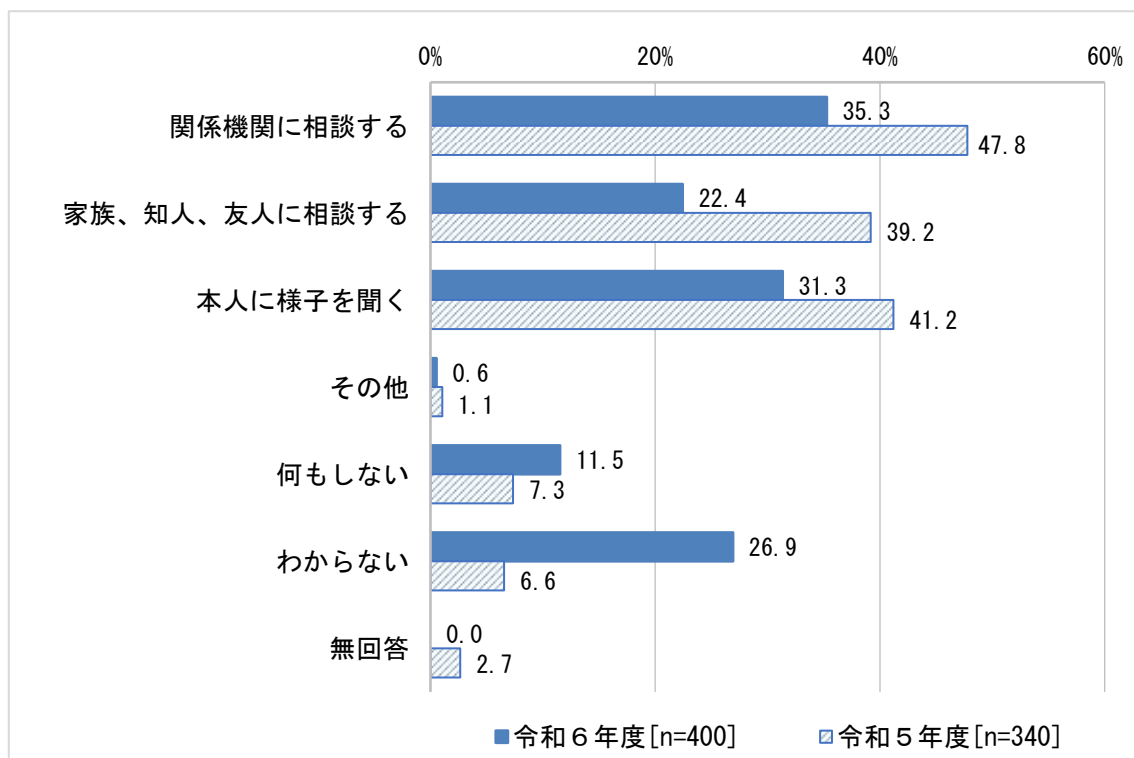
※令和5年度は「18 歳未満・18 歳以上」の区分なし

（５）身の回りに「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる場合の対応

身の回りに「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる場合、どのような対応をするか（身の回りに、「ヤングケアラー」と思われる子どもがいない・いるかわからない場合はいと仮定）聞いたところ、「関係機関に相談する」が 35.3%と最も高く、次いで「本人に様子を聞く」（31.3%）、「わからない」（26.9%）「家族、知人、友人に相談する」（22.4%）となっている。

令和 5 年度に比べ、「関係機関に相談する」「本人に様子を聞く」「家族、知人、友人に相談する」が減少し、「わからない」が増加している。

図表 72 身の回りに「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる場合の対応（複数回答）

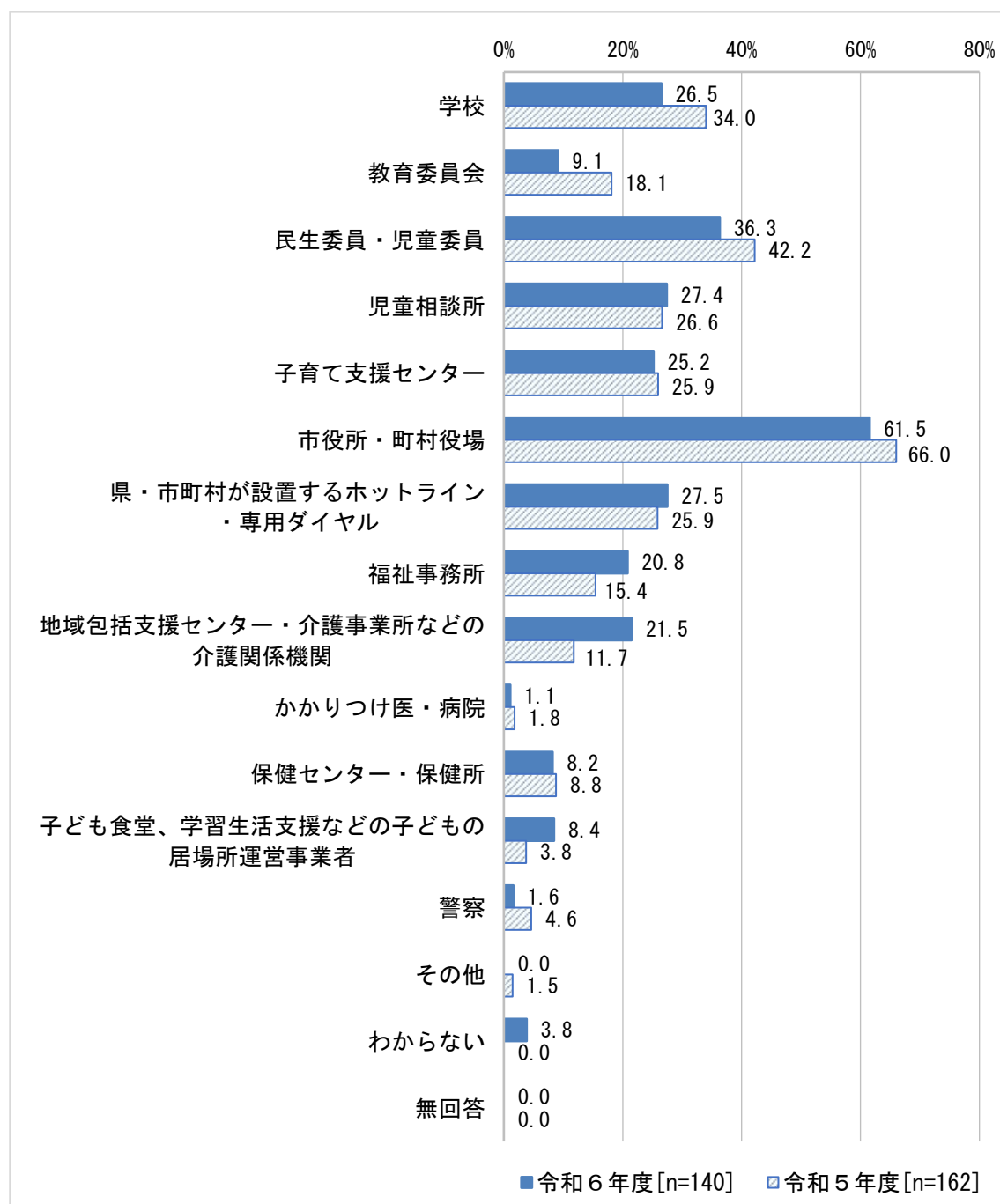


（６）「ヤングケアラー」と思われる子どもについて相談する機関

「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合（いたと仮定した場合も含む）「関係機関に相談する」と回答した方に、どのような機関に相談しようと思うかについては、「市役所・町村役場」が 61.5%と最も高く、次いで「民生委員・児童委員」（36.3%）、「県・市町村が設置するホットライン・専用ダイヤル」（27.5%）、「児童相談所」（27.4%）、「学校」（26.5%）となっている。

令和 5 年度に比べ、「地域包括支援センター・介護事業所などの介護関係機関」「福祉事業所」が増加し、「学校」「教育委員会」「民生委員・児童委員」「市役所・町村役場」で減少している。

図表 73 「ヤングケアラー」と思われる子どもについて相談する機関（複数回答）

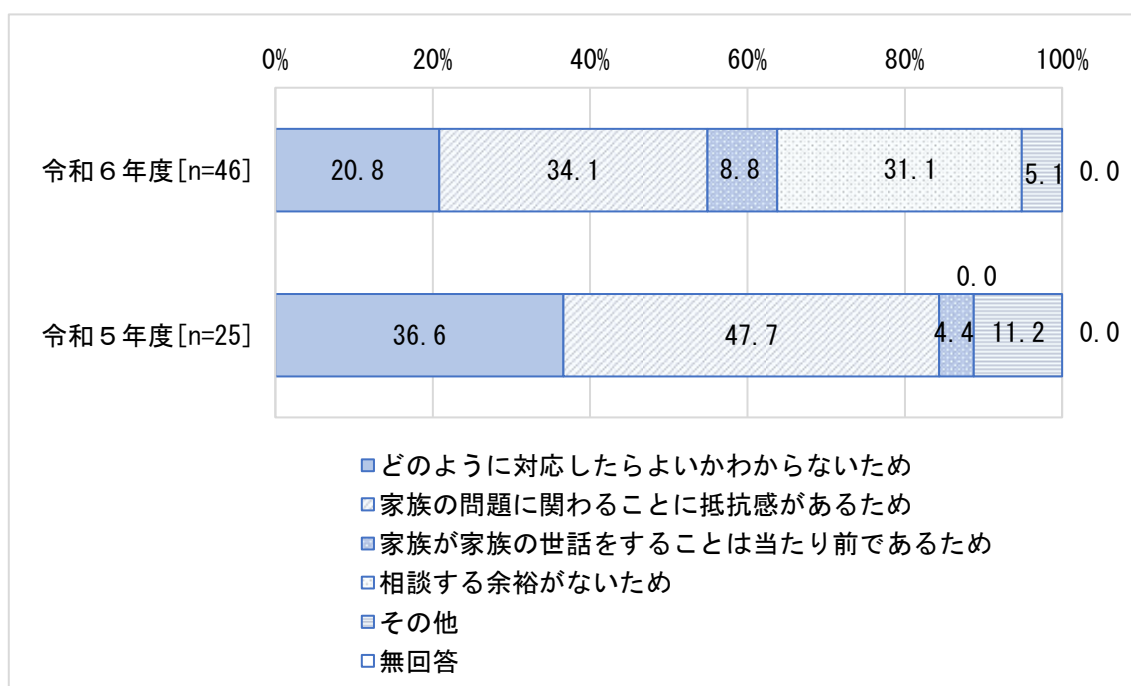


（７）「ヤングケアラー」と思われる子どもについて「何もしない」主な理由

「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合（いたと仮定した場合も含む）「何もしない」と回答した方に、その理由としてもっともあてはまるものを聞いたところ、「家族の問題に関わることに抵抗感があるため」が 34.1%と最も高く、次いで「相談する余裕がないため」が 31.1%、「どのように対応したらよいかわからないため」（20.8%）となっている。

令和５年度に比べ、「どのように対応したらよいかわからないため」「家族の問題に関わることに抵抗感があるため」が減少し、「相談する余裕がないため」が増加している。

図表 74 「ヤングケアラー」と思われる子どもについて「何もしない」理由



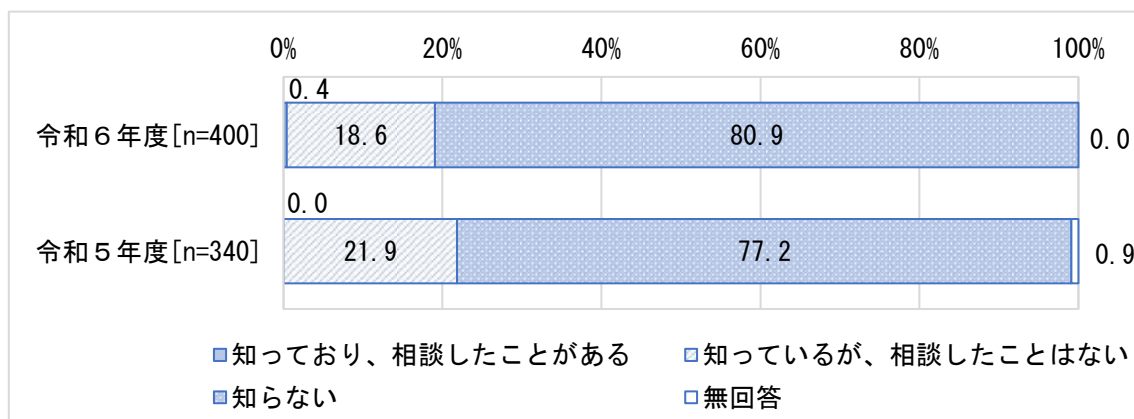
（８） 山梨県「ヤングケアラー相談窓口」について

① 山梨県「ヤングケアラー相談窓口」の認知状況

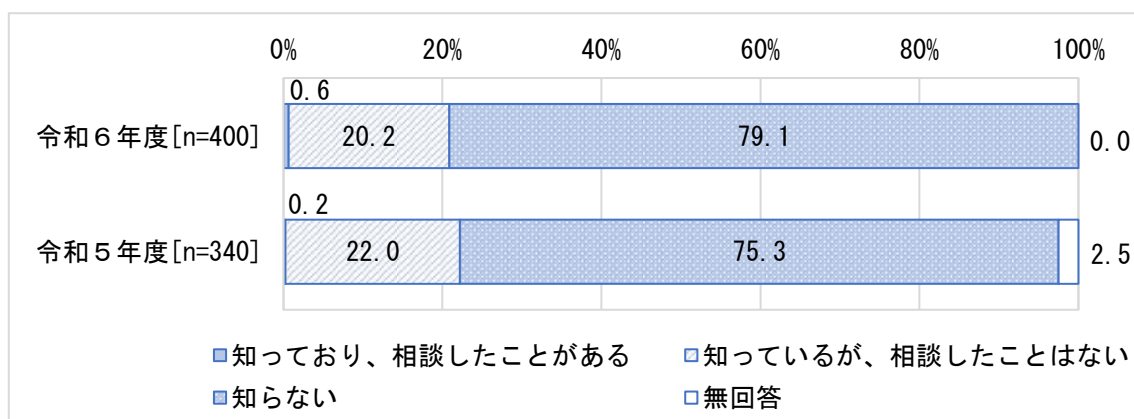
山梨県「ヤングケアラー相談窓口」について知っているか聞いたところ、知っている人（「知っており、相談したことがある」と「知っているが、相談したことはない」の合計）はどの相談窓口も２割前後となっている。

令和５年度と比べても同様の傾向となっている。

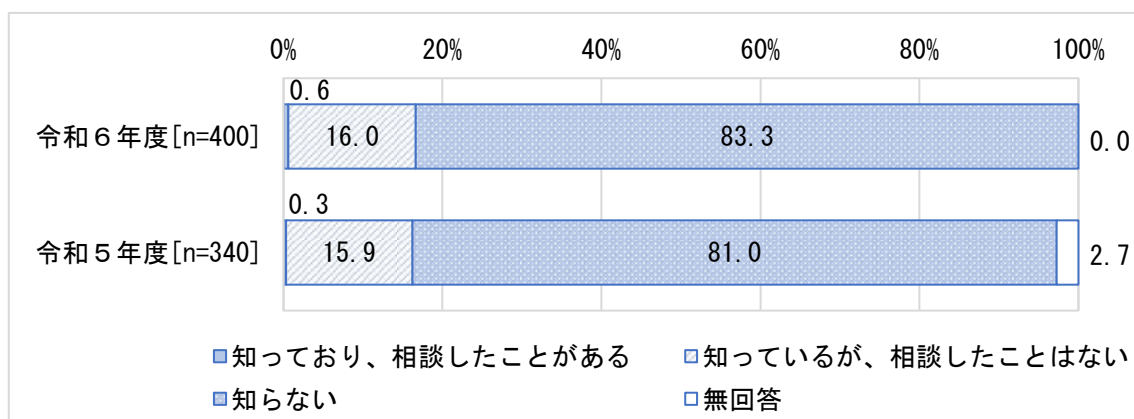
図表 75 24 時間電話相談窓口（0120-189-783、0120-0-78310）の認知状況



図表 76 相談支援センター（山梨県総合教育センター）の認知状況



図表 77 SNS 相談窓口（親子のための相談 LINE）の認知状況 ※令和 5 年度のみ

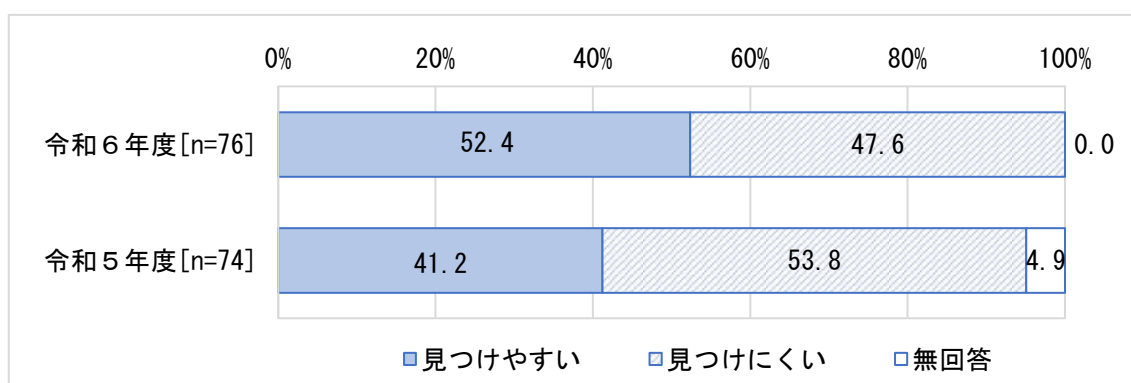


② 山梨県「ヤングケアラー相談窓口」の見つけやすさ

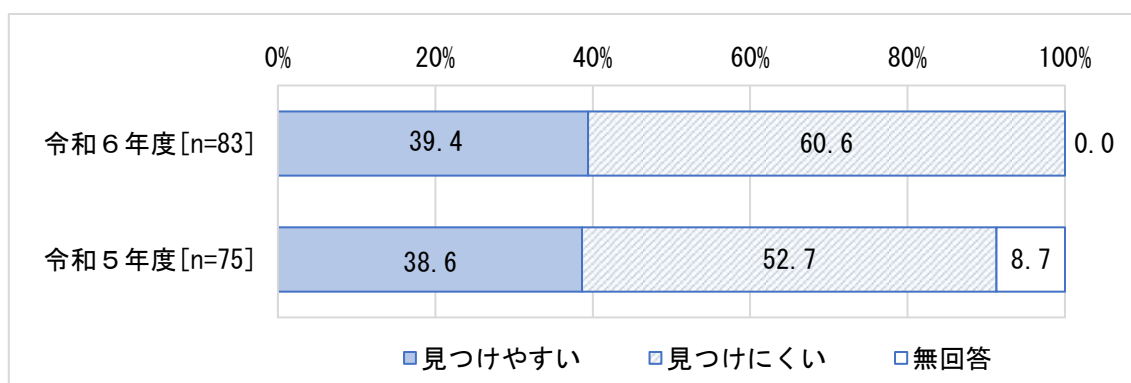
山梨県「ヤングケアラー相談窓口」を、「知っており、相談したことがある」「知っているが、相談したことはない」と回答した方に、相談窓口の見つけやすさについて聞いたところ、24 時間電話相談窓口(0120-189-783、0120-0-78310) では「見つけやすい」が 52.4%、SNS 相談窓口（親子のための相談 LINE）では 52.0%で、5 割以上となっている。相談支援センター（山梨県総合教育センター）は、39.4%と 4 割弱となっている。

令和 5 年度と比べると「見つけやすい」は、24 時間電話相談窓口(0120-189-783、0120-0-78310) が増加している。

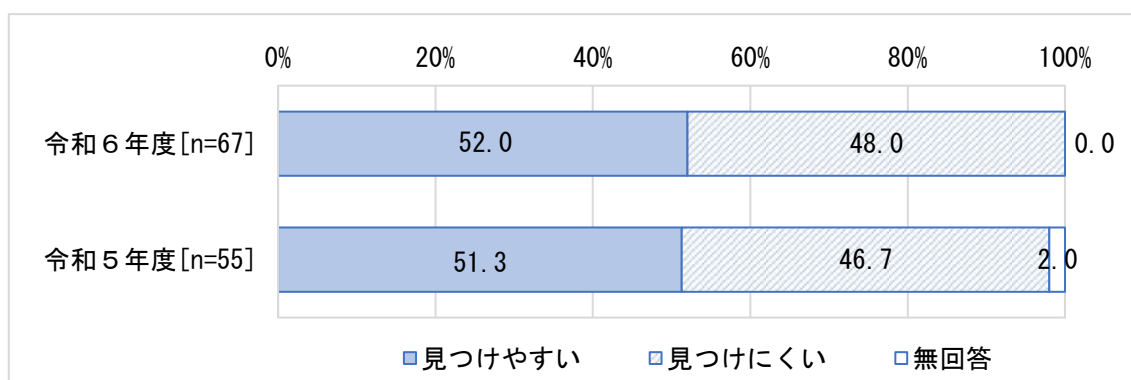
図表 78 24 時間電話相談窓口(0120-189-783、0120-0-78310) の認知状況



図表 79 相談支援センター（山梨県総合教育センター）の認知状況



図表 80 SNS 相談窓口（親子のための相談 LINE）の認知状況 ※令和 5 年度のみ

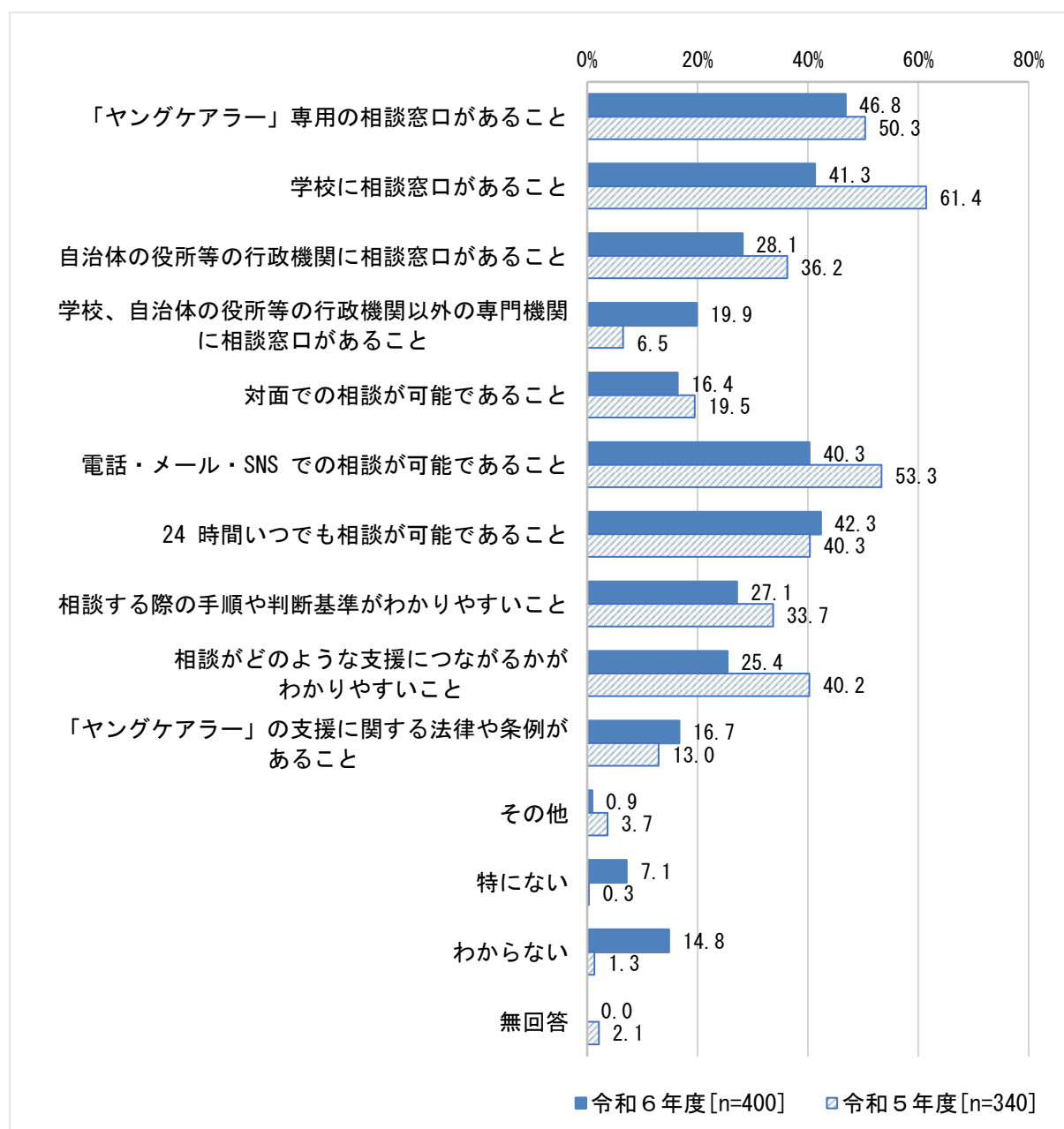


（９） ヤングケアラーが相談しやすい環境づくりにつながる仕組みや支援

「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる場合、その子どもにとってどのような仕組みや取組があると相談しやすい環境づくりにつながると思うか聞いたところ、「「ヤングケアラー」専用の相談窓口があること」が46.8%と最も高く、次いで、「24 時間いつでも相談が可能であること」（42.3%）、「学校に相談窓口があること」（41.3%）となっている。

令和 5 年度に比べ、「学校に相談窓口があること」、「相談がどのような支援につながるかがわかりやすいこと」、「電話・メール・SNS での相談が可能であること」、「自治体の役所等の行政機関に相談窓口があること」が減少し、「わからない」「学校、自治体の役所等の行政機関以外の専門機関に相談窓口があること」が増加している。

図表 81 ヤングケアラーが相談しやすい環境づくりにつながる仕組みや支援（複数回答）



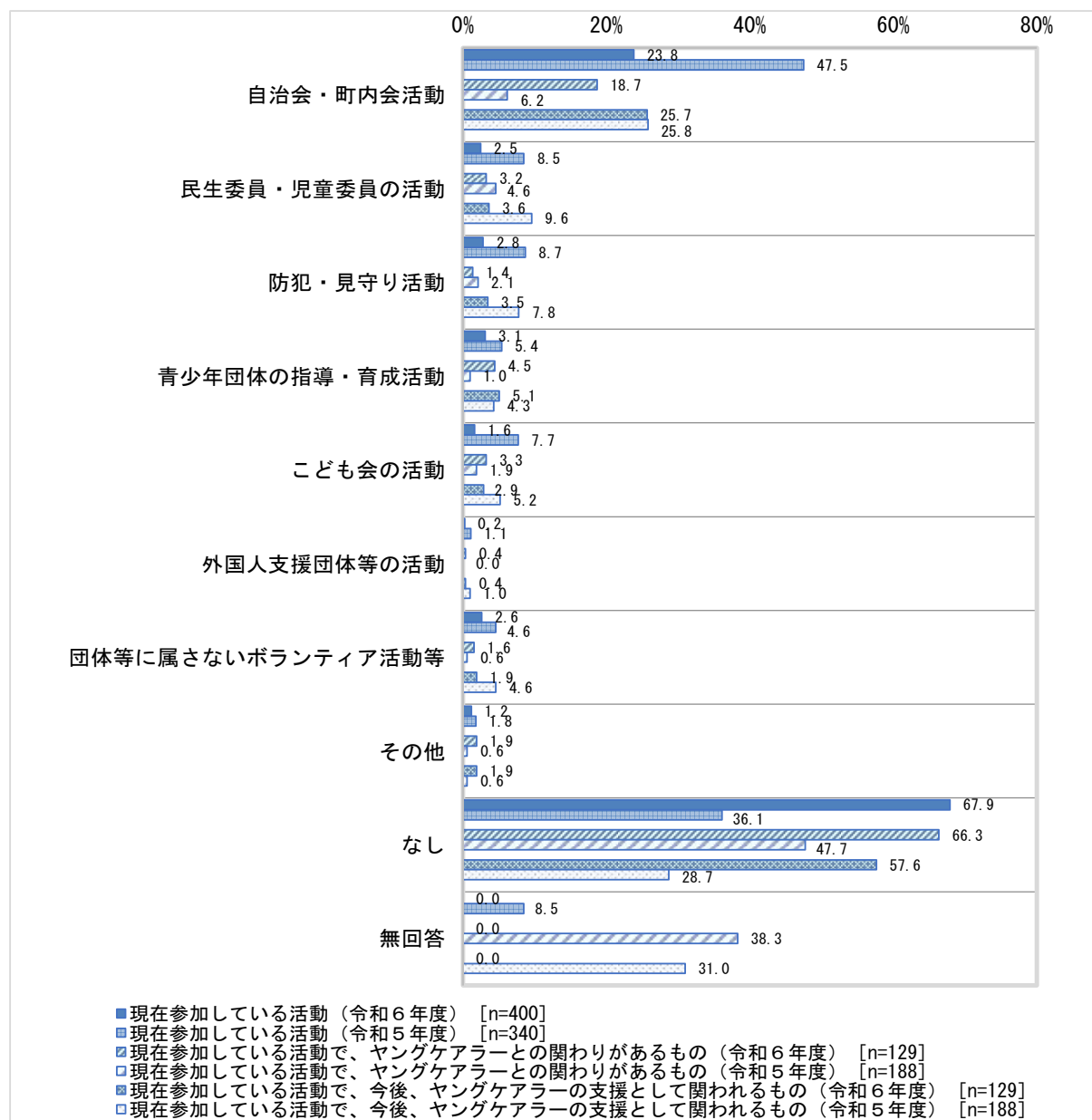
(10) 現在参加している地域活動や市民活動と、ヤングケアラーとの関わり

現在参加している地域活動や市民活動と、ヤングケアラーとの関わりについて聞いたところ、現在参加している活動は、「なし」が67.9%と最も高く、次いで「自治会・町内会活動」が23.8%となっている。令和5年度に比べ、「なし」が大幅に増加している。一方、「自治会・町内会活動」が激減しているほか、「こども会の活動」「民生委員・児童委員の活動」「防犯・見守り活動」など、どの項目も減少している。

現在参加している活動の中で、ヤングケアラーとの関わりがあるものは、「なし」を除くと、「自治会・町内会活動」が18.7%で最も高く、令和5年度に比べ大幅に増加している。一方、「なし」が令和5年度より大幅に増加している。

現在参加している活動の中で、今後、ヤングケアラーの支援として関われるものは、「なし」を除くと、「自治会・町内会活動」が25.7%と最も高くなっている。令和5年度に比べ、「なし」が大幅に増加し、「民生委員・児童委員の活動」が減少している。

図表 82 現在参加している地域活動や市民活動と、ヤングケアラーとの関わり（複数回答）

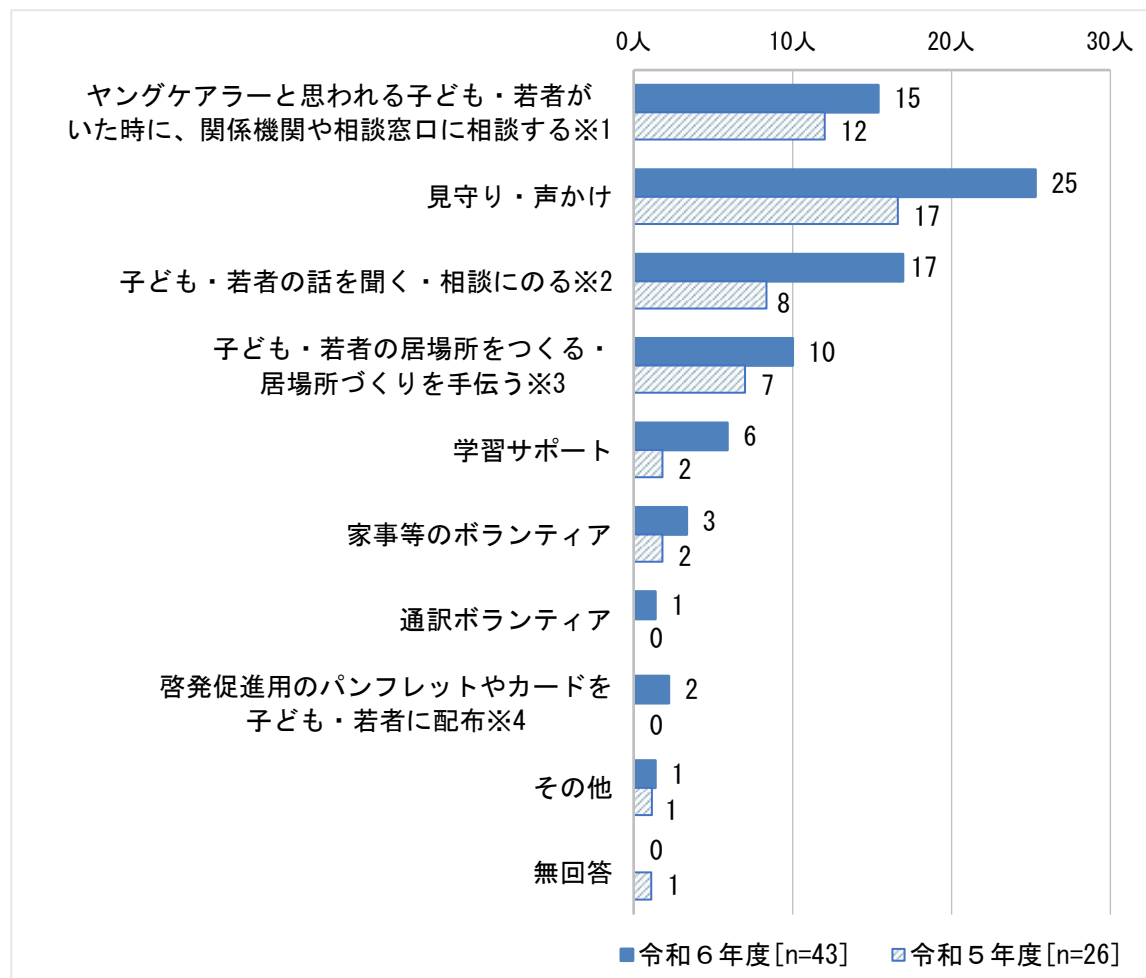


(11) 地域活動や市民活動の、ヤングケアラーとの関わり方

「現在参加している活動の中で、ヤングケアラーとの関わりがあるもの」があると回答した方に、その活動において、ヤングケアラーに対して、どのような関わりをもっているか聞いたところ、「見守り・声かけ」（25人）、「子ども・若者の話を聞く・相談にのる」（17人）、「ヤングケアラーと思われる子ども・若者がいた時に、関係機関や相談窓口相談する」（15人）が高くなっている。

令和5年度に比べ、どの項目も増加している。

図表 83 地域活動や市民活動の、ヤングケアラーとの関わり方（複数回答）



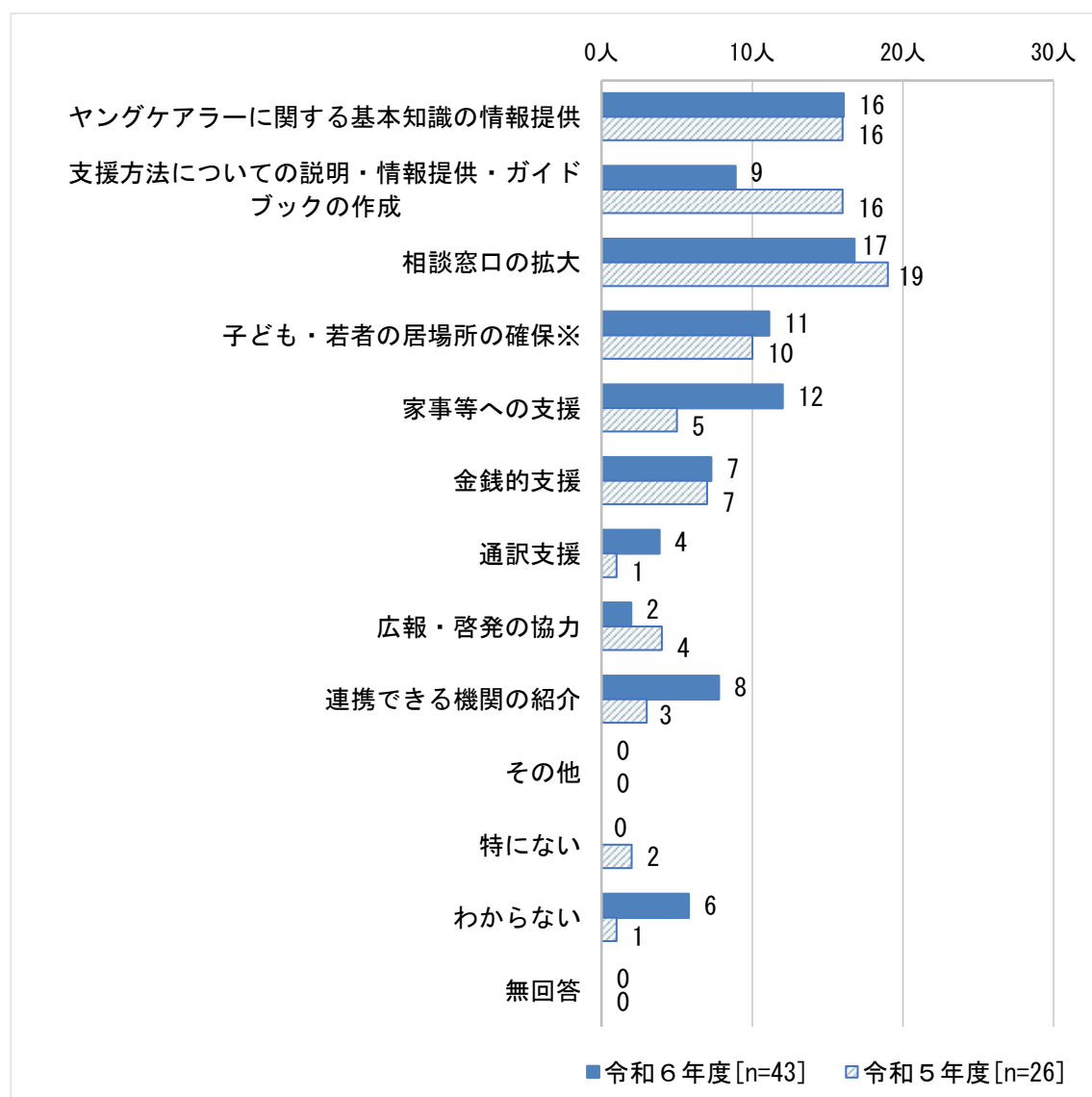
※令和5年度では、「ヤングケアラーと思われる子どもがいた時に、関係機関や相談窓口相談する」※1、「子どもの話を聞く・相談にのる」※2、「子どもの居場所をつくる・居場所づくりを手伝う」※3、「啓発促進用のパンフレットやカードを子どもに配布」※4

（１２） 地域活動や市民活動においてヤングケアラー支援を行うために、必要な行政からの支援

「現在参加している活動の中で、ヤングケアラーとの関わりがあるもの」があると回答した方に、その活動において、ヤングケアラー支援を行うために行政からの支援として必要なものを聞いたところ、「相談窓口の拡大」（１７人）、「ヤングケアラーに関する基本知識の情報提供」（１６人）、「家事等への支援」（１２人）、「子ども・若者の居場所の確保」（１１人）が高くなっている。

令和５年度に比べ、「家事等への支援」「連携できる機関の紹介」が増加、「支援方法についての説明・情報提供・ガイドブックの作成」が減少している。

図表 84 地域活動や市民活動においてヤングケアラー支援を行うために、必要な行政からの支援（複数回答）



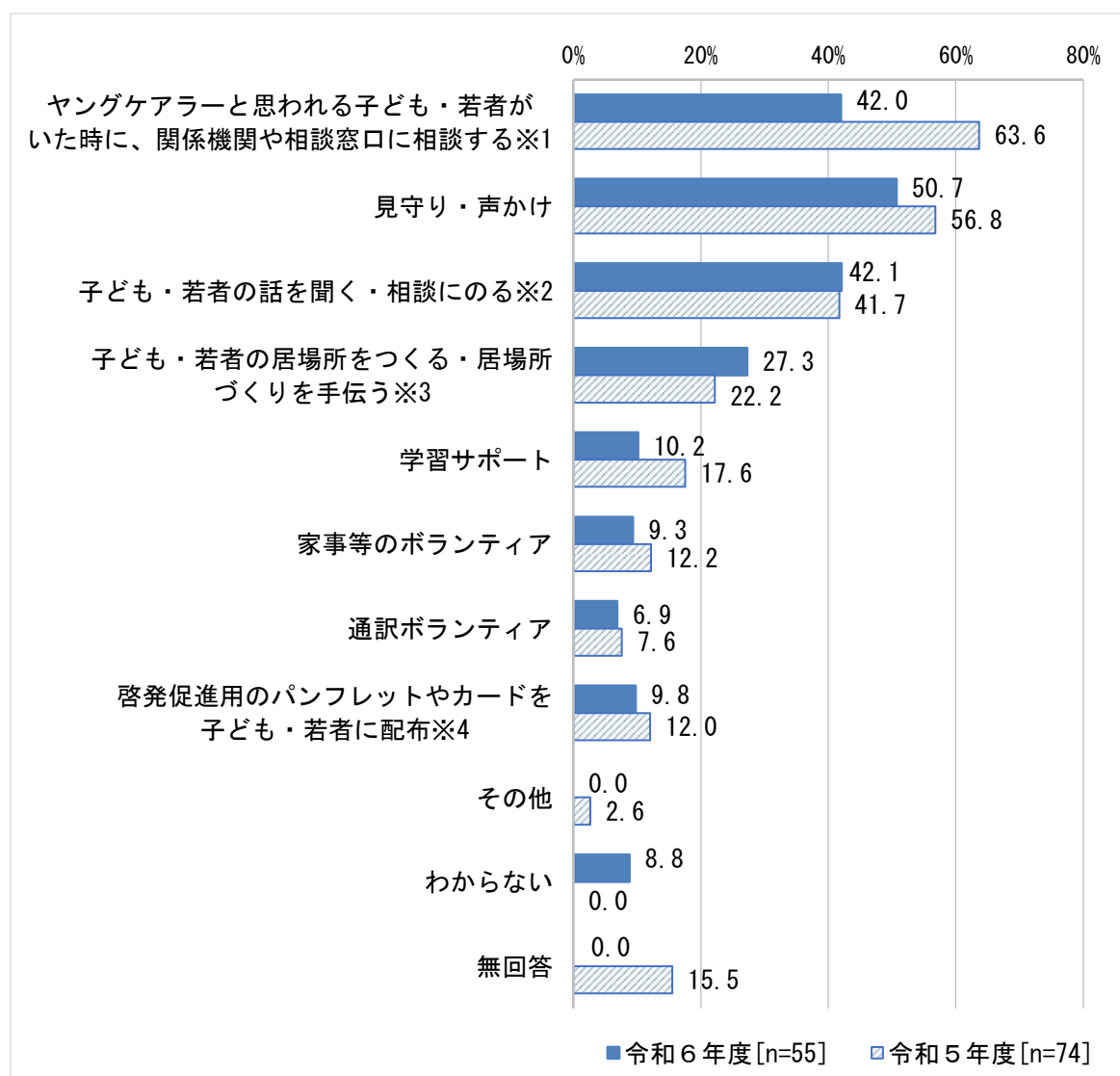
※ 令和 5 年度では「子どもの居場所の確保」

（１３） 今後、参加している活動の中で、ヤングケアラー支援のためにできること

「現在参加している活動の中で、今後、ヤングケアラーの支援として関わられるもの」があると回答した方に、今後、その活動において、ヤングケアラーのためにできることを聞いたところ、「見守り・声かけ」（50.7%）、「子ども・若者の話を聞く・相談にのる」（42.1%）、「ヤングケアラーと思われる子ども・若者がいた時に、関係機関や相談窓口相談する」（42.0%）が高くなっている。

令和５年度に比べ、「子ども・若者の居場所をつくる・居場所づくりを手伝う」が増加、「ヤングケアラーと思われる子ども・若者がいた時に、関係機関や相談窓口相談する」「学習サポート」「見守り・声かけ」が減少している。

図表 85 今後、参加している活動の中で、ヤングケアラー支援のためにできること（複数回答）



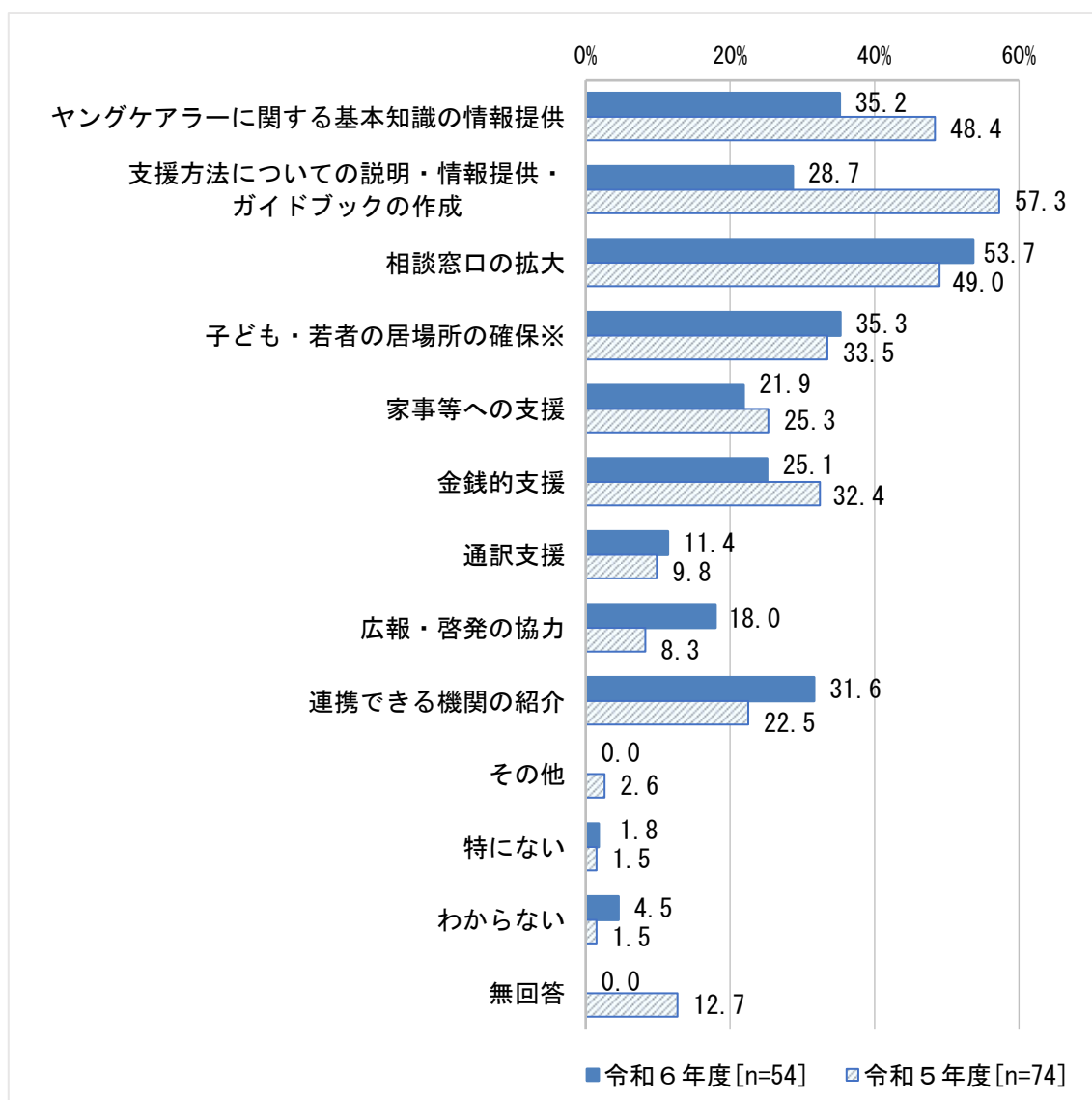
※令和５年度では、「ヤングケアラーと思われる子どもがいた時に、関係機関や相談窓口相談する」※1、「子どもの話を聞く・相談にのる」※2、「子どもの居場所をつくる・居場所づくりを手伝う」※3、「啓発促進用のパンフレットやカードを子どもに配布」※4

(14) 今後、活動の中でヤングケアラー支援を行うために必要な行政からの支援

「現在参加している活動の中で、今後、ヤングケアラーの支援として関われるもの」があると回答した方に、今後、その活動において、ヤングケアラー支援を行うために行政からの支援として必要なものを聞いたところ、「相談窓口の拡大」(53.7%)、「子ども・若者の居場所の確保」(35.3%)、「ヤングケアラーに関する基本知識の情報提供」(35.2%)、「連携できる機関の紹介」(31.6%)が高くなっている。

令和5年度に比べ、「広報・啓発の協力」「連携できる機関の紹介」「相談窓口の拡大」が増加、「支援方法についての説明・情報提供・ガイドブックの作成」「ヤングケアラーに関する基本知識の情報提供」「金銭的支援」が減少している。

図表 86 今後、活動の中でヤングケアラー支援を行うために必要な行政からの支援（複数回答）



※令和5年度では「子どもの居場所の確保」

（１５） ヤングケアラーに対して必要だと思われる支援

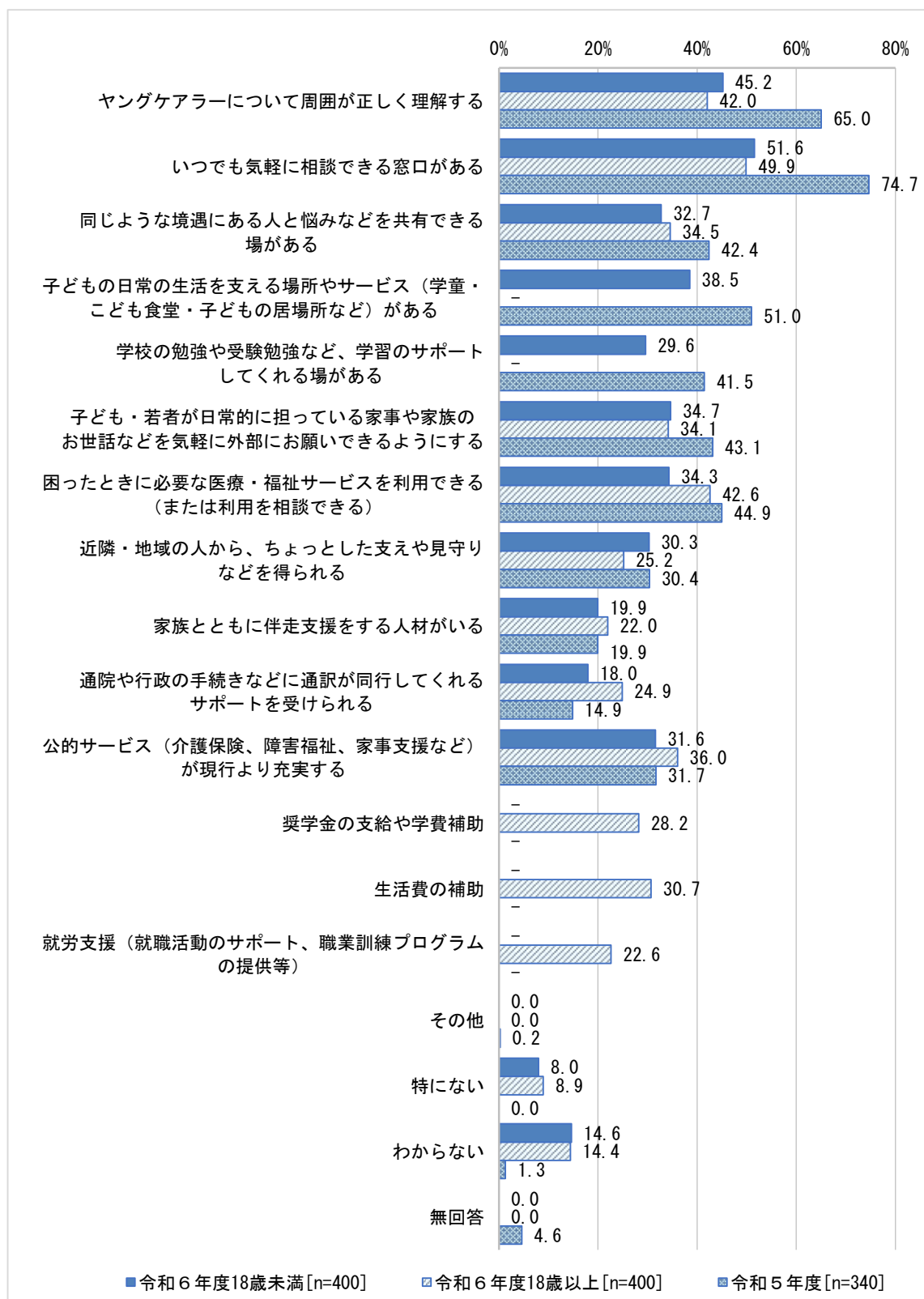
ヤングケアラーに対して必要だと思われる支援については、18 歳未満では、「いつでも気軽に相談できる窓口がある」（51.6%）、「ヤングケアラーについて周囲が正しく理解する」（45.2%）、「子どもの日常生活を支える場所やサービス（学童・こども食堂・子どもの居場所など）がある」（38.5%）が高くなっている。

18 歳以上では、「いつでも気軽に相談できる窓口がある」（49.9%）、「困ったときに必要な医療・福祉サービスを利用できる（または利用を相談できる）」（42.6%）「ヤングケアラーについて周囲が正しく理解する」（42.0%）が高くなっている。

令和 5 年度と比べると、全体的に減少傾向にあるが、「いつでも気軽に相談できる窓口がある」、「ヤングケアラーについて周囲が正しく理解する」が大幅に減少している。さらに 18 歳未満では、「子どもの日常生活を支える場所やサービス（学童・こども食堂・子どもの居場所など）がある」「学校の勉強や受験勉強など、学習のサポートしてくれる場がある」「困ったときに必要な医療・福祉サービスを利用できる（または利用を相談できる）」も減少している。

一方、18 歳以上では、「通院や行政の手続きなどに通訳が同行してくれるサポートを受けられる」が増加している。

図表 87 ヤングケアラーに対して必要だと思われる支援（複数回答）



※令和5年度は「18歳未満」「18歳以上」の区分なし

※「子どもの日常生活を支える場所やサービス（学童・こども食堂・子どもの居場所など）がある」「学校の勉強や受験勉強など、学習のサポートしてくれる場がある」は18歳未満の選択肢のみ

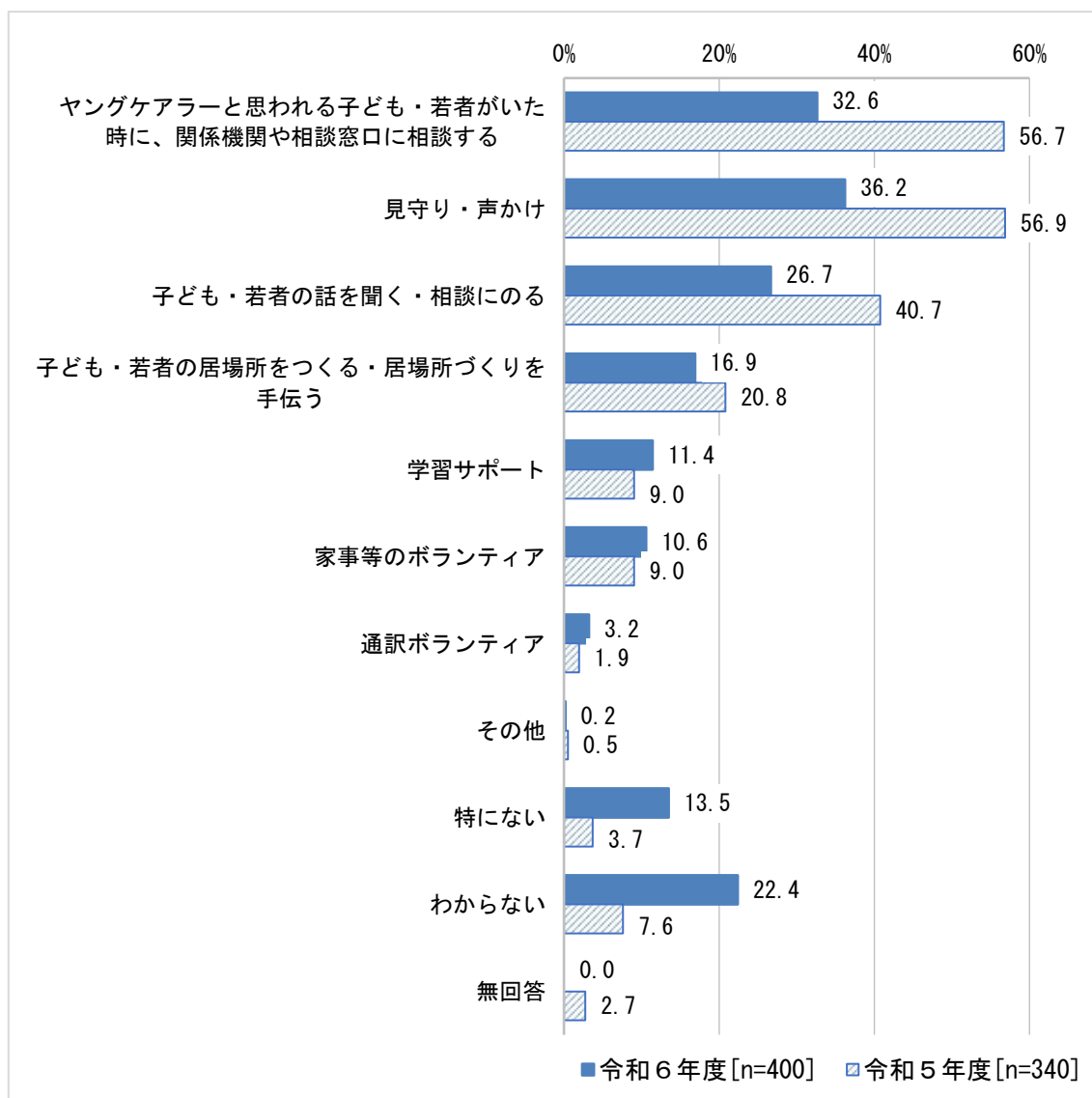
※「奨学金の支給や学費補助」「生活費の補助」「就労支援（就職活動のサポート、職業訓練プログラムの提供等）」は18歳以上の選択肢のみ

（１６）「ヤングケアラー」支援のためにできること

「ヤングケアラー」支援のためにできることとして、「見守り・声かけ」（36.2%）、「ヤングケアラーと思われる子ども・若者がいた時に、関係機関や相談窓口相談する」（32.6%）、「子ども・若者の話を聞く・相談にのる」（26.7%）が高くなっている。

令和５年度に比べ、「ヤングケアラーと思われる子ども・若者がいた時に、関係機関や相談窓口相談する」「見守り・声かけ」「子ども・若者の話を聞く・相談にのる」が大幅に減少している。一方、「わからない」、「特にない」が増加している。

図表 88 「ヤングケアラー」支援のためにできること（複数回答）

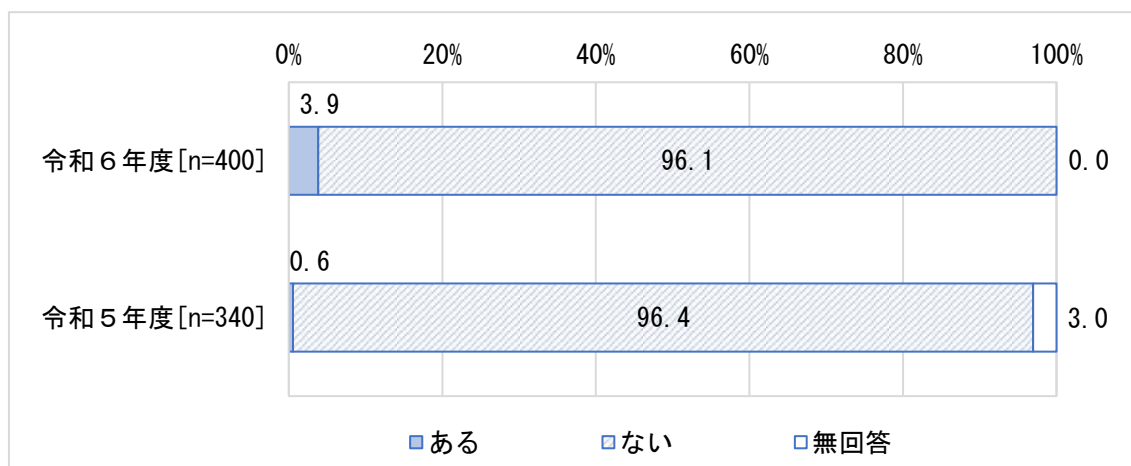


(17) 「山梨コネクトヤングケアラー」の視聴の有無

山梨県の TikTok におけるヤングケアラーにまつわる短編動画の視聴の有無は、「ない」が 96.1%、「ある」が 3.9%となっている。

令和 5 年度に比べ、視聴したことが「ある」が微増している。

図表 89 TikTok【山梨県公式】山梨コネクトヤングケアラーの視聴の有無

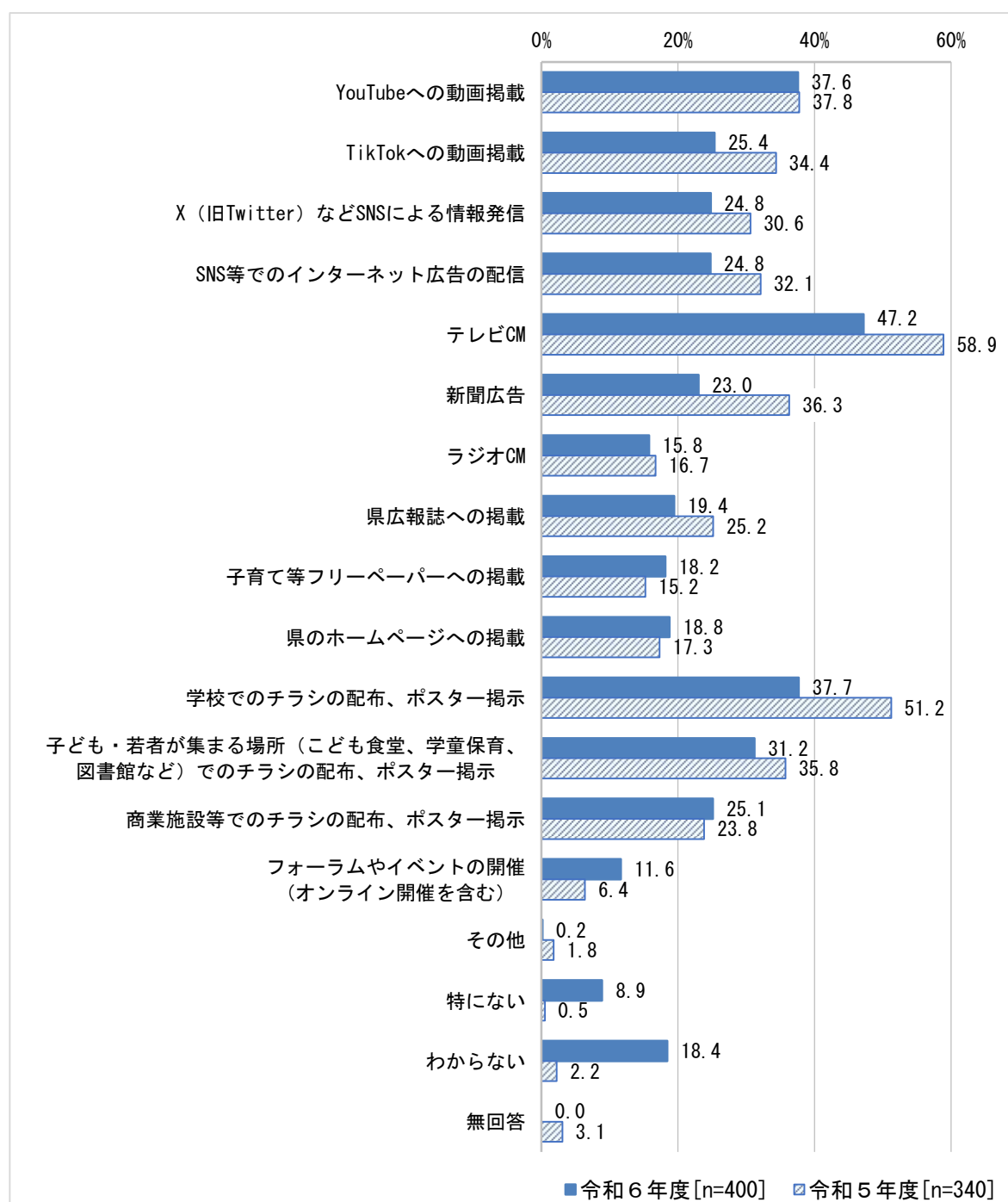


（１８） 啓発活動として効果があると思われる取組

山梨県の啓発活動として効果があると思われる取組としては、「テレビ CM」が 47.2%と最も高く、次いで「学校でのチラシの配布、ポスター掲示」（37.7%）、「YouTube への動画掲載」（37.6%）となっている。

令和５年度に比べ、「学校でのチラシの配布、ポスター掲示」「新聞広告」「テレビ CM」「TikTok への動画掲載」「SNS 等でのインターネット広告の配信」が減少している。「わからない」、「特にない」「フォーラムやイベントの開催（オンライン開催を含む）」が増加している。

図表 90 啓発活動として効果があると思われる取組（複数回答）



(19) ヤングケアラーの印象や「ヤングケアラー」の支援に必要だと思われること（自由記述）

ヤングケアラーの印象や「ヤングケアラー」の支援に必要だと思われることについて聞いたところ、以下の
ような意見があった。

図表 91 ヤングケアラーの印象や「ヤングケアラー」の支援に必要だと思われること（自由意見）

印象
＜かわいそう、大変＞ ・苦労してかわいそう ・可哀想だと思う。出来れば協力したい ・かわいそう。自分が直感で感じたら、必要な機関を探してあげたい ・大変な事だと思う ＜サポート・支援が必要＞ ・まだまだいろいろやることあるのではないかな ・積極的な支援が必要 ・もっと迅速に対応できるような支援が必要 ・周りの支援、見て見ぬフリをしない ・ヤングケアラーの支援は、とても重要だと思った ・身近にはいないが、いたら何かしてあげたい ・真面目ないい子。学校生活が犠牲になるような負担を強いられない周囲のサポートとメンタルケア。 ＜家族なら当たり前＞ ・家族なら当たり前 ＜わからない＞ ・わからないコトだらけなので何をすればよいかわからない ・実際にそういう境遇の人が周りにはいないので思いつかない ・現実感が無い など
「ヤングケアラー」の支援に必要だと思われること
＜「ヤングケアラー」の認知・理解促進＞ ・まずは言葉の意味を知ってもらうことから始めた方がよい ・まだまだ 認知度が低い。先ず「ヤングケアラー」がどんなものか知ってもらうことが必須。さまざまな媒体から情報発信・問題提起した上で、幅広く問題意識を高める ・もっと周知することが大切。学校の授業として取り入れる ・周囲の理解が必要で、助けて欲しいと言える環境づくり ・周りの友人と同じように行動できず孤独感を感じているので、相談できる人や友達の理解が必要 ・ヤングケアラーに関しての知識や理解を深める活動を行う必要がある ・SNS やアニメなど、若者が情報に触れやすいコンテンツを利用してなるべく多くの人に認知をしてもらう ・情報共有 ＜ヤングケアラー本人への「ヤングケアラー」の認知・理解＞ ・本人にヤングケアラーという自覚がなければ相談できないのでは。もう少し周知させた方がよい ・当たり前だと思っている事が、違うということを周知させる ・ヤングケアラーは自分のことは後回しするイメージがある。自分を大切にできるようになってほしい ・自分自身を大切に思う時間。人に思いやりの心を持って接する自分である為に、必要な人、場所を探す。助けを求める事は、恥ずかしい事では無い

<「ヤングケアラー」本人が支援の情報を得やすい発信>

- ・学校や友人にも隠そうとしたり、誰も自分の状況を分かってくれないと諦めていたり、そもそも問題だと思っていないこともあると思う。学校、保育園、学習塾、スーパー、ドラッグストア、コンビニなど、こどもが訪れる場所でこどもが正しい情報を受け取れると良い。信頼できる大人とつながれることを願う
- ・相談しても良いんだよという環境を作ってあげる。特に若い時期に学校で全体へ向けて発信することが重要

<気軽に相談できる手段・相手・場所>

- ・ヤングケアラーの当事者が気軽に相談や支援要請ができる環境が、もっと整えば良い
- ・周囲が助けることが出来るように、相談できるコミュニティが沢山あれば良い
- ・周囲はヤングケアラーと気づきにくいところもあるので、学校や、スーパーなどの近くなど身近なところに相談できるところがあると良い
- ・ヤングケアラー本人が相談や支援を求めるハードルが極限まで低いこと。支援を求めたり手続きする「時間がない」「手間をかけられない」という理由で尻込みしないよう、簡略化したりサポートがつくこと
- ・SNS 発信は疑わしく感じる。近所や地域のそれなりの立場の人を頼れたり相談できたりする体制があることが必須

<周りの大人が気づくこと>

- ・気づいてあげるのが、一番。こどもは、自分ではヤングケアラーだと気づいていない場合が多いみたいなので気づかせてあげる事も大事
- ・なかなか相談はできないと思う、周りが気にかけてあげるのが一番
- ・私自身こどもの頃その状況で、自分がしなくては…と思うことが多かった。回りに助けを求めるには、何かのタイミングがないと難しいと思うので、周りが気づいてあげられる状況が必要
- ・ケアラー本人は自分からなかなか声を上げることができないので周りが気づく体制が整えられれば良い

<見守り・声かけ>

- ・声かけや、お話しする
- ・近くに該当者がいないので、正直ピンとこないが、もし自分が関わるところでいたら、声かけから思う。出来ることはあるか、聞かせてもらいたい
- ・なるべく当事者の意思を尊重するような、一步引いて見守る縁の下の力持ち的なスタンスが重要

<学校での対応>

- ・学校での相談窓口設置
- ・学校など子どもの身近に相談出来る場所が必要
- ・自分がヤングケアラーだと知られたくないと思うので、学校や民生委員が学生の家族構成を熟知し、さりげなく観察支援する
- ・学校やその他公営での対処。しかし教員の負担をこれ以上上乗せしないような改革が必要

<行政の支援>

- ・行政の支えの充実
- ・自治体などがそのこどもや親に対してきちんとサポートしてほしい。金銭面や、家事サポートなど
- ・役所など公的機関の積極的な関わり
- ・自治体が訪問調査
- ・行政が面倒な手続きやマニュアルを作成しないで、柔軟に対応
- ・公共機関で助ける何かが有れば良い。民生児童委員などがメインになって情報収集して行政に繋げ

る。フードバンクみたいなお助けバンクがあるとよい

<地域の支援>

- ・近所付き合いが重要
- ・自治会活動を緊密にしてコミュニケーションを図ることが大事
- ・地域で見守って必要なことを支援する
- ・民生委員に情報をもらう

<経済的支援>

- ・積極的な財政支援が必要
- ・生活費の援助
- ・経済的に苦しいことがほとんどだと思う。支援の手続きを代わりにしてくれる大人が必要
- ・補助金を配ることよりも、かかる費用を減らすことが重要
- ・投資や副業などを教えて、経済的な困窮を防ぐとよい

<家事・介護等の支援・学習支援>

- ・無料で家事や子育てを手伝ってもらえる
- ・金銭的援助ではなく、自治体のサポートとして、家事や育児、介護のサービスを充実することが必要
- ・高齢者介護のように、ヘルパーを派遣
- ・家事や介護に全面的に支援をすることと、家庭のことで勉強に遅れが生じるかもしれないので学習のサポート、普通の学生が行えるような部活やサークルへの参加が出来るようにすること

<専門的人材による支援>

- ・本人だけでなく、家族全体を支えないと変わらない。家族が抱える問題点の本質を見抜けるような専門職が必要。数年で異動しては意味がない
- ・洗脳されている子どもが多いと思うので、カウンセラーは必要
- ・我慢している傾向にあると思うので、聞いてあげられる人材が必要

<家族支援>

- ・こどもに見てもらっている方の福祉の充実が必要
- ・ヤングケアラーになる家庭環境から変えていかねばいけない
- ・どこに相談したらいいのか、相談すると親が悪く言われることがある事が頭の中にあると思う。親の教育も必要では

<支援が難しい、信頼が必要>

- ・対象者が一般の人にわからない場合が多いと思われるので支援に結びつけることが困難
- ・凄く難しい問題だと思うが、だからといって何もしないのは違う。声かけしてもいいのなら声かけするし、役所に相談に行ったらいいのなら相談に行く。具体的に一般人にも分かる手段を教えて欲しい
- ・家の中の事を他人に知られたくない思いがあると思う。信頼をされることが大切

<その他>

- ・声掛けや居場所づくりなどが必要
- ・就業支援
- ・ヤングケアラーの問題だけでなく 老老介護も課題になる。福祉全体に目を向ける必要がある

など

第Ⅳ章 調査のとりまとめ・考察

1. 各調査のとりまとめ

(1) 子ども調査

①「ヤングケアラー」の認知度は昨年度から若干減少

「ヤングケアラー」という言葉を「聞いたことがあり、内容も知っている」割合は、全体で 48.2%となっており、小学生では 20.2%、中学生では 49.4%、高校生では 54.0%～63.6%となっている。昨年度と比べると、全体では 2 ポイント減少しており、高校生（全日制、定時制）では大きな変化はないものの、小学生で 6 ポイント、中学生で 5 ポイント減少している。一方、高校生（通信制）では 18 ポイント増加している。

「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったかについては、小学生では「テレビ」、中学生・高校生では「学校」が最も高くなっている。「学校」は中学生以上では 6 割以上となっている一方、小学生では 4 割となっている。昨年度と比べると全体では「テレビ」が 9 ポイント減少しており、小学生だけでみると 13 ポイント減少している。一方、「学校」は 7 ポイント増加している。学校で「ヤングケアラー」を知った方法として、「ヤングケアラーについてのアンケート」が 54.9%と最も高くなっており、次いで「授業」が 36.3%、「配布されたチラシ」が 44.6%となっている。昨年度と比べて、「授業」は小中学生で 10 ポイント程度減少しており、配布されたチラシは中学生・高校生（全日制）で 10 ポイント程度減少している。

「SNS」は全体で 2 割程度と、昨年度とほぼ同じ割合となっているが、小学生では 4 ポイント程度減少している。一方、高校生（通信制）では 10 ポイント以上増加している。

②「ヤングケアラー」と「ヤングケアラーと思われる子ども」の合計は昨年度とほぼ同程度、あてはまるか「わからない」割合は減少

自分がヤングケアラーに「あてはまる」と回答した子どもは 1.9%、「わからない」と回答した子どもは 5.0%となっており、昨年度（「あてはまる」：1.0%、「わからない」：15.8%）と比べて「わからない」が減少している。また、ヤングケアラーと思われる子ども（「わからない」と回答した子どものうち、「家族のこと」や「自分のために使える時間が少ない」といった悩みや困りごとを抱えている子ども）は 1.2%（昨年度：2.7%）となり、自身がヤングケアラーに「あてはまる」子ども（1.9%）とあわせると、全体で 3.1%となり、昨年度（3.7%）とほぼ同程度となっている。

③ ヤングケアラーは、家族関係や自分の時間が少ないことに関する悩みを抱えている割合が高い

「ヤングケアラー」、「ヤングケアラーと思われる子ども」とともに学年を問わず、「ヤングケアラーではない子ども」に比べて、「自分と家との関係」「家族内の人間関係のこと」「自分のために使える時間が少ない」「病気や障がいのある家族のこと」をあげる割合が高く、中でも、「ヤングケアラーと思われる子ども」は、「ヤングケアラー」と比べて、「自分と家との関係」「家族内の人間関係のこと」「自分のために使える時間が少ない」が高くなっている。

④ ヤングケアラーの健康状態や生活満足度は低い

「ヤングケアラー」や「ヤングケアラーと思われる子ども」はヤングケアラーではない子どもに比べ、自分の健康状

態を「よくない」「あまりよくない」とする割合が高く、特に「ヤングケアラーと思われる子ども」でその割合がたかくなっている。

また、生活満足度の平均値は健康状態と同様に「ヤングケアラー」では低く、「ヤングケアラーと思われる子ども」ではさらに低い。一方で、昨年度と比較すると、「ヤングケアラー」と「ヤングケアラーと思われる子ども」を合わせた生活満足度の平均値は、昨年度の 5.4 点から 6.0 点に微増している。

⑤ 支援を受けている割合は減少。必要な支援は「自分の時間」「相談」「学習サポート」

ヤングケアラーが、家事や家族のお世話を他の人に助けてもらっているかについて、「助けてもらっている」と回答したのは 49.0%と、昨年度（55.9%）に比べて、助けてもらっている割合が低くなっている。

必要としている支援は、ヤングケアラーでは「特にない」が 38.7%と最も高く、次いで「自由に使える時間がほしい」「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」「リフレッシュできる時間や場所がほしい」が 2 割程度と高い。一方、「ヤングケアラーと思われる子ども」では、「リフレッシュできる時間や場所がほしい」が 36.4%と最も高く、次いで「自由に使える時間がほしい」「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」が 3 割前後と高くなっており、「特にない」は 17.5%となっている。

⑥ 学校で大人に相談したことがある子どもは昨年度から増加

この 1 年間で、学校で大人に相談したことがあると回答したのは、全体で 33.1%と、昨年度（36.3%）からやや減少している。いずれの学年も、3 割～3 割 5 分程度となっており、昨年度に比べると小学生で 3 ポイント、中学生で 6 ポイント程度減少している。一方、高校生（通信制）では 7 ポイント程度増加している。

相談しやすい割合は、学級担任が 47.1%、養護教諭が 33.6%、カウンセラーが 24.7%となっており、昨年度とほぼ同じ割合となっている。

⑦ 相談窓口の全体的な認知度は昨年度とほぼ同程度

困ったときやつらいとき、家族のことで不安になったときに相談できる人や場所、相談窓口（電話・SNS など）を知っていると回答したのは、「ヤングケアラー」で 59.7%、「ヤングケアラーと思われる子ども」で 52.5%となっており、約半数程度は相談先がない状況にある。

相談窓口の認知度（「知っており、相談したことがある」「知っているが、相談したことはない」の合計）は、「24 時間電話相談窓口」は 34.4%（昨年度：22.4%）、「相談支援センター」は 25.2%（昨年度：18.8%）、「SNS 相談窓口」は 33.4%（昨年度：21.1%）となっており、いずれも増加している。「相談したことがある」割合はいずれも 1 %程度となっている。

⑧ この 1 年間で、ヤングケアラーについてよく理解できるようになった子どもは 3 割

県でヤングケアラーの啓発の取組を進めているなかで、この 1 年間において、自身や周りの人の意識や行動で変わったと思うことで、「自分が、ヤングケアラーについてよく理解できるようになった」と回答したのは全体で、35.4%（各学年 3～4 割程度）となっている。全体で 2 %（「ヤングケアラー」では 8.6%）が、「自分がヤングケアラーだと気づき、困った時は周りの人に助けを求めてよいとわかった」と回答しており、特に小学生では 3.8%（「ヤングケアラー」では 13.3%）とやや高くなっている。

（２） 県政モニター調査

①「ヤングケアラー」の認知度は昨年度から減少

「ヤングケアラー」という言葉を「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答したのは 63.0%と、昨年度（70.5%）と比較して 7 ポイント減少している。「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した人を合わせると、9 割弱がヤングケアラーという言葉を知ったことがあると回答している。

情報源としては、年代を問わず「テレビ」と回答した割合が 7 ～ 9 割と最も高くなっている。20 代では SNS と回答した人が 3 割と他の年代よりも比較的高くなっている。一方で、「Web サイト」は年代を問わず 2 割程度となっている。

② 周囲にいるヤングケアラーと思われる子どもに気づく割合が増加の一方、どうしてよいか「わからない」も増加。必要だと思う支援は「正しい理解」と「相談窓口」

身の回りに「ヤングケアラー」と思われる子ども（18 歳未満）がいると回答した割合は、家族・親族で 4.0%（昨年度：1.4%）、友人・知人で 6.9%（昨年度：2.8%）と昨年度と比べて微増している。また、「ヤングケアラー」と思われる若者（18 歳以上）がいると回答した割合は、家族・親族で 10.2%、友人・知人で 7.3%となっており、子ども（18 歳未満）よりも高くなっている。その場合に「関係機関に相談する」「本人に様子を聞く」割合が 3 割程度と高い一方で、「わからない」は 26.9%と、昨年度（6.6%）から 20 ポイント程度増加している。

また、ヤングケアラーに必要だと思う支援として、「いつでも気軽に相談できる窓口がある」「ヤングケアラーについて正しく理解する」が 5 割程度と高くなっており、ヤングケアラー（18 歳以上）への支援については、ヤングケアラー（18 歳未満）よりも「困ったときに必要な医療・福祉サービスを利用できる（または利用を相談できる）」「通院や行政の手続きなどに通訳が同行してくれるサポートを受けられる」「公的サービス（介護保険、障害福祉、家事支援など）が現行よりも充実する」が高くなっている。

③ 相談窓口の認知度はいずれも 2 割程度

「24 時間電話相談窓口」「相談支援センター」「SNS 相談窓口」の認知度はいずれも 2 割程度、「相談したことがある」割合は 1 %未満と、昨年度と比べてほぼ同じ割合となっている。一方、相談窓口の見つけやすさは、「24 時間電話相談窓口」で 52.4%と、昨年度（41.2%）と比べて 10 ポイント増加している。その他の窓口は昨年度とほぼ同じ割合となっている。

④ 地域活動において、「見守り・声かけ」「子どもの話を聞く」「関係機関への相談」などの支援ができるという回答の割合が高い

現在参加している活動の中で、ヤングケアラーとの関わりがあるものは、「自治会・町内会活動」（18.7%）が最も高く、次いで「青少年団体の指導・育成活動」（4.5%）となっている。また、今後ヤングケアラーの支援として関われるものは、「自治会・町内会活動」（25.7%）が最も高く、次いで「青少年団体の指導・育成活動」（5.1%）となっている。

また、現在参加している活動において、今後のヤングケアラーに対する関わり方として、「見守り・声かけ」、「子どもの話を聞く・相談にのる」「ヤングケアラーと思われる子どもがいた時に関係機関や相談窓口で相談する」が 4 ～ 5 割と高くなっている。一方、「わからない」も 8.8%いる。

2. 考察

①「ヤングケアラー」の認知度向上と正しい理解の促進

子ども調査においては、ヤングケアラーの認知度は48.2%と昨年度から若干減少しており、特に小学生と中学生で認知度が減少している。「ヤングケアラー」の言葉を知った方法として「テレビ」であると回答した割合が特に小学生で大幅に減少している。「学校」という回答は全体で7ポイント増加しており、うち約5割が「ヤングケアラーについてのアンケート」と回答しており、継続的に実施してきた本アンケート調査自体に啓発効果が見られる。一方で、「授業」は特に小中学生、「配布されたチラシ」は特に中高生で減少しており、学校での啓発の取組が以前よりも効果が見られていない可能性がある。認知度の向上のため、引き続き学校での授業やチラシ配布等による継続的な啓発等の強化が必要であると考えられる。「SNS」は、全体では昨年度と概ね同じ2割程度となっているが、一方、高校生（通信制）では29.2%と、昨年度から10ポイント以上増加しており、認知度が18ポイント程度増加しているひとつの要因となっていると考えられる。

また、今回の調査において、ヤングケアラーにあてはまるかどうか「わからない」と回答した割合が5.0%と、昨年度から10ポイント程度減少し、ヤングケアラーに「あてはまる」子どもは約1ポイント増加、「ヤングケアラーと思われる子ども」は1ポイント減少している。これは、改正子ども・若者育成推進法においてヤングケアラーの定義が「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」と定められたことから、本調査においてもその定義をもとにした「家族の介護その他の日常生活上の世話を必要以上に行っている子どもや若者」という表現に変更したことが大きな理由であると考えられる（令和5年度までは「本来大人がしなければならない家事、家族の世話などを日常的に行っており、自分がやりたいことができない子ども」と定義）。今後の調査において、今年度と同じ定義の設問で数値の変化があるかを確認していく必要がある。

この1年間でヤングケアラーについてよく理解できるようになったと回答した子どもが35.4%おり、ヤングケアラーにあてはまると回答した子どものうちの8.6%が「自分がヤングケアラーだと気づき、困った時は周りの人に助けを求めてよいとわかった」と回答している（特に小学生では13.3%と高くなっている）。認知度自体は昨年度よりも減少しているものの、本県の啓発の取組は一定程度子どものヤングケアラーに関する理解の促進につながっているものと考えられる。

県政モニター調査においては、「ヤングケアラー」の認知度は6割程度、昨年度から減少している。昨年度に引き続き、2割はヤングケアラーについて「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答しており、引き続きヤングケアラーに関する正しい理解を促進していくことが必要となっている。昨年度と比べ、「ヤングケアラー」の認知経路として「テレビ」「新聞」の割合が10ポイント程度減少していることから、報道の量が減少したことが認知度減少の一因であると考えられる。情報源としては20代ではSNSが他の年代よりも高くなっており、様々な媒体での啓発を引き続き行いつつ、Webサイトは年代を問わず2割程度となっていることから、年代を問わずわかりやすい情報発信を行っていくことが必要である。

一般県民は、身の回りに「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合、自治会・町内会活動等において、見守り・声かけ、子どもの話を聞く、関係機関や相談窓口への相談など、何らかの手助けをしたいと考えている人がいる一方、何ができるか「わからない」という回答も1割程度あったことから、地域住民に対するヤングケアラーの正しい理解の促進と、地域に期待する役割などを伝えていくことが求められる。

② 相談しやすい環境づくりと相談先の周知の強化

子ども調査において、相談できる人や場所、相談窓口（電話・SNS など）を知っている「ヤングケアラー」及び「ヤングケアラーと思われる子ども」は5～6割程度となっており、相談先の内子どもが一定数いることがわかる。困ったときやつらいとき、家族のことで不安になったときに相談できる先があることを、支援を必要としている子どもにわかりやすい形で周知していくことが必要となっている。

また、学校で大人に相談した割合は、昨年度から3ポイント程度減少しており、特に小中学生で減少している。学校での大人への相談のしやすさについては、昨年度と比べ、学級担任、養護教諭、カウンセラーいずれも横ばいとなっており、学校において相談しやすい体制や環境づくりをさらに推進していく必要がある。

一方で、ヤングケアラーの相談窓口の認知度は子ども調査において、いずれも昨年度よりも大幅に増加しており、相談先の周知の取組が進んでいることがうかがえる。相談したことがある割合は1%前後となっているため、困りごとや悩みを抱える子どもが相談してみようと思えるようさらなる周知の強化が必要と考えられる。

県政モニター調査においては、相談窓口の認知度は昨年度から大きな変化はなく、より積極的な広報活動が望まれる。

県政モニター調査において、身の回りにヤングケアラーと思われる子どもがいると回答した割合は微増となっており、ヤングケアラーと思われる若者がいると回答した割合はそれよりも多くなっていることから、県民のヤングケアラーに関する意識の向上はみられるが、ヤングケアラーと思われる子どもがいても何をすればよいかわからない人が昨年度から20ポイント増加しており、ヤングケアラーと思われる子ども・若者がいた場合の対応について、さらに啓発を進める必要がある。

③ ヤングケアラーの子ども自身への支援

「ヤングケアラー」や「ヤングケアラーと思われる子ども」は、家族関係や自分のために使える時間が少ないなどの困りごとを抱えており、健康状態や生活満足度がヤングケアラーではない子どもよりも低くなっている。一方で、昨年度調査と比較して生活満足度はやや増加してきており、学校などの子どもの周囲の大人による支援体制やヤングケアラーに関する理解が促進されてきたことにより、子どもが自身の状況を周囲に理解してもらいやすくなったり、助けを求めやすい環境づくりが進んできているものと推察される。

周りの大人に助けてほしいこと・必要な支援は、「ヤングケアラーと思われる子ども」の方が「ヤングケアラー」と認識している子どもよりも、自由に使える時間やリフレッシュできる時間・場所、学習支援のニーズが高くなっている。子どもが自分自身のために時間を使うことができ、必要な遊びや休みの時間を確保することができる環境づくりが引き続き求められている。一方、「ヤングケアラー」と認識している子どもでは「特にない」と回答した割合が最も高くなっており、子ども自身に困り感がなかったり、既に何らかの支援につながっているなどの場合が考えられる。いずれにせよ、支援者側が子どもに必要な支援を決めつけて提供しようとするのではなく、子ども自身の気持ちや意見を尊重しつつ支援を行っていく必要があるものと考えられる。